

岡山市埋蔵文化財センター年報6

2005（平成17）年度

2007年3月

岡山市教育委員会

---

## はじめに

---

平成 17 年度は、昨年度末に旧御津町・旧灘崎町と合併し、新生岡山市として政令指定都市を目指すうえで飛躍の年となりました。また、市政と同様に岡山市の文化財行政も飛躍の年となりました。

今年度より、旧御津町・旧灘崎町指定文化財の再調査が実施されその成果が待たれるところです。

また、私たちが文化財保護行政を遂行するにあたってそのよりどころとする文化財保護法の抜本的改正論が浮上し、全国の地方自治体にも少なからず影響がでることでしょう。岡山市としても岡山市文化財保護条例の改正等新しい時代の変化に対応する必要があります。

特に深刻な問題として、最近では、財団法人かながわ考古学財団の運営をめぐる波紋が首都圏を中心に広がり、その存在意義の再確認と運営機構の明確化が急がれます。

そして、政府が推奨している指定管理者制度や市場化テストの導入は、文化財を保護・保存・活用するのは誰かということを実践的に考えさせられるものです。先の例を見るまでもなく、文化財保護行政もスリム化と意識改革が求められているのです。

今年度は、平成 17 年 3 月 2 日に国指定史跡に指定された大廻小廻山城の記念シンポジウムの開催や医王谷古墳群・同遺跡、大伴表町遺跡、南坂 15 号墳、南方（済生会）遺跡、上沼遺跡、岡山城二の丸跡等の発掘調査のほかマンション建設等の立会、それに伴う出土遺物の整理・収蔵、発掘成果の展示公開、調査報告書（彦崎貝塚、川入・中撫川遺跡、南坂 8 号墳・一国山城・一国山古墳群）の刊行等の事業を実施できました。史跡岡山城跡・史跡賞田廃寺跡・史跡大廻小廻山城跡の歴史的環境整備事業も着実に進展しています。また、待望の調査報告書が刊行されたことにより、彦崎貝塚の史跡指定へ向けた新しい展開が大いに期待されるところです。

当センターのこれらの事業を通し、埋蔵文化財の保護・保存・活用へ理解が得られ、加えてその充実に努めてまいります。

本年報も 6 冊目となります。平成 17（2005）年度に岡山市が取り組んできた埋蔵文化財保護行政の概要報告、止むを得ず記録保存の措置をとらざるを得なかった遺跡の速報や貴重な文化財の資料紹介が掲載されています。本書が学術研究の一助としてだけでなく、広く埋蔵文化財の保護・保存・活用に寄与されることを願っています。

最後になりますが、当センターの運営と事業の実施にあたり、ご理解・ご協力を賜りました多くの皆様方に深甚の謝意を申し上げます。

平成 19 年 3 月 31 日

岡山市教育委員会

文化財課 課長 平松省三

---

## 例 言

---

1. 本書は、岡山市教育委員会文化財課・岡山市埋蔵文化財センターが平成 17（2005）年度に実施した岡山市埋蔵文化財保護行政の概要報告である。
2. 本書の執筆は、各担当者が分担し、執筆者名を明記している。なお、執筆者によって表記方法が一部異なる部分があるが、統一はしていない。
3. 第Ⅱ章は、整理途中の遺跡もあり正式な報告書の刊行により訂正される場合がある。
4. 遺物の整理や実測、図の作成にあたっては、多くの方々のご尽力を賜った。関係各位に厚くお礼申し上げます。
5. 本書の編集は、岡山市埋蔵文化財センター文化財保護主事 田嶋正憲が担当した。

---

## 目 次

---

I 埋蔵文化財センターの組織と事業の概要	1
II 発掘調査等の概要	9
III 埋蔵文化財保護等に関する協議・調査	27
IV 南方遺跡出土の炭化種実の同定	40
V 操南連絡所庁舎の記録調査	42
VI 政田民俗資料館の収蔵資料－水越し甕と濾過槽－	59

# I 岡山市埋蔵文化財センターの組織と概要

## 1. 施設の概要

〔鉄筋コンクリート3階建〕

敷地面積：2442.85 m<sup>2</sup> 建築面積：845.09 m<sup>2</sup> 延床面積：1895.79 m<sup>2</sup>

1階：747.15 m<sup>2</sup> 2階：736.34 m<sup>2</sup> 3階：412.30 m<sup>2</sup>

〔主要部屋面積〕 1537 m<sup>2</sup>

●公開スペース	207 m <sup>2</sup>	●事務スペース	93 m <sup>2</sup>
展示室	165 m <sup>2</sup>	事務室	44 m <sup>2</sup>
収蔵展示室	36 m <sup>2</sup>	会議室	49 m <sup>2</sup>
図書コーナー	6 m <sup>2</sup>	●研究スペース	198 m <sup>2</sup>
●作業スペース	194 m <sup>2</sup>	研究室・図面整理室	90 m <sup>2</sup>
遺物整理室	105 m <sup>2</sup>	書庫	81 m <sup>2</sup>
水洗室	24 m <sup>2</sup>	写場	27 m <sup>2</sup>
鉄器処理室	26 m <sup>2</sup>	●収蔵スペース	845 m <sup>2</sup>
木器処理室	21 m <sup>2</sup>	特別収蔵庫	29 m <sup>2</sup>
仮収蔵庫	18 m <sup>2</sup>	収蔵庫	816 m <sup>2</sup>

開館 平成12年4月18日

展示室の公開

月曜日から土曜日（国民の祝日に関する法律に規定する休日及び年末年始の休日を除く）

公開時間

午前9時から午後4時30分まで



施設外観

## 2. 岡山市埋蔵文化財センターの組織

岡山市教育委員会

文化財課

課長 根木 修  
 文化財専門監 出宮徳尚  
 文化財副専門監 乗岡 実  
 主任 草原孝典  
 文化財保護主事 安川 満  
 主事 柿本貴子  
 嘱託 都井京子

岡山市埋蔵文化財センター

所長 （出宮文化財専門監事務取扱）  
 文化財副専門監 神谷正義  
 主任 長谷川一英  
 主任 扇崎 由  
 主任 高橋 伸二  
 文化財保護主事 河田 健司  
 文化財保護主事 田嶋 正憲  
 文化財保護主事 西田 和浩  
 嘱託 木村 真紀  
 嘱託 石井亜希子

### 3. 事業の概要

#### 平成 17 年度月別来館者数

平成 17 年度は開所 6 年目となるが、来館者は、平成 16 年度に比べ 165 人増加した。月平均 44 人が来館している。



館内の様子

#### 来館者数

年・月	H17・4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H18・1月	2月	3月	計
人	13	8	124	65	21	28	91	16	26	5	85	51	533

#### 資料の貸出

遺跡名等	資料名	点数	貸出期間	貸出先	事由
	旧鐘撞堂時鐘	1	16. 6. 14~16. 6. 20	岡山市長	「岡山戦災の記録と写真展」
岡山城本丸中の段	金箔おし瓦	3	17. 7 中旬~17. 9 月上旬	岡山県立博物館	平成 17 年度夏季展「岡山の三名城」
岡山城二の丸(中国銀行)跡	金箔おし鬼瓦	1			
岡山城本丸中の段	鬼瓦	3			
	桐紋軒丸瓦	2			
	揚羽蝶紋軒丸瓦	2			
	国産陶磁器	14			
	月見櫓軒平瓦	4			
岡山城二の丸(中電変電所)跡	月見櫓軒丸瓦	3			
岡山城二の丸(中電変電所)跡	将棋駒	1			
南方(済生会)遺跡	イノシシ下顎骨出土状況写真(パネル)	1	17. 7. 7~17. 7. 31	鳥取県教育委員会	青谷上寺地遺跡展示館展示
彦崎貝塚	縄文土器	14	17. 8. 27	岡山県古代吉備文化財センター	「大地からの便り2005-県内の発掘調査報告会-」及び岡山県古代吉備文化財センター企画展
	石製品	16			
	骨角製品	12			
	土製品	1			
	獣骨・貝類	20			
	発掘調査写真資料(35mm)	3			
岡山城本丸中の段	発掘調査写真資料(4×5)	2	17. 9. 14~17. 10. 31	財団法人広島市文化財団	企画展「城郭研究の最前線」(仮称)
	軒丸瓦(金箔瓦)	1			
	滴水瓦(金箔瓦)	1			
	鳥衾(金箔瓦)	1			
	軒平瓦(金箔瓦)	1			
足守文庫	軒丸瓦(金箔瓦)	1	17. 12. 23~18. 2. 5	NHK事業局	大河ドラマ『功名が辻』特別展「山内一豊とその妻」
	洗足桶	1			
岡山城跡	泔杯台	1		岡山市デジタルミュージアム	岡山市デジタルミュージアムの展示
	本丸出土金箔瓦	7			
	本丸出土陶磁器類	1			
岡山城二の丸(中国銀行)跡	本丸出土魚骨・貝類	5			
旧栄町鐘撞堂	金箔瓦	20			
造山古墳	瓦(渡辺知水収蔵資料・岡山市中央図書館旧蔵)	4			
天瀬遺跡	田筒埴輪(旧高松中所蔵品)	1	17. 10. 1~18. 3. 31	岡山県立吉備路郷土館	常設展示
史跡大廻小廻山城跡	竜を描いた器台	2	17. 12 月上旬~18. 3. 中旬	岡山県立博物館	平成 17 年度特別展「吉備の渡来文化-渡り来た人々と文化-」
	須恵器 壺	4			
	須恵器 杯蓋	1			
	調査時の写真	4			

史跡賞田廃寺跡	軒丸瓦(4類)	1	17. 12月上旬～18. 3. 中旬	岡山県立博物館	平成17年度特別展「吉備の渡来文化ー渡り来た人々と文化ー」
	軒平瓦(2A類)	1			
川入・中撫川遺跡	軒丸瓦(奥山久米寺跡)	1	18. 4. 3～18. 6. 23(遺物) 17. 12. 27～18. 4. 28(写真)	滋賀県安土城考古博物館	平成18年度春季特別展『吾、天下を左治すー大王と豪族ー』
岡山市灘崎歴史文化資料館	かた板	1	18. 1. 7～18. 3. 31	岡山市デジタルミュージアム	岡山市デジタルミュージアム展示
	うなぎかき	1			
	うなぎおけ	1			
政田民俗資料館	かぶと鋤簾 (No, 26 A5-2、市指定重要有形民俗文化財)	1	18. 1. 7～18. 3. 31	岡山市デジタルミュージアム	岡山市デジタルミュージアム展示
	箱鋤簾 (No, 151 A5-7、市指定重要有形民俗文化財)	1			
	つる桶 (No, 148 A5-8、市指定重要有形民俗文化財)	1			
	写真パネル(堀田替作業風景・展示解説用)	3			
造山古墳	円筒埴輪	1	18. 4. 1～19. 3. 31	岡山県立吉備路郷土館	常設展示
造山第2号古墳	円筒埴輪	1			
津寺(加茂小)遺跡	弥生土偶	1	18. 4. 10～18. 7. 12 18. 3. 15～18. 4. 28(写真)	大阪府立弥生文化博物館	平成18年度春季特別展「弥生画帖ー弥生人が描いた世界ー」
新庄尾上遺跡	壺(寄棟建物の絵画土器)	1			
天瀬遺跡	器台(竜の絵画土器)	3			
新庄尾上遺跡	壺(鳥装人物の絵画土器)	1			
南方(済生会)遺跡	用途不明板製品(絵画彫刻)	1			
南方(済生会)遺跡	剣形木製品	1			
津島江堂(岡北中)遺跡	壺(狩猟場の絵画土器)	1			
津寺(加茂小)遺跡	弥生土偶写真	1			
新庄尾上遺跡	壺(寄棟建物の絵画土器)写真	1			
天瀬遺跡	器台(竜の絵画土器)写真	1			
新庄尾上遺跡	壺(鳥装人物の絵画土器)写真	1			
南方(済生会)遺跡	用途不明板製品(絵画彫刻)写真	1			
南方(済生会)遺跡	剣形木製品写真	1			
津島江堂(岡北中)遺跡	壺(狩猟場の絵画土器)写真	1			
北方長田(水質試験所)遺跡	器台と壺	1式	18. 4. 1～19. 3. 31	岡山市水道局配水部水質試験所長	常設展示

## 掲載許可等

許可日	遺跡名	資料名	点数	依頼主	許可誌等
17. 6. 16	南方(済生会)遺跡	黒漆塗りジョッキ	1	株式会社 里文出版	『漆の美ージャパンとjapan』(仮題)
17. 7. 9	南方(済生会)遺跡	分銅形土製品(高床式倉庫の描かれたもの)	1	株式会社 吉備人	『沼遺跡と美術の弥生集落』(吉備考古学ライブラリ11巻)
17. 8. 5	花房家資料	伝豪姫所用小袖下小布紺地松竹梅図小袖裂	1	株式会社 JAF出版社	『ゆとりの旅 日本の文化遺産』(仮)
17. 8. 9	南方(済生会)遺跡	盾	1	尼崎市教育委員会	尼崎市立田能資料館特別展「弥生の戦い」の図録・チラシ・パネル・ポスター等
17. 8. 24	岡山城本丸中の段	軒瓦(金箔瓦)組合せ	1	財団法人広島市文化財団	企画展「城郭研究の最前線」(仮称図録・チラシ・パネル・ポスター等広報用印刷物)
		鳥衾(金箔瓦)	1		
		桐紋軒丸瓦(金箔瓦)	1		
		軒平瓦(金箔瓦)	1		
17. 8. 25	造山古墳	航空写真	1	株式会社 小学館	司馬遼太郎・林屋辰三郎著『歴史の夜咄』
17. 9. 8	倉安川吉井水門	写真	3	株式会社エム・プラスコンベンション	「荒川ロックゲート完成記念式典」併催イベント

17.9.12	新庄尾上遺跡	絵画土器	1	前原市教育委員会教育長	平成17年度秋季企画展『伊都国動物ふれあい展～倭人の見た動物たち～』の解説パネル・図録類
	南方(済生会)遺跡	イノシシ下顎骨出土状況	1	伊都国歴史博物館館長	
17.9.30	備中高松城跡	(本丸)写真	1	株式会社メディアユニオン	『司馬遼太郎の「城」紀行』(仮称)
		全景(高松城趾公園)写真	1		
	備中高松城水攻築堤跡	写真	1		
	最上稲荷全景	写真	1		
17.10.13	岡山城跡	本丸発掘調査検出遺構	35	岡山市デジタルミュージアム	岡山市デジタルミュージアムの展示及び情報端末、ウェブページ
		本丸出土遺物	18		
	岡山城二の丸(中国銀行)跡	発掘調査検出遺構	5		
	岡山城三之曲輪跡	検出遺構	3		
	南方(済生会)遺跡	発掘調査検出遺構	7		
		出土木製品	5		
造山第2号古墳・第4号古墳	出土埴輪	2			
北方中溝遺跡	水田遺構	4			
17.10.18	乙子城跡	航空写真	1	個人	歴史倶楽部募集パンフレット『遙』
	亀山城(沼城)跡	航空写真	1		
	明禪寺城跡	写真	1		
	岡山城跡	写真	1		
17.11.1	御裁許絵図	備前備中国境并海面御裁許絵図	1	株式会社岡山日日新聞社	岡山日日新聞11月4日付「ワイド岡山」
17.11.4	足守文庫	道中風呂	1	株式会社エディターズ	『まっぶるマガジン岡山 2006』
		洗足桶	1		
		泔坏台	1		
	近水園(吟風閣)		1		
17.11.7	千足古墳	石障直弧文	1	株式会社学生社	ドイン展記念概説『日本の考古学』上下2巻
17.11.7	彦崎貝塚	具層断面	1	個人	吉備考古学ライブラリー『吉備の縄文時代』吉備人出版
		遠景	1		
17.11.17	花房家資料	宇喜多秀家(久福)連署状(花房志摩守宛)	1	南海タイムス社	『南海タイムス』
		宇喜多秀家(久福)連署状(豊作十宛)	1		
		宇喜多秀家書状	1		
17.12.14	津寺(加茂小)遺跡	人形(レプリカ)	1	有限会社 住友和子編集室	INAXギャラリー『レプリカ～真似るは学ぶ～』
17.12.20	造山古墳	航空写真	1	株式会社 ランズ	株式会社平凡社編『日本通史～別巻・歴史絵巻』
18.1.13	足守文庫	道中風呂	1	株式会社アス	『オセラ』20号 『月刊タウン情報おかやま』3月号
		足洗桶	1		
		泔坏台	1		
	近水園(吟風閣)	写真	1		
18.2.3	足守文庫	備中足守藩吉田家弓術文書	1括	山陽新聞社	山陽新聞朝刊文化面
18.2.9	造山古墳	航空写真	1	毎日新聞社岡山支局	平成18年2月15日刊「毎日新聞」岡山県内版紙面
18.3.2	岡山城本丸中の段	桐文軒丸瓦と滴水系唐草文軒平瓦	1	株式会社碧水社	学習研究社『よみがえる日本の城 城の歴史2』
18.3.7	史跡貫田廃寺跡	西塔基壇写真	1	岡山県古代吉備文化財センター	『発掘/高島のむかしII』
		2様式軒丸瓦・軒平瓦	1		
	ハガ遺跡	羊形硯	1		
18.3.9	史跡神宮寺山古墳	航空写真	1	株式会社アス	『オセラ』21号
18.3.9	彦崎貝塚	出土資料の放射性炭素14年代測定結果等		学術総政研究「弥生農耕の起源と東ア学術総政研究「弥生農耕の起源と東アジア」研究代表 国立歴史民俗博物館 研究部 教授	
18.3.14	花房家資料	伝豪姫所用小袖下小布紺地松竹梅園小袖裂	1	株式会社 ランズ	日本通信教育連盟発行『日本通史～別巻・歴史絵巻』
18.3.24	高松城水攻め築堤跡(蛙ヶ鼻築堤跡)	写真	1	山陽映画株式会社	国土交通省岡山国道事務所ホームページ
18.3.24	日近醫王谷遺跡	日近醫王谷古墳調査状況	1	株式会社ジャパン通信情報センター	『文化財発掘出土情報』2006年5月号
		銀環出土状況	1		
18.3.24	史跡大廻小廻山城跡	一の木戸石墨	1	岡山県備前県民局	岡山県備前県民局エリア案内刊行パンフレット
		航空写真	1		

## 資料調査

氏名	所属	資料名
山本悦世	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	津島江道遺跡 突帯文土器
小濱 学	斎宮歴史博物館	彦崎貝塚 縄文土器・石器
高田 倫子	神戸大学大学院	報告書
大賀克彦	島根県古代文化センター	宗形神社古墳 玉類
		(伝)千足古墳 玉類
		南方遺跡 玉類
		塚段古墳群 玉類
柳田康雄		南方釜田遺跡 銅剣
		南方(市道) 銅剣
田崎博之	愛媛大学	吉野口遺跡 縄文土器
宇田津徹郎	宮崎大学	吉野口遺跡 縄文土器
森本伊知郎	椋山女学園大学	岡山城三之曲輪

## 視察

年 月 日	機関名	人数	目的
H17.12.15	三木市役所	8	行政視察
H17.12.21	新市郷土資料館	6	行政視察

## 主な発掘調査

平成17年度に実施した主要な発掘調査は下記のとおりである。

- 南坂15号墳他 岡山市下足守  
平成17年5月16日～9月2日
- 大供本町遺跡 岡山市大供本町  
平成17年5月9日～平成18年3月24日
- 五反地・国長遺跡 岡山市高島新屋敷123  
平成17年6月22日～平成17年7月29日
- 上沼(吉備病院)遺跡 岡山市高松古才584-1  
平成17年8月1日～8月6日
- 南方(済生会)遺跡 岡山市国体町  
平成17年9月1日～10月24日
- 醫王谷古墳・醫王谷遺跡 岡山市日近767ほか  
平成17年10月5日～12月5日
- 原尾島遺跡 岡山市原尾島850-3、850-4  
平成17年11月1日
- 岡山城二の丸跡 岡山市内山下1-14-103ほか  
平成17年12月9日

## 現地説明会

平成17年度は、二ヶ所の遺跡で現地説明会を開催した

- 醫王谷古墳・醫王谷遺跡  
平成17年11月26日 参加者約200人
- 大供本町遺跡  
平成18年3月11日 参加者約200人





醫王谷古墳・醫王谷遺跡（写真）



大供本町遺跡（写真）

### 埋蔵文化財発掘調査速報展

平成3年より、文化の日を中心とする文化財保護強調週間（11月1日～7日）にあわせ、前年度の調査成果を紹介する埋蔵文化財速報展を開催している。

期間 平成17年10月31日（月）～11月22日（日）

場所 岡山市役所1階市民ホール、御津町郷土館、灘崎町歴史文化資料館

内容 南坂8号墳、一国山城・一国山古墳群、東岡山（市道）遺跡、彦崎貝塚、熊谷城跡、兼基遺跡、

### 埋蔵文化財発掘調査報告会

期日 平成17年11月5日（土）

場所 岡山市埋蔵文化財センター

内容 速報展で展示した遺跡のスライド写真による紹介と出土品の解説

### 職場体験学習の受け入れ

当センターでは、市内中学校の職場体験学習に協力し、生徒を受け入れている。平成17年度は、岡山市立高島・高松中学校生徒が来館し、出土品の整理作業を体験した。

### 報告書等の刊行

『彦崎貝塚－範囲確認調査報告書－』

『南坂8号墳・一国山城・一国山古墳群－下足守地内遺跡発掘調査等事業に伴う発掘調査－』

『川入・中撫川遺跡－吉備中枢地における港湾遺跡の発掘調査報告－』

『国指定記念シンポジウム記録 大廻小廻山城跡の謎に迫る－吉備最大の古代山城－』

『岡山市埋蔵文化財センター年報』5 2004（平成16）年度

『政田民俗資料館収蔵資料目録』

## ホームページの公開

平成 13 年度に開設された。施設案内及びデータベースのほか、メニューは「今月の一品」、「発掘調査情報」、「現地説明会資料」、「速報展示資料」等充実したコンテンツを用意している。

## ○センターの案内

「来館案内」 センターの場所や会館情報を掲載。

「施設案内」 センターの構造や施設、設備を紹介。

「展示案内」 展示室の様子を紹介。岡山市のネットミュージアム「リットシティミュージアム」で公開しているセンター展示室の3D映像へのリンクも併設。

(URL) <http://www.city.okayama.okayama.jp.museum.maizou/>

## ○センターの仕事

「センターの業務」 センターの業務内容の紹介。

「出版物案内」 センターおよび岡山市教育委員会文化財課が刊行している、発掘調査報告書等の文化財関係出版物の紹介と案内

## ○もっと知りたい

「Q&Aコーナー」 センター等に寄せられた質問等に回答するページ。

「リンクのコーナー」 岡山市教育委員会文化財課や文化財関連施設、県内の発掘調査機関等のサイトへのリンク集。

## ☆発掘調査情報

「発掘調査情報」 現在実施中の発掘調査の情報。平成 17 年度は、下記遺跡を紹介した。

◎ 醫王谷古墳群・醫王谷遺跡 岡山市日近

◎ 大供本町遺跡 岡山市大供本町

◎ 南坂 8 号墳 岡山市下足守

「現地説明会資料」 これまで開催した発掘調査の現地説明会資料等を HTML 形式で掲載。

「速報展資料」 岡山市役所 1 階、御津町郷土館、灘崎町歴史文化資料館で開催した平成 17 年度発掘調査速報展の資料を掲載した。

## ☆収蔵品紹介

「今月の一品」 収蔵品の中から紹介している。平成 17 年度は、下記 12 件を紹介した。

第 49 回 川入・中撫川遺跡出土 井戸杵

第 50 回 五輪塔

第 51 回 伊万里焼色絵皿（古九谷様式）

第 52 回 伊万里焼染付皿

第 53 回 石錐

第 54 回 賞田廃寺跡出土基壇化粧石

第 55 回 備前焼甕棺

第 56 回 西祖橋本遺跡出土備前焼大甕

第 57 回 賞田廃寺跡出土凝灰岩製擦管

第 58 回 賞田廃寺跡出土線刻丸瓦

第 59 回 賞田廃寺跡出土瓦経その 2

第 60 回 醫王谷古墳群出土銀環

☆岡山市の主要古墳（試作版）岡山市域に所在する主要な古墳 32 基を紹介している。

☆岡山市の発掘調査 岡山市教育委員会が 1968 年度以降実施した調査リスト。

(URL) <http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/maibun/>

#### 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会

平成 13 年度に加入

平成 17 年度は下記の会議に出席した。

平成 17 年度総会

平成 17 年 5 月 19・20 日 香川県高松市

中四国九州沖縄ブロック会議

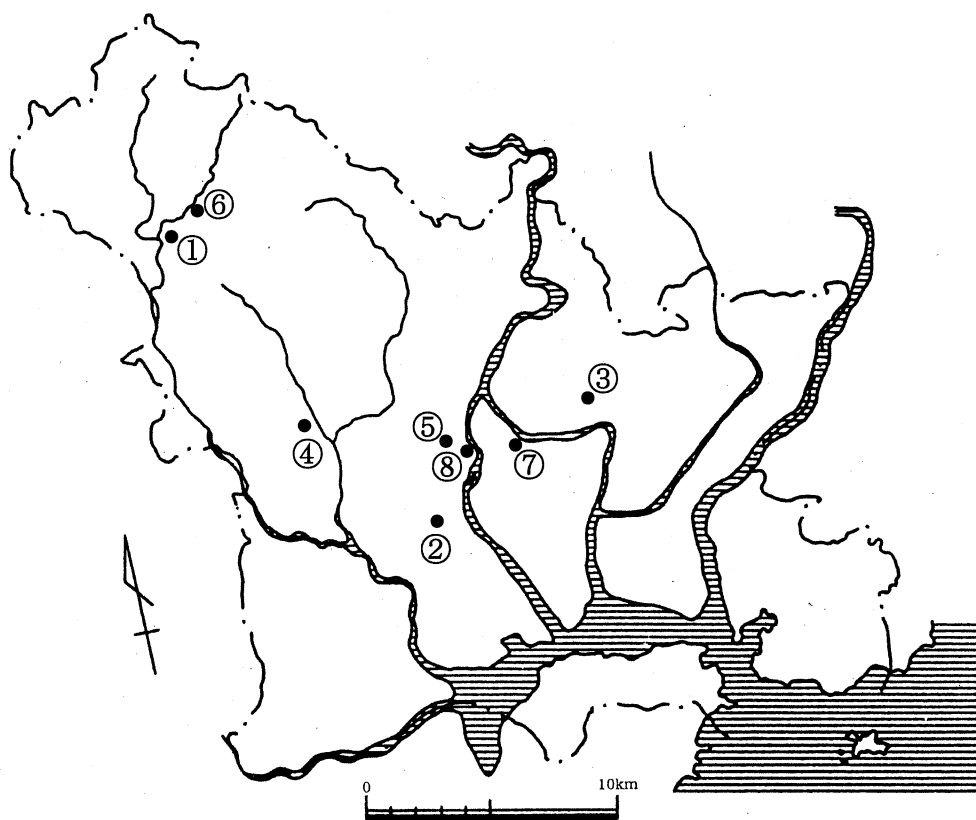
平成 17 年 9 月 8・9 日 福岡県福岡市

第 18 回研修会

平成 17 年 11 月 24・25 日 福井県あわら市ほか

## II 発掘調査の概要

① 南坂 15 号墳他	10
② 大供本町遺跡	13
③ 五反地遺跡・国長遺跡	17
④ 上沼（吉備病院）	18
⑤ 南方（済生会）遺跡	20
⑥ 醫王谷古墳・醫王谷遺跡	22
⑦ 原尾島遺跡	25
⑧ 岡山城二の丸跡	26



(市域は平成 16 年度のもので)

## 南坂 15 号墳他

所在地 岡山市下足守  
調査原因 土砂採取  
時代 弥生時代・古墳時代

調査期間 050516～050902  
調査面積 600 m<sup>2</sup>  
担当者 河田健司・西田和浩

### 遺跡の概要

当該地は、西に足守平野を見下ろす、北に延びる尾根上に位置する。今回土砂採取の対象となった地点は南坂古墳群に含まれる地域であり、南坂 15 号墳・16 号墳が確認されている。この他、対象地の尾根上には人為的な平坦面がみられるなど、さらなる未確認の古墳の存在が予想された。調査の結果、15 号墳・16 号墳とともに、小規模な円墳 1 基 (26 号墳)・方墳 3 基 (24 号墳・25 号墳・27 号墳)・土器棺墓 1 基を発見し、発掘調査を行った。

### 調査の概要

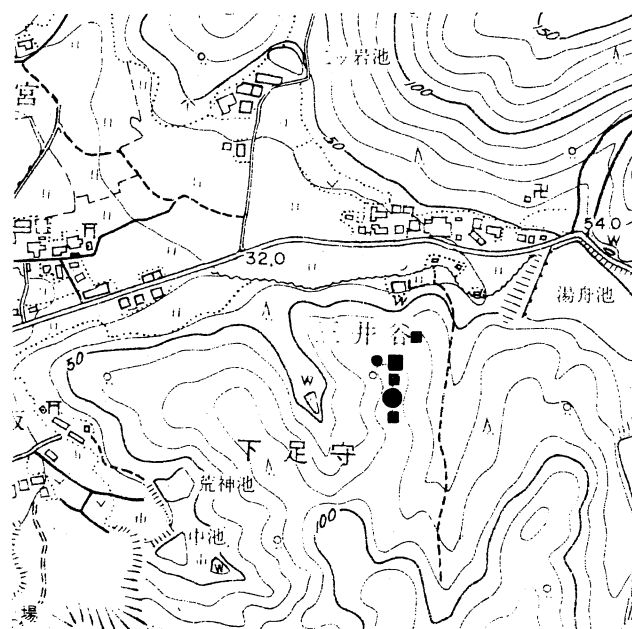
南坂 15 号墳 標高約 84m に位置する。東西

7 m、南北 10 m、残存高は約 0.6 m である。地山削り出しの方墳と考えられる。墳丘中央には木棺直葬とみられる埋葬施設が確認された。規模は長さ 2.3 m、幅 0.7 m を測る。副葬品等は出土していない。

南坂 16 号墳 標高約 85 m に位置する。東西 7.5 m、南北 6 m を測る、地山削り出しの円墳で、楕円を呈する。墳頂部から未盗掘とみられる埋葬施設を 3 基確認した。最も北に位置する埋葬施設 (主体部 1) は箱式石棺で、規模は長さ 2 m、幅 0.5～0.7 m を測る。石棺は板石を囲った後、土砂の流入を防ぐために隙間に粘土を充填する。さらに頭部の側石には石棺の強度を増すためか、外側から角礫で石棺を挟み込んでいる。蓋石は 1 m 角の板石を 2 枚使用しており、ここでもまた石棺と板石の間に粘土を充填し、石棺内を外界と遮断している。板石を置いた後、墓壙内に互層状に埋土を重ねて完成する。このような丁寧かつ念入りに行われた封印の結果、石棺内からは頭蓋骨を赤色顔料で真っ赤に染めた、保存状態の良好な女性人骨が 1 体、頭部を東に向けた状態で出土した。中央の埋葬施設 (主体部 2) は上半部を粘土で被覆していた。その内部には長さ約 3.1 m、幅約 0.6 m の木棺が安置されていたと考えられる。最も南の埋葬施設 (主体部 3) は長さ約 2 m、幅約 0.4 m の木棺直葬と考えられる。丁寧な造りの埋葬施設とは裏腹に、これら 3 つの埋葬施設には、副葬品等が全く伴っていなかった。

南坂 24 号墳 16 号墳の南に隣接する。東西 5 m 以上、南北 7 m を測る。地山削り出しの方墳である。墳頂部に埋葬施設を確認した。長さ約 3 m、幅約 0.6 m の木棺直葬と考えられる。副葬品等は確認されていない。南の墳端付近から古墳時代中期の高杯がまとまって出土しており、本墳に供献された可能性がある。

南坂 25 号墳 16 号墳の北に隣接する。東西 5 m 以上、南北 7 m を測る。地山削り出しの方墳である。墳頂部で確認した埋葬施設は、上半部を粘土で被覆しており、内部に木棺が存在していたものとみられる。副葬品等は確認されていない。



調査位置図

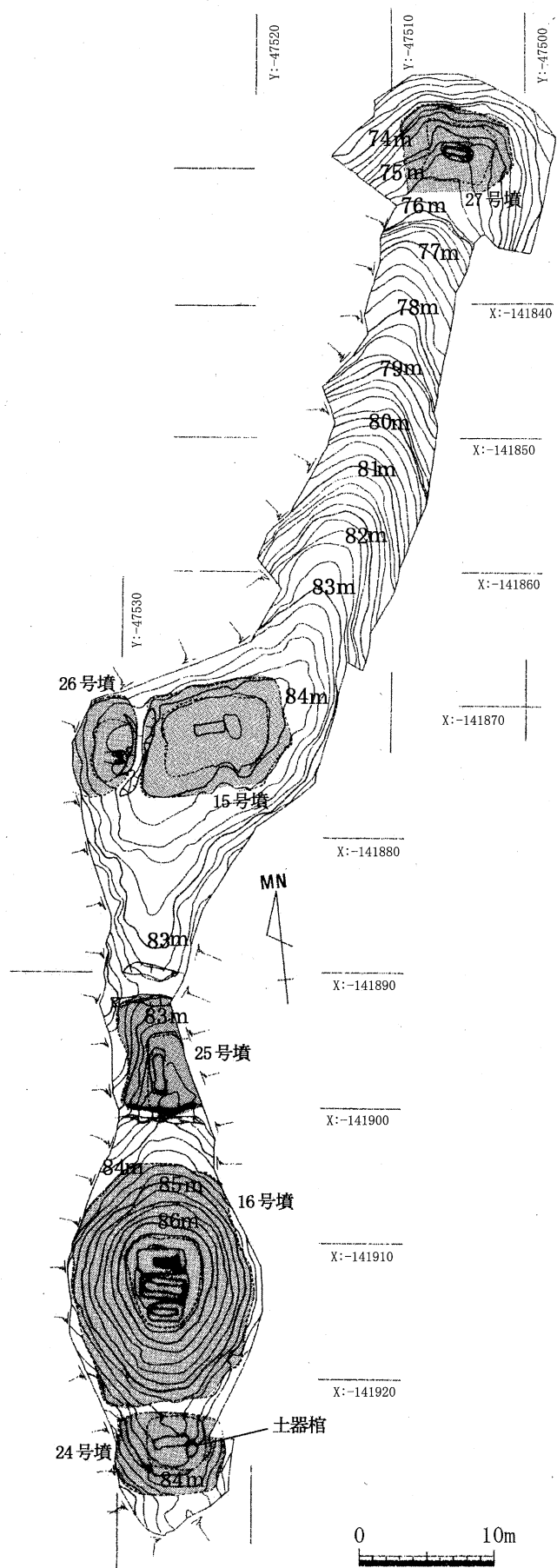
南坂 26 号墳 15 号墳の西に隣接する。東西約 5 m、南北約 7 m を測る。地山削り出しの南北に長い円墳である。墳頂部の南よりに、壊れた箱式石棺とみられる遺構を確認した。遺構内から遺物は出土していない。また、26 号墳と 15 号墳の間に、浅い溝状の遺構を確認した。この遺構およびその周辺から須恵器片が多数出土した。

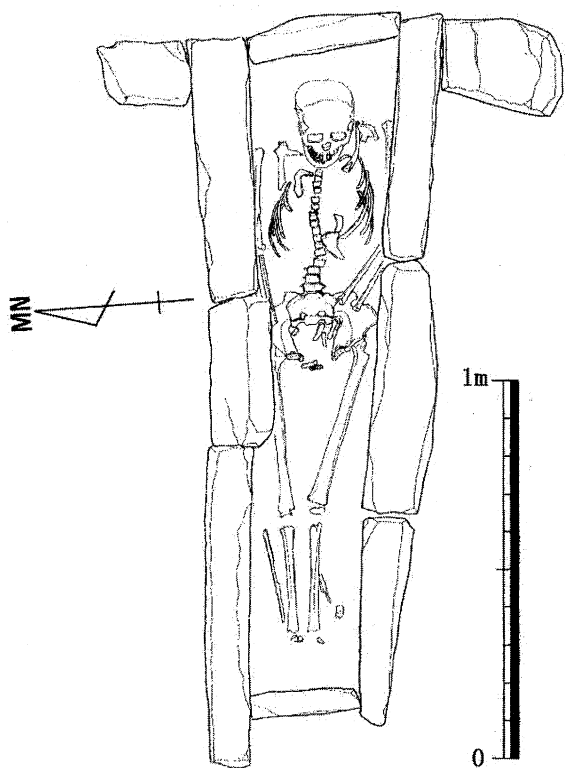
南坂 27 号墳 調査区の北端に位置する。東西約 9 m、南北約 6.4 m を測る。地山削り出しの方墳である。墳頂部には長さ約 2 m、幅約 0.6~0.9 m の箱式石棺が確認された。石棺は側石が一部崩れかけていたものの、内部から男性人骨 1 体と鉄剣が 2 本出土した。

土器棺 24 号墳の墳丘上で確認された。1.2×0.8 m の掘り方に、器高 0.8 m の壺が埋納されていた。壺の時期から古墳時代前期の土器棺であると考えられる。24 号墳の供献土器と土器棺の年代に開きがあるため、遺物年代関係からみると土器棺を意識して 24 号墳が築造されたとは言い難い。

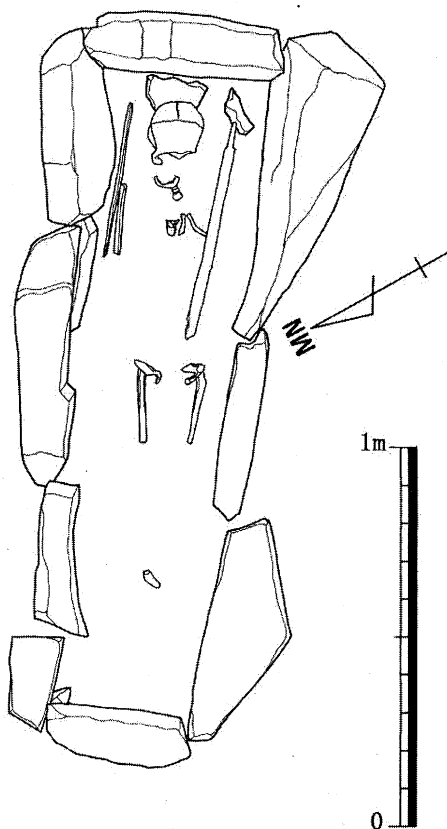
### まとめ

今回は南坂古墳群内の一尾根上に築かれた支群をまとめて調査することとなり、当古墳群の性格の一端が明らかになったといえる。未盗掘の主体部を確認したにもかかわらず今回の調査においても、過去に調査した南坂 8 号墳同様、副葬品はほとんどみられることはなかった。この点は南坂古墳群の特徴の一つといえるだろう。

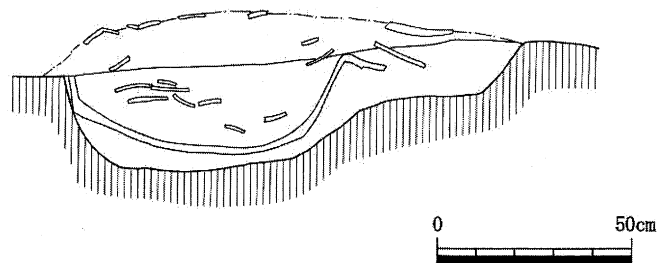
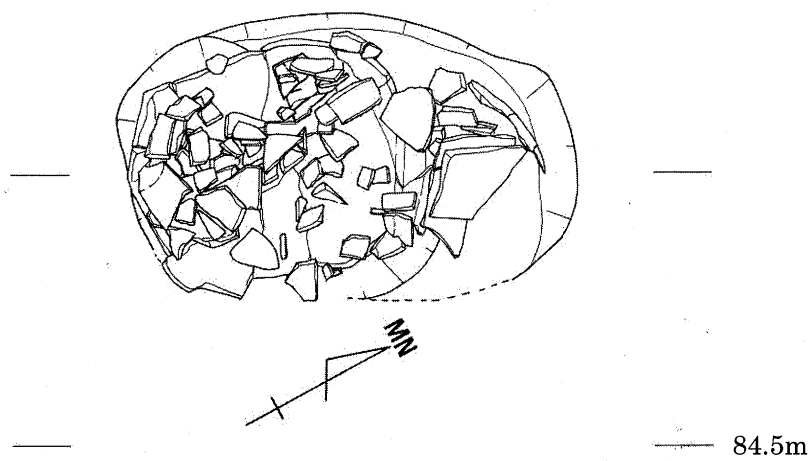




16号墳 主体部1 (S=1/20)



27号墳 主体部1 (S=1/20)



土器棺 (S=1/20)

# 大供本町遺跡

所在地 岡山市大供本町  
調査原因 市道建設  
時代 弥生～江戸時代

調査期間 050509～060324  
調査面積 1,724 m<sup>2</sup>  
担当者 長谷川一英・高橋伸二・河田健司・西田和浩

**遺跡の概要** 大供本町遺跡は旭川右岸平野に位置する。調査地点の東側には鹿田遺跡があり、藤原氏の有力荘園である鹿田荘に関連する遺構をはじめ、弥生時代の住居跡なども確認されている。当調査地も周辺の地割りなどから推定して鹿田荘の一角を占めるものと考えられており、関連する遺構の検出が期待された。

**調査の概要** 今回の調査は道路建設に伴うものであり、調査区は幅約 15m、南北の長さ 140m にわたる。途中で既存の道路や水路を横断するため、その都度調査区を分割したため 6 区の調査区を設定した。また、各調査区とも調査着手以前は住宅もしくは水田であったため、大半が遺構上面の削平を受けており、耕作土もしくは造成土を除去すると基盤土が検出されるという状況であった。

検出された遺構は中・近世から平安時代までの時期にまたがる。また、明確な遺構に伴わないものの各調査区で弥生土器が少量出土した。

平安期の遺構として確認できるものは I 区と II 区そして V 区で検出された下層の溝と井戸である。

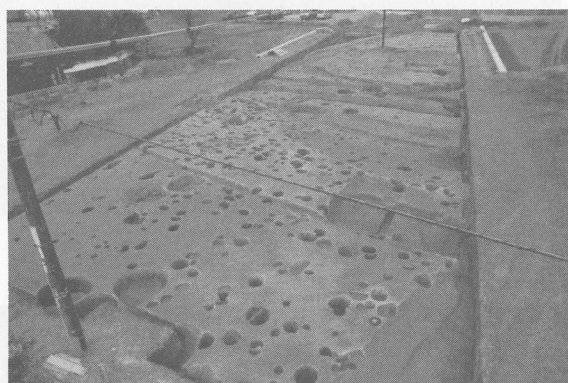
遺物は須恵器、土師質土器、緑釉陶器などが出土した。柱穴については遺物に乏しく、平安期の建物を明確にしえないが、周辺の中世溝からも平安期の緑釉陶器、輸入磁器、瓦片などが混入することから平安期は居館や役所などの施設が存在していたことが推察される。

中世の遺構は溝・柱穴・土坑・井戸・木棺墓・貝塚などである。溝からは土師質土器・陶器類をはじめ、瓦器・青磁・白磁などが出土した。井戸は大半が素掘りであるが、1 基だけが板枠を持つものもあった。

近世の遺構は溝・柱穴・土坑・井戸・ゴミ穴・墓などである。17 世紀から 19 世紀にかけては当該地は屋敷地とその縁辺部の耕作地であったと推定される。



第 1 図 調査位置図



2 図 V・VI区 (南から)



第 3 図 IV区 (西から)



また、Ⅲ区では岡山空襲で焼けた瓦礫を廃棄した大型のゴミ穴が確認された。

**まとめ** 鹿田荘は今日の岡山市の中心市街地の南半を占めると見られ、岡山市役所付近から桜橋を結ぶ線より南の旭川右岸から瀬戸大橋線の線路付近に残る地割りが岡山市街地北部の条里とズレが認められることなどからもほぼこのあたりが荘域と考えられており、今回の調査地はほぼその西端に位置している。

調査区内は全域にわたって微高地上に位置するが、調査地点の南側の旧街道（庭瀬往来）付近から南側は急に低くなっており、河道もしくは古代以前の海岸線とも考えられることから、該期の遺構は港湾施設に関連するものである可能性も検討される。

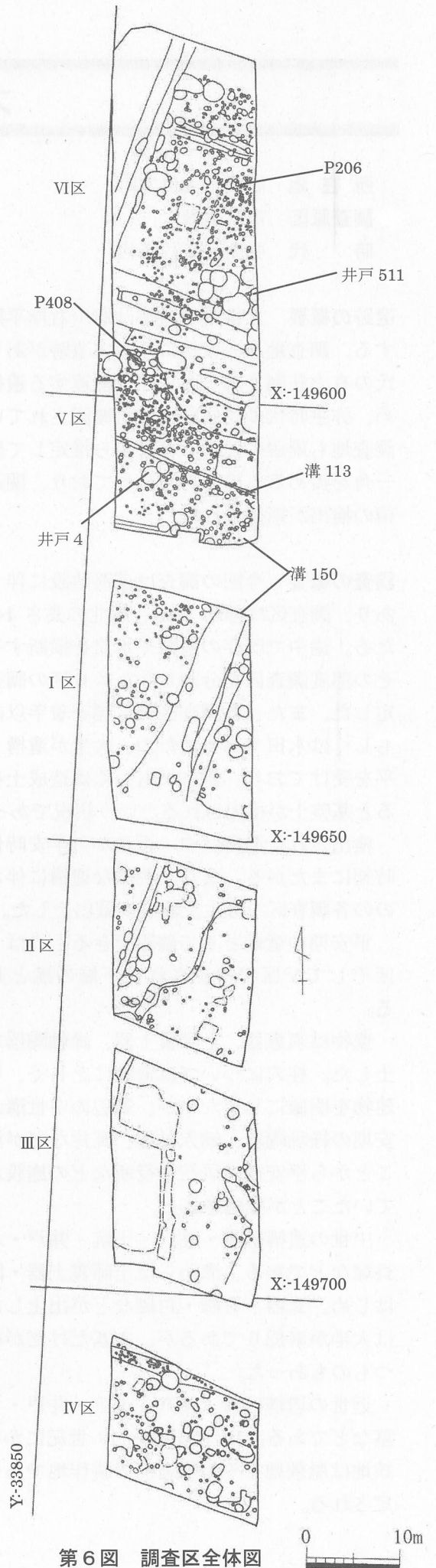
今回検出された溝は各時期にわたって調査地周辺の条里と一致している。調査地周辺の地割りは歴史地理学的な検討からはほぼ12世紀以降の成立であると見られているが、溝150の年代は出土遺物から10世紀代にさかのぼる可能性もあり、今後の周辺での調査に期待したい。



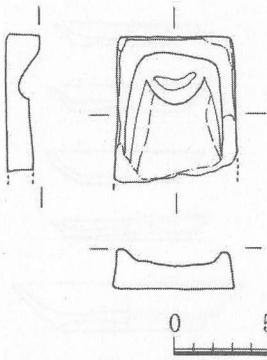
第4図 Ⅱ区（南から）



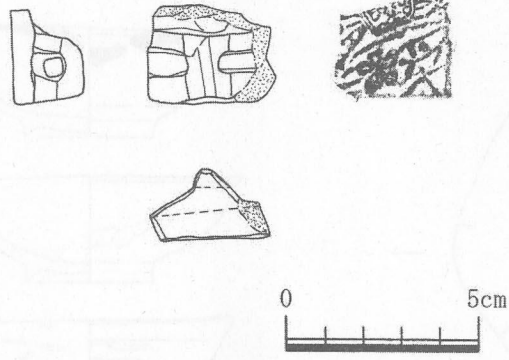
第5図 Ⅲ区（南から）



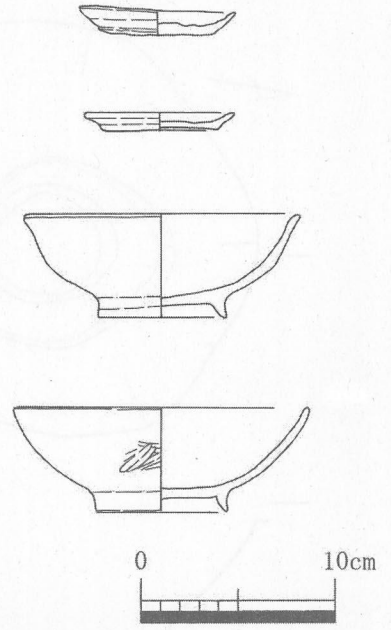
第6図 調査区全体図



第7図 VI区 P206 出土石硯



第8図 V区 P408 出土石製スタンプ



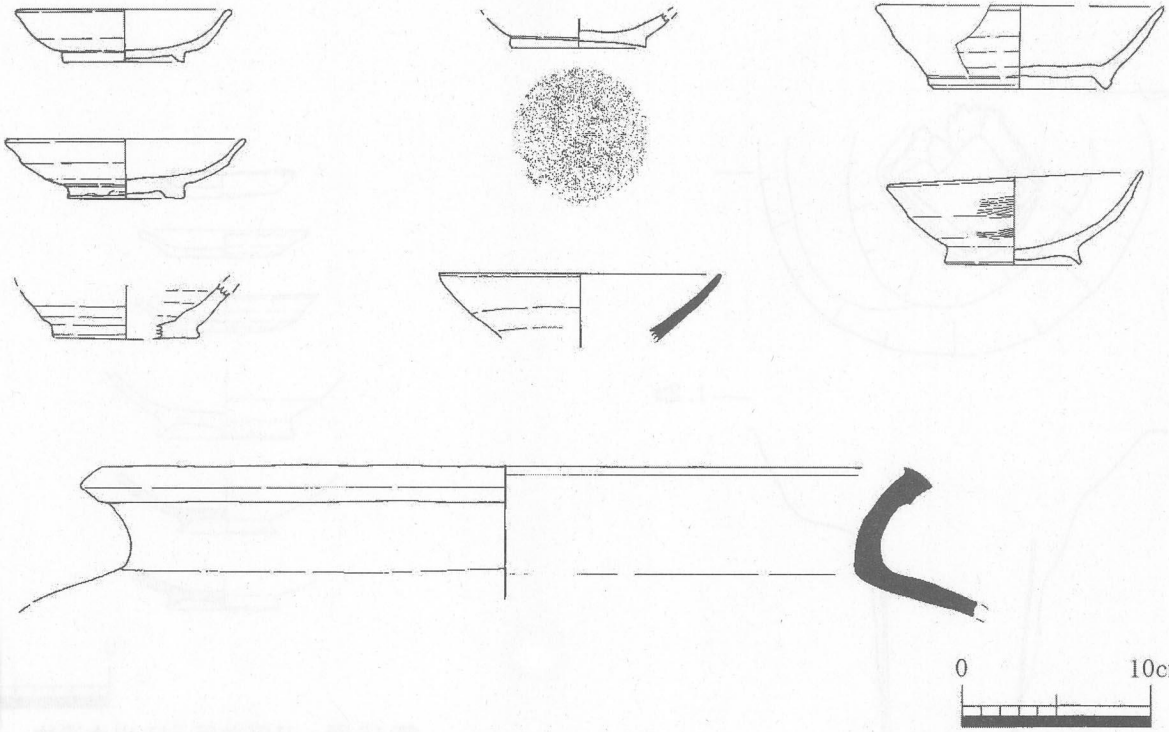
第9図 V区 溝 113 出土遺物



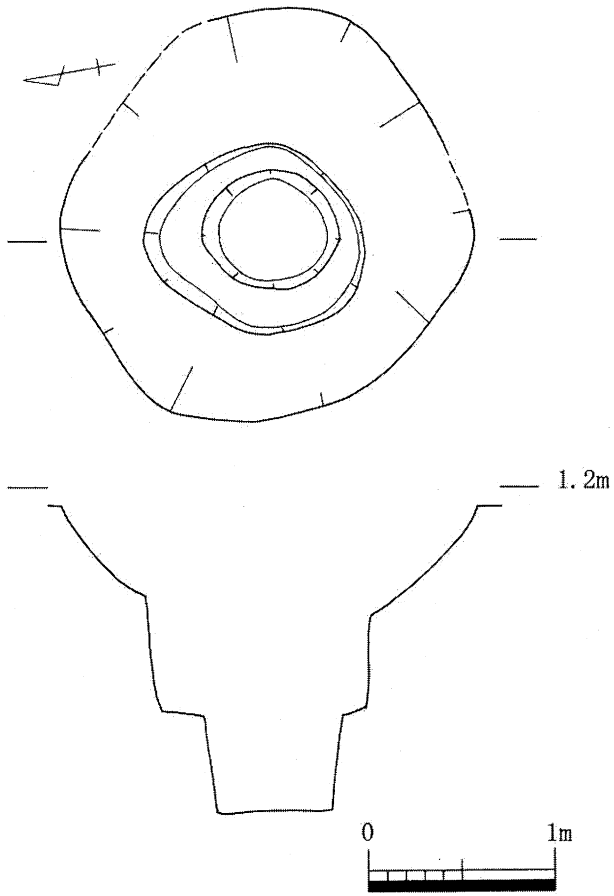
第10図 I区 溝 148~150



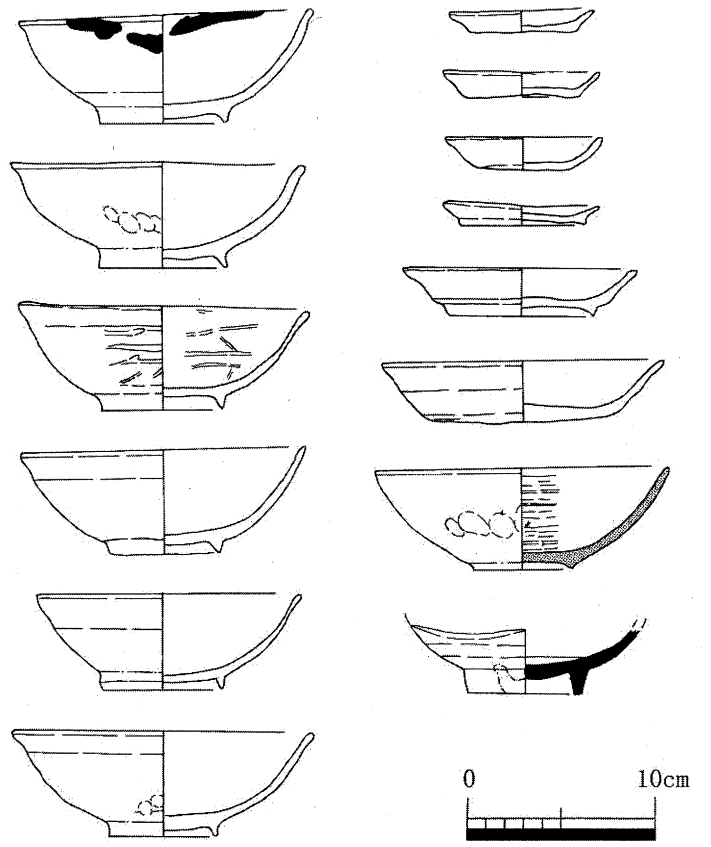
第11図 溝 150 出土墨書土器



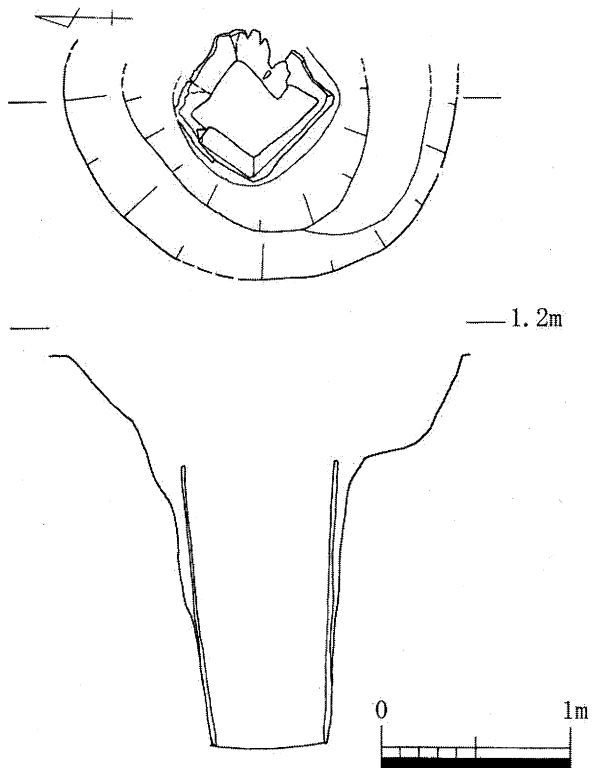
第12図 溝 150 出土遺物



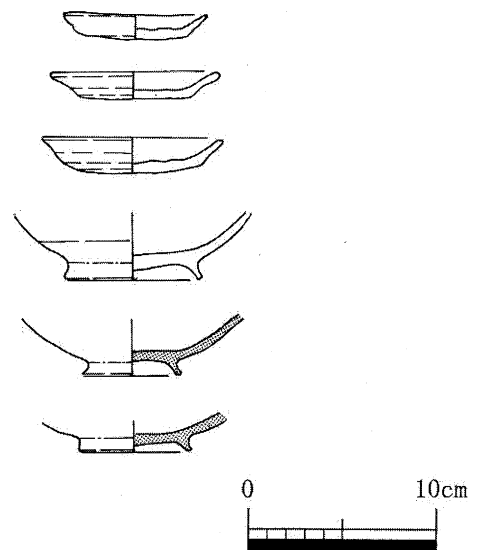
第 13 图 V区井戸 4 实测图



第 14 图 V区井戸 4 出土遺物



第 15 图 V区井戸 511 实测图



第 16 图 V区井戸 511 出土遺物

# 五反地・国長遺跡

所在地 岡山市高島新屋敷123番地  
 調査原因 集合住宅建設  
 時代 古代～中世

調査期間 060622～060729  
 調査面積 66 m<sup>2</sup>  
 担当者 草原孝典

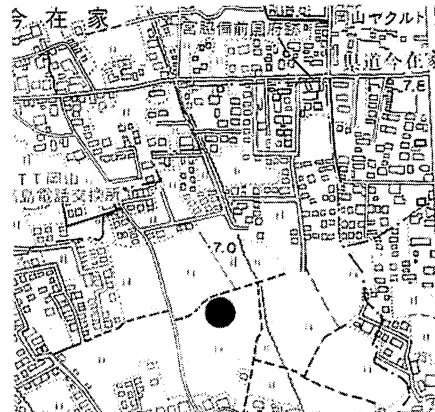
**遺跡の概要** 五反地・国長遺跡は、旭川の東岸の沖積平野に位置する。この平野には国府市場という地名や賞田廃寺跡や幡多廃寺跡などの古代寺院が集中的に存在しており、古代における備前国の中核地であったことは間違いない。国府市場周辺からは、南古市場遺跡やハガ遺跡のように備前国府に関係すると推測される遺構や遺物が出土する遺跡もあることから、備前国府がこの付近に存在していたと考えられる。国長遺跡は、付近の小字名が遺跡名となっているものであるが、訓読みのコクチョウは国庁に通じるとして、その一部は県指定史跡「備前国府」となっている。しかしながら、瓦等の出土はほとんどなく、微地形的な観点からも国府市場周辺の方がより安定していること、さらに国長は、中世の負名制を示しているという見解などから、備前国府中核とはやや離れているという考えの方が妥当と思われる。

## 調査の概要

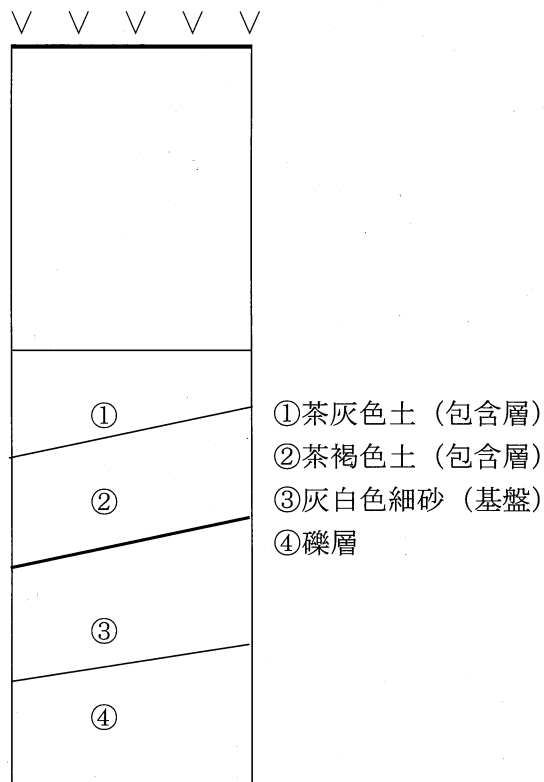
調査は、擁壁、防火用水、浄化槽部分の掘削時におこなった。いずれも中世前半の土器の細片を含む包含層が認められたが、基盤層は極めて脆弱な砂層で、その砂層も下部になると礫層になる。基盤層上面での遺構検出の結果、径0.1mほどの柱穴状のピットが若干検出できたものの、埋土的にも明確な遺構とは言い難く、また単発的な分布を示していた。調査区に限られていたことから、明確にはできなかったが、調査地点は少なくとも集落域の中心部ではなく、その端部である可能性が高い。また、遺物も極めて細片化しているものだけであったが、中世前半の時期よりも遡るものは認められなかった。

## まとめ

調査の結果、当地はあまり安定していなかった場所で、おそらく旭川、あるいはその分流の氾濫原であったと推測され、中世前半期に一時期開発が及んだものと考えられる。



第1図 調査位置図 (1/10,000)



第2図 土層柱状図 (S=20)

# 上沼(吉備病院)遺跡

所在地 岡山市高松原古才 584-1

調査原因 病院施設建設

時代 古代・中世

調査期間 050801～050806

調査面積 97 m<sup>2</sup>

担当者 神谷正義・扇崎 由・安川 満

**遺跡の概要** 当遺跡は 1996 年に一部を発掘調査している。面積は 175 m<sup>2</sup>と小規模ではあったが、平安時代と古墳時代後期の遺構面を確認している。平安時代の遺構面では、土坑・溝・柱穴・窪み状遺構などを検出しているが、窪み状遺構からある程度まとまって遺物が出土しているものの、遺構はまばらな状況であり、集落縁辺部の様相を示していた。古墳時代後期では竪穴住居・掘立柱建物・土坑・溝などを検出している。竪穴住居や掘立柱建物は調査区中央から東に、土坑や溝は西に位置することから、集落中心域は調査区の東方にあると想定された。

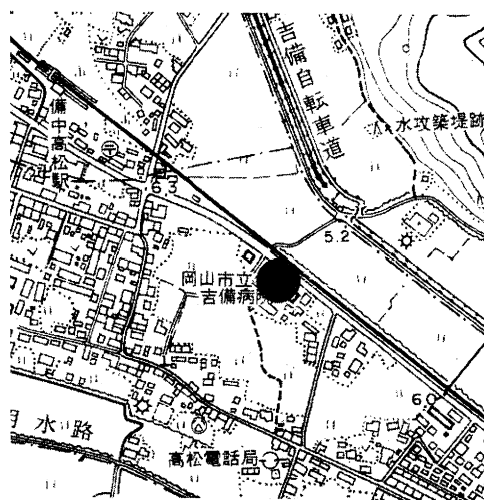
**調査の概要** 発掘調査は遺構面に影響を及ぼす浄化槽(1区)及び透析廃水処理槽(2区)を対象とした。

1区は旧建物による破壊を大きく受けており、基盤上面で調査区中央部に溝を1条検出したにすぎない。この溝は幅2～2.7mで、深さは深いところでも34cm程度の浅い溝で、ほぼ東西方向を向いている。出土物もなく時期は不明である。

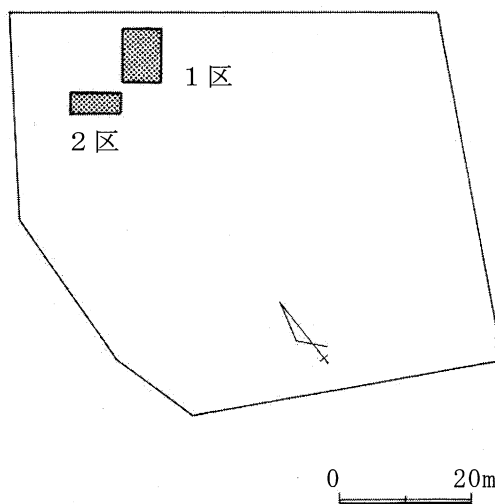
2区では2面確認している。上層面では柱穴・溝を検出している。柱穴は直径20～30cm前後、検出面からの深さは10～30cmで、11基を検出したが小面積のため明確に建物といえる組合せはない。溝は東西方向を示し、幅70cmで深さは50cmある。これらの遺構の時期は土器小片がわずかしか出土しておらず確かではないが、柱穴から出土した黒色土器から平安時代と考えられる。

下層面では基盤上面で北部に基盤の緩やかな落ちを確認した。時期は数点の土器からではあるが弥生後期と見られる。

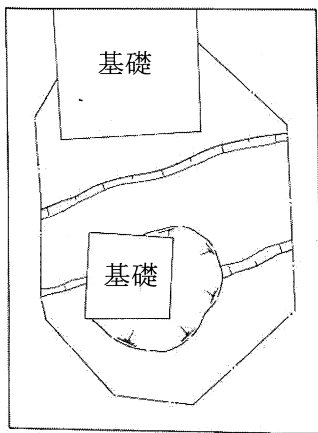
今回の調査で確認した平安時代と基盤上の2つの面は、96年調査の面にそれぞれ対応すると考えられる。



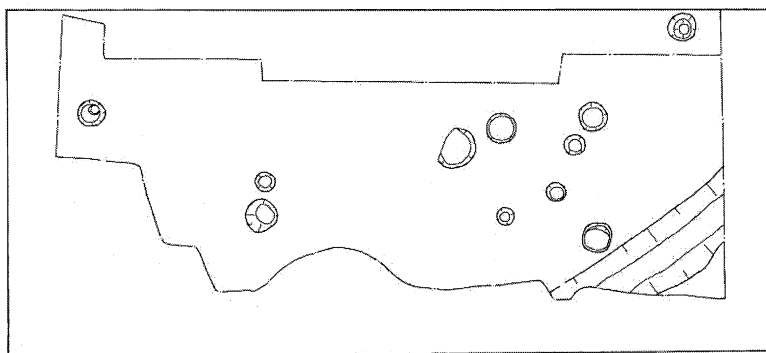
第1図 調査地位置図



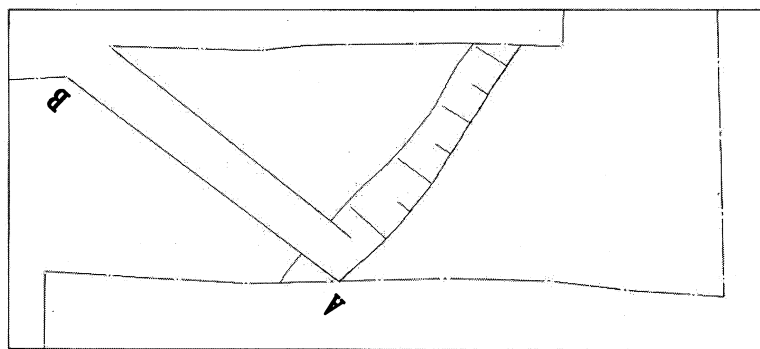
第2図 発掘区位置図



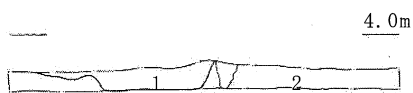
第3図 1区基盤面



第4図 2区上層面

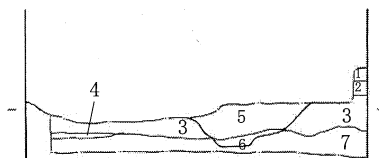


第5図 2区下層面



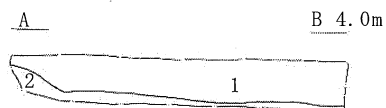
- 1 黄灰色細砂と褐灰色微砂の塊状
- 2 黄灰色粘質微砂

第6図 1区東壁



- 1 灰黒色微砂・シルト
- 2 淡緑灰色粘質微砂
- 3 淡褐灰色粘質微砂
- 4 灰黄褐色細砂
- 5 灰褐黄色粘質微砂
- 6 黄灰色微砂と褐灰色シルトの塊状
- 7 黄灰色微砂(基盤)

第7図 2区東壁



- 1 灰黄色シルト・微砂
- 2 黄灰色細砂(基盤)

第8図 微高地落ち

# 南方(済生会)遺跡

所在地 岡山市国体町  
調査原因 病院施設建設  
時代 弥生・古墳・古代

調査期間 050901～051024  
調査面積 300 m<sup>2</sup>  
担当者 扇崎 由・西田和浩

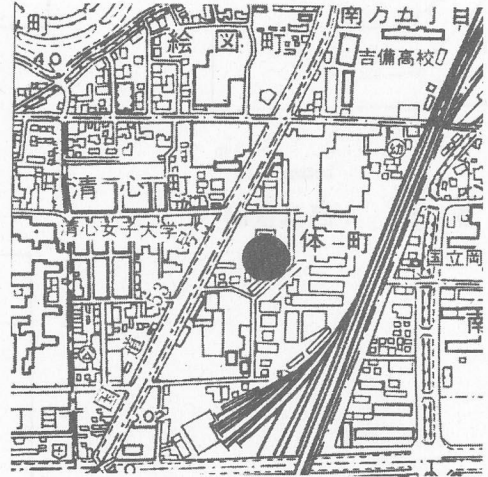
**遺跡の概要** 当地点は1993年から1996年にかけて調査したライフケアセンター地点の北側に当たる。ライフケアセンター地点では、調査区の南側に弥生時代中期を中心とした多数の土坑や溝を検出し、集落の中心は南側に広がることが確認された。また、前期の溝は北側で南に曲がり微高地先端を切っているので、環溝の可能性も考えられた。

**調査の概要** 弥生前期の溝、弥生前期から中期の柱穴・土坑、弥生中期の竪穴住居、古墳～古代の溝・土坑などを検出した。検出遺構総数は約250基にのぼる。

弥生時代前期の溝を3条(SD94・145・152)確認した。SD94は幅3.8m深さ1.4mあり、断面形は逆台形である。SD145は幅3.7mであるが、内側に一度掘り直しを行っている。深さは0.8～1mで、断面形は逆台形である。これらは南東方向を中心とする同心円状に掘られており、集落の外側を取り囲む環濠と考えられる。もっとも外側の溝(SD152)は、ライフケアセンター地点で検出した前期溝の延長部分と考えられる。

弥生時代中期にはこれら環溝をうめたてて、集落域が外に拡張されている。多数の柱穴は1棟ごとの組合せの把握には至っていないが、掘立柱住居ないし倉庫であったと考えられる。竪穴住居跡は5棟見つけた。中期前半1棟・中期後半3棟・中期後半～後期1棟で、このうち2棟(SH58・151)は建て替えが図られていた。また、火災による焼失住居も1棟(SH58)検出されている。このほか、白灰を埋めた大型土坑(SK64・70など)を13基検出している。この遺構は南方遺跡や隣接する上伊福遺跡に特徴的な遺構で、詳細な性格は不明であるが、金属やガラスの溶解などのような高火度を要す生産活動を行った結果と見られている。

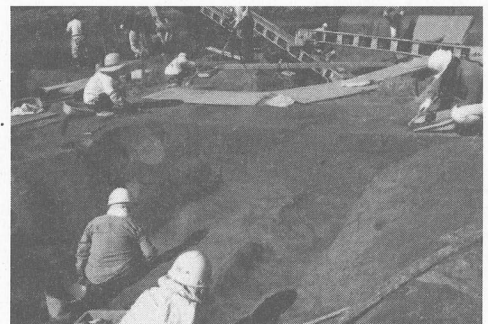
なお、ライフケアセンター地点で検出された墓は今回の調査では見つからなかった。集落の墓域は当地点の北及び西に形成されていたと考えられる。



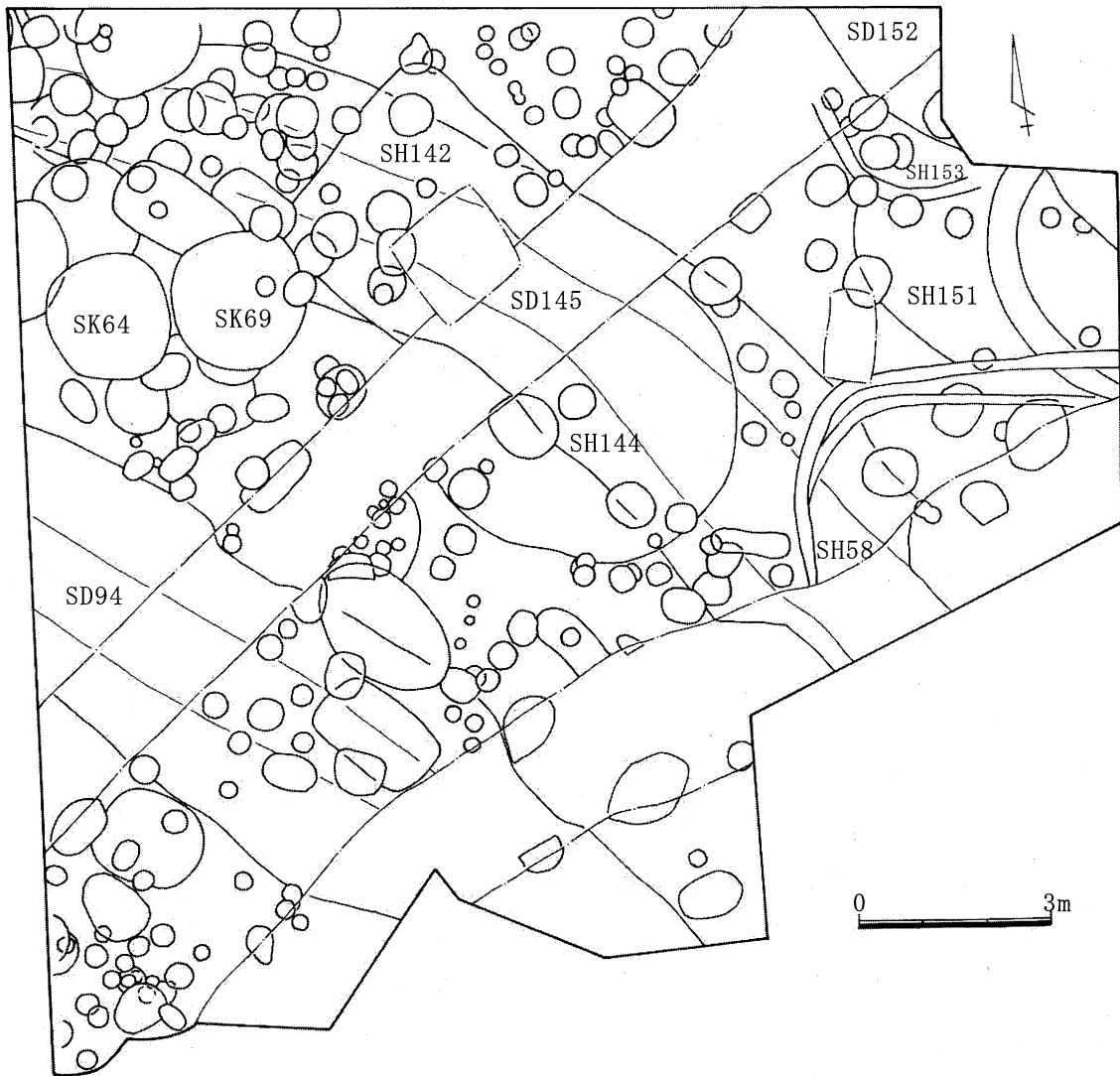
第1図 調査地位置図



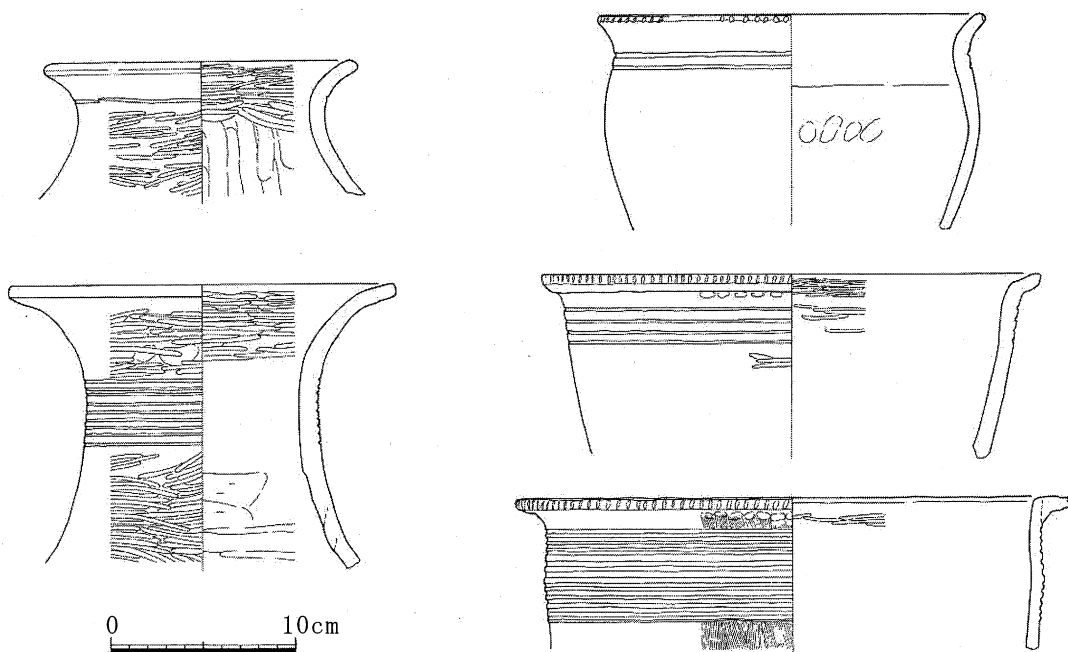
第2図 調査区全景



第3図 SD145断面



第4図 弥生時代遺構図



第5図 SD94 出土土器



# 醫王谷古墳・醫王谷遺跡

所在地 岡山市日近 767 ほか  
調査原因 圃場整備  
時代 弥生～中世

調査期間 051005～051205  
調査面積 3,000 m<sup>2</sup>  
担当者 長谷川一英 西田和浩

## 遺跡の概要

醫王谷古墳・醫王谷遺跡は、足守川の支流日近川左岸の、やや開けた谷部に位置する。当該地は足守土地改良区が平成 16 年度から平成 19 年度の予定で実施する農地等高度利用促進事業（圃場整備）の計画地内にあたる。工事計画では遺跡想定範囲内に 4 面ある水田のうち標高が高い方にある 2 面を掘削し、低い方にある 2 面に盛土を施すことによって、4 面ある水田を 2 面に整備し、耕作面を従来より広く確保することを目的としていた。そのため、掘削の対象となる上段 2 面の水田面および横穴式石室墳が調査の対象となった。協議の結果、調査対象地内の埋蔵文化財すべてを現状保存することは困難であったため、上段 2 面の水田面について記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

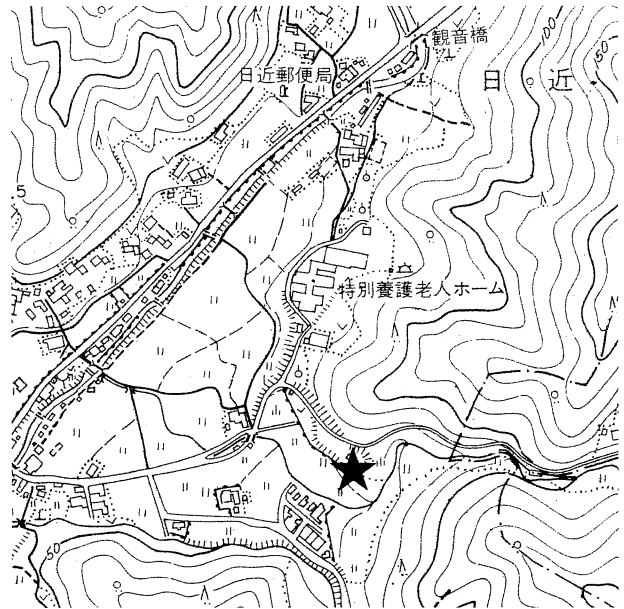


図 1 調査位置図

## 調査の概要

**醫王谷古墳** 墳丘は後世の開墾によってほとんど削平されていたものの、墳丘東側に形成された周溝とわずかに遺存していた盛土から判断して、直径 13m の円墳と考えられる。主体部である横穴式石室は、後世の開墾等により破壊されていた。石室は大きく破壊されているため、玄室・羨道の規模や袖の有無といった石室の特徴は把握できなかった。石室は奥壁側から約 2.5m まで天井石が遺存し、側壁も約 5 m 程までは残り、西壁の基底石は 8 m まで確認できた。以上の点から、石室の規模は全長 8 m 以上、幅は奥壁底面で約 1.6m、高さは奥壁で約 2.2m を測る。奥壁は 2 段で構成され、天井石との隙間には板状の礫を充填する。

側壁は基底石に 1 m 角の巨石を用いて 4 段に積み上げ、部分的に小礫を積んで高さを調節している。持ち送りは 4 段目から行われているようである。西壁に積まれた礫は、東壁に比べてやや大ぶりのものを使用している。礫はいずれも面の揃ったものを使用している。

床面には板石等が敷かれていた痕跡を確認できなかった。遺物等も地山直上から出土している点から、石室の床面は地山を削平して形成したものとみられる。

石室内からは銀環をはじめ、須恵器の杯身・杯蓋・高杯・平瓶・甕・台付椀のほか、鉄鏃・鉄釘・馬具等の鉄器が出土した。

古墳の築造年代は出土した須恵器から 6 世紀後半と考えられ、7 世紀前半まで追葬されたようである。また、石室およびその周辺から古代から中世の土師器や中世の鋳造関連遺物とみられる鋳型・炉壁・鉄滓が出土しており、後世に二次的な利用が行われているのは間違いないだろう。

**醫王谷遺跡** 遺跡は水田に利用されていたため、調査区の中央で大きく段が形成されてしまっている。従って、古墳と同一段の水田面（下段）・上段の3区画に区分して調査した。上段では耕土直下で一边1mを超える巨大な礫を多量に含む花崗岩風化土層が確認され、これが基盤層と考えられた。明確な遺物包含層および遺構面は確認されなかった。下段は弥生時代を中心とする土器片を含んだ包含層がわずかに確認された。南へ進むほど基盤層は高くなり、上段と同様巨大な礫を含むようになる。人工的なものかどうか判然としないが、不明確な土坑を十数基検出した。

**まとめ**

日近周辺における本格的な発掘調査は今回が初めてであり、貴重な調査例となった。調査例が乏しく、断定することはできないものの、当該地周辺で醫王谷古墳の石室と同規模以上のものは粟井大塚2号墳をはじめ、少数にとどまる。従って、醫王谷古墳の被葬者は当該地域の有力者であったとみられ、また出土した多量の鉄器は鉄生産に携わっていたことを窺わせる。今後は日近川流域のみならず、本流である足守川流域の中・上流域における調査が期待される。

一方、醫王谷遺跡ではわずかな遺物包含層と用途不明の土坑を確認したにとどまった。弥生時代の集落は、おそらく当該地のさらに高い位置に存在するものと考えられる。

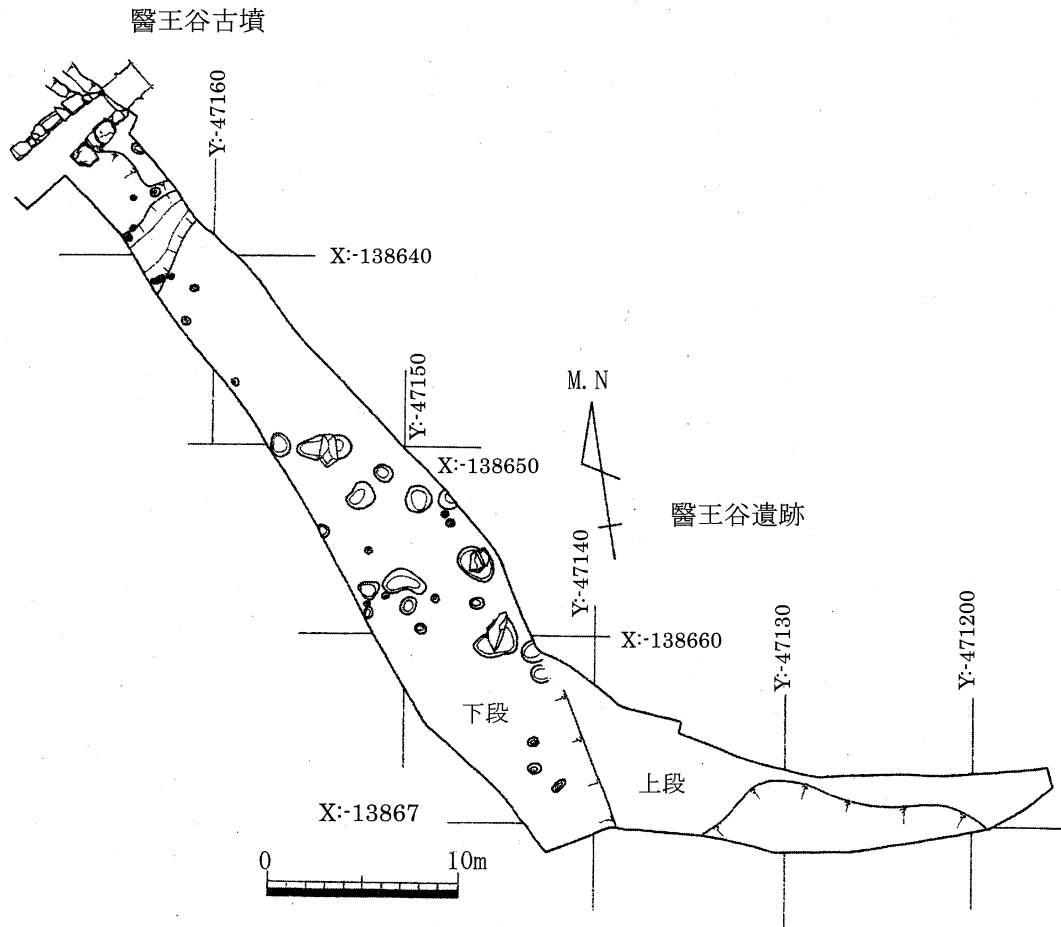


図2 調査区全体図 (S=1/400)

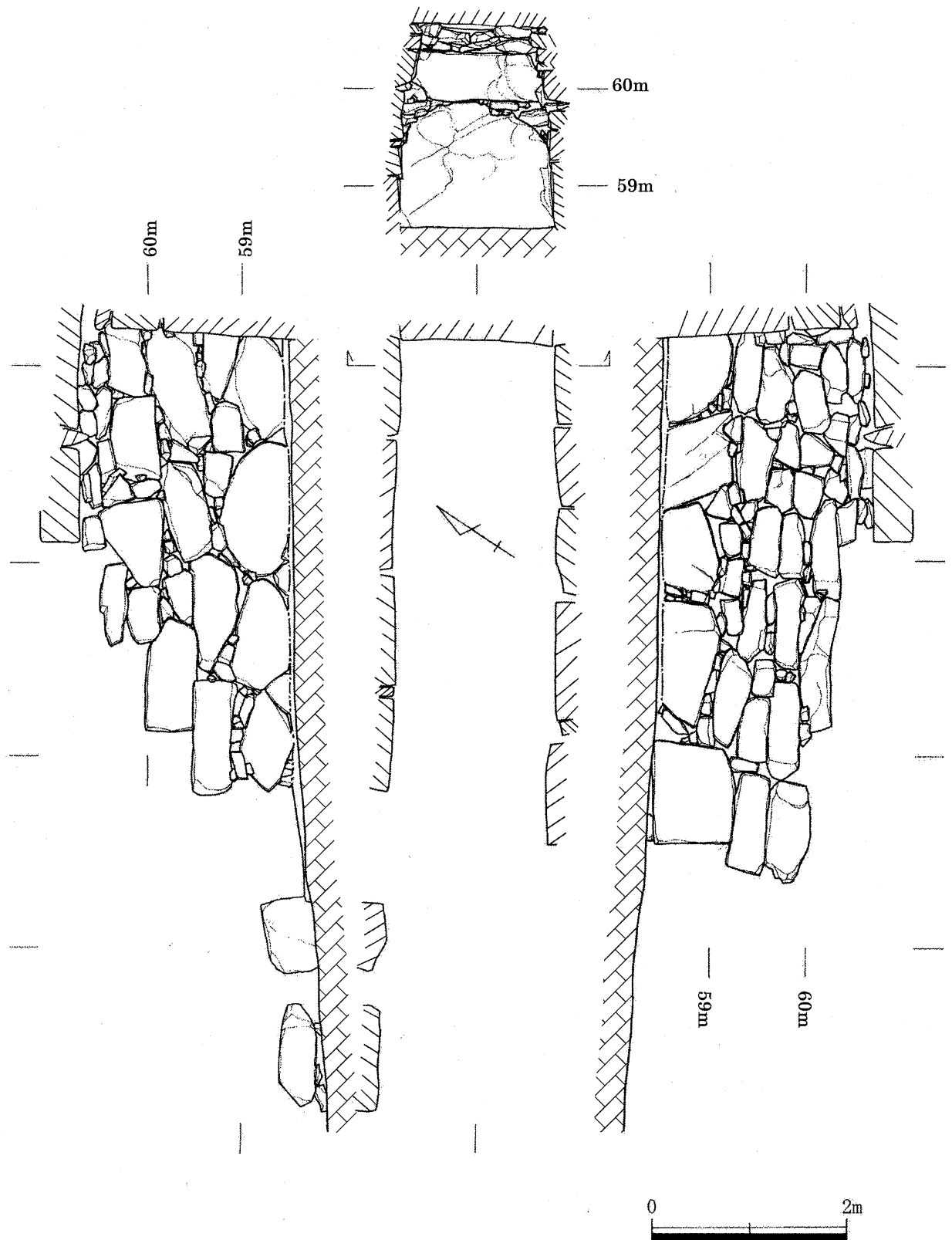


图3 横穴式石室实测图 (S=1/60)

# 原尾島遺跡

所在地 岡山市原尾島 850-3、850-4  
 調査原因 マンション建設  
 時代 弥生時代末～古墳時代初頭

調査期間 051101  
 調査面積 約10m<sup>2</sup>  
 担当者 安川 満

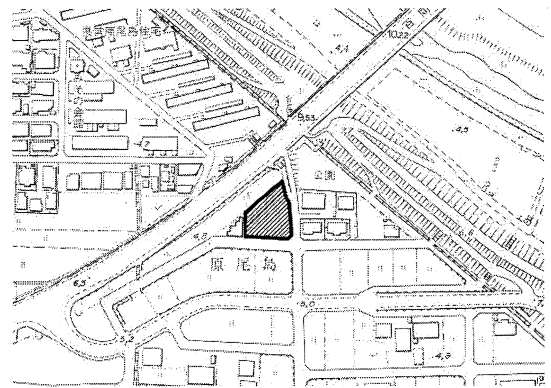
**遺跡の概要** 原尾島遺跡は旭川の東岸に位置する集落遺跡で、百間川遺跡群の一角をなす。周辺では、昭和51年度から調査のつづく旭川放水路（百間川）の改修に伴う発掘調査、平成2～3年の市道建設に伴う発掘調査などが行われており、縄文時代後期以降各時代の遺構、遺物が確認されている。特に、弥生時代末～古墳時代初頭の水田跡が洪水砂に埋まった状態で、直線距離にして約2.5kmにわたって検出されている。

調査地点の南約50mほどの平成2～3年の市道建設に伴う発掘調査では標高2.5m～2.0mの高さから、洪水砂に埋没した弥生時代末～古墳時代初頭の水田跡、弥生時代前期の住居跡、掘立柱建物、土壇墓等が検出されており、調査地点も同様の状況が予測された。なお、調査に際しては、国土座標、高度等測量していないが、マンション建設に伴う造成土上面で標高およそ5mを測る。

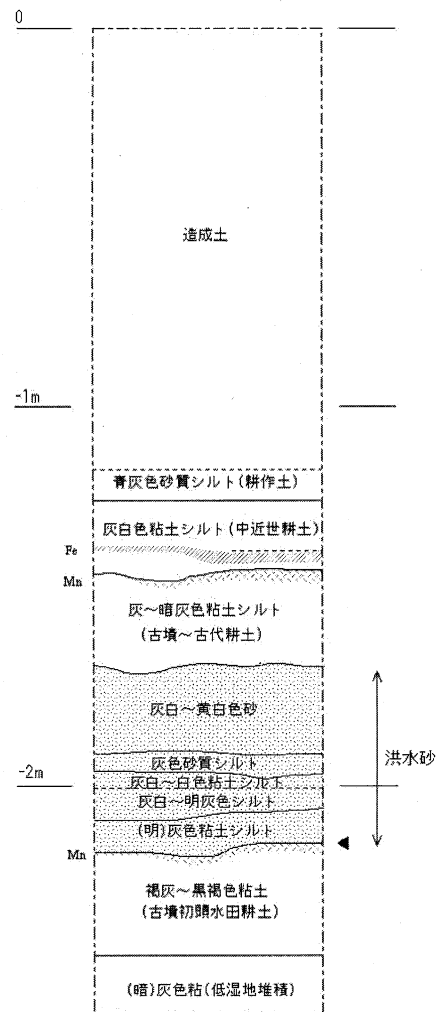
**調査の概要** 調査は、マンション基礎が予想される水田面の高さに到達しないことが予測されたため、最も深いエレベーターピット部分約10m<sup>2</sup>を対象とし、その状況に応じて基礎部分の対応を協議することとした。

調査では、地表下地下約2.1～2.2mの深さで、50cm近い厚さの洪水砂に埋没した弥生時代末～古墳時代初頭の水田層を確認した。水田面ではほぼ東西方向の畦畔1条を検出した。畦畔は高さが3～5cmほどの極低いもので、調査範囲が狭いこともあり、これに直行する畦畔など区画がわかる遺構はなかった。この水田層より下層は低湿地堆積層とみられる灰色粘質土層であり、より下層の水田や微高地基盤は確認できなかった。

以上の結果から、基礎部分については掘削に伴い立ち会うこととし、水田面、あるいは微高地等に到達していないことを確認している。



第1図 調査位置図(1/5,000)



第2図 土層柱状図(1/20)

# 岡山城二之丸跡

所在地 岡山市内山下一丁目 14-103 ほか  
 調査原因 マンション建設  
 時代 近世

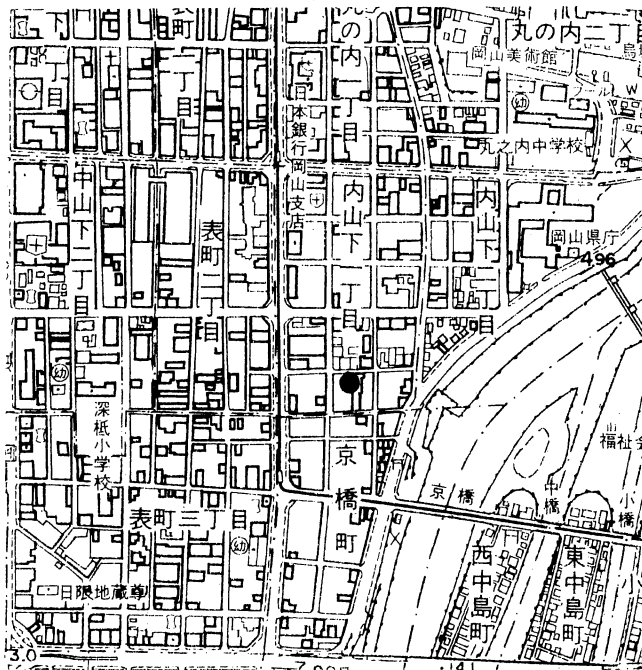
調査期間 051209  
 調査面積 70 m<sup>2</sup>  
 担当者 長谷川一英 西田和浩

## 遺跡の概要

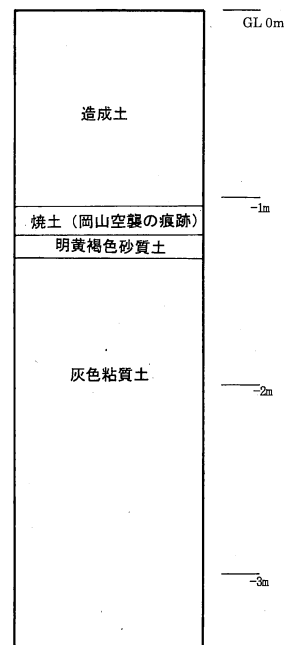
当該地は、岡山城二之丸跡の範囲内であり、大手門のすぐ東隣であることから、代々、家老級の重臣の屋敷があった地点にあたる。周辺では中国銀行本店、中国電力内山下変電所等の建設に際し発掘調査が実施され、岡山城内の武家屋敷跡の遺構等が確認されている。当該地においても岡山城関連遺構の発見が予測された。

## 調査の概要

発掘調査では、地表下約 1.2m 程度の深さまで既存建物基礎が及んでおり、戦災にともなう焼土・廃材等をふくむ土層が確認された。また、予想より既存建物による掘削が激しく、城郭遺構もしくは武家屋敷地の遺構等、岡山城二之丸に関連する遺構・遺物は確認できなかった。また、北側隣接地の中国電力内山下変電所内では中世段階の遺構が確認されているものの、今回調査部分では下層は灰色粘質土が厚く堆積しており、微高地基盤等埋蔵文化財の存在をうかがわせる土層は確認できなかった。



調査位置図



調査区南壁土層柱状図 (S=1/40)

### Ⅲ 埋蔵文化財保護等に関する協議・調整

埋蔵文化財に関する業務の内、岡山市教育委員会文化財課では、発掘調査、出土物の収蔵・管理をのぞくものを執り行っており、具体的には、埋蔵文化財包蔵地の照会、埋蔵文化財に関する事前協議、調整、届出等の事務が挙げられる。

平成 17 年度における主要な事務処理の件数は下表のとおりであるが、これら埋蔵文化財保護行政にかかわる事務の処理件数を、平成 7 (1995) 年からのデータを比較してみると、平成 15 年度を境に、発掘の届出・通知件数が激増し、事務処理総数も、7 年度以降増加し本年度で最多となっていることが認められる（下図参照）。

また本年度の埋蔵文化財の照会数も前年度比約 12% の増加を示している（合計 1258 件）。内訳は、鑑定評価など不動産調査に伴うものが 553 件、計画段階での照会が 607 件であり、この 2 種類で全体の 92 パーセントを占めている。

これらの事務処理及び照会数件数の増加は、平成 16 年 3 月に実施された旧御津町・灘崎町との合併による市域の広がりだけではなく、平成 15 年以降の不動産鑑定基準の見直し※に伴う埋蔵文化財の照会数の増加と、開発に伴う協議の増加が原因であると推測される。また市街地及びその周辺における発掘届の増加は、集合住宅建設数の増加を反映したものと考えられる。

※「不動産鑑定評価基準」第 3 章「不動産の価格を形成する要因」第 3 節「個別的要因」の(1)住宅地 (2)商業地(3)工業地の各項目に、「埋蔵文化財及び地下埋設物の有無並びにその状態」が新たに加えられた。

	調査の届出 92条 (旧57条)	発掘の届出 93条 (旧57条の2)	発掘の通知 94条 (旧57条の3)	発見の届出・通知 96・97条 (旧57条5・6)	調査の通知 99条 (旧58条2)	出土物鑑査※ 59・61条 (旧100・102条)	試掘調査 99条 (旧58条2)	記念物 現状変更 125条(旧80条)	総計
平成7年度	3	29	26	9	8	—	29	7	111
平成8年度	2	36	24	2	6	—	16	4	90
平成9年度	4	22	26	8	12	18	21	16	127
平成10年度	6	46	25	5	10	15	23	15	145
平成11年度	5	44	36	11	10	14	16	13	149
平成12年度	6	29	40	1	5	10	12	24	127
平成13年度	5	30	31	0	6	11	14	21	118
平成14年度	2	37	41	0	11	9	13	23	136
平成15年度	2	64	54	1	7	10	21	15	174
平成16年度	1	75	66	1	6	9	16	27	201
平成17年度	1	80	82	1	9	4	20	31	228

※ 出土物鑑査(59・61条)は平成9年中核市に権限委譲

埋蔵文化財届出等件数表

## 埋蔵文化財発掘調査の届出 (第92条)

1件

提出日	種類	遺跡名	所在地	面積 (㎡)	目的・原因	調査期間	調査主体者	担当者	岡山県文書番号 日付
200602090	古墳	勝負砂古墳	倉敷市真備町下二万 1290、1292、1294	90	学術研究	20060510 ～ 20070330	岡山大学文学部	松木武彦	教文理 第1200号 H18. 2. 17

## 埋蔵文化財発掘の届出 (第93条)

80件

提出日	種類	遺跡名	所在地	面積 (㎡)	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項	岡山県文書番号 日付
20050401	古墳	南坂15号墳ほか	下足守字棕ノ内944番の 一部、 字小僧谷976番の一部、 字日差谷984番、 字三井谷口990番の一、 字隠地1007番の一部	57300	土砂採取	20051001 ～ 20080930	河原建設工業株式 会社 代表取締役	発掘調査	教文理第182号 20050513
20050404	城館跡	岡山城三之曲輪跡	天神町6-122	162.15	個人住宅の建設	20050408 ～ 20051220	個人	工事立会	教文理第68号 20050412
20050406	散布地	余町遺跡	足守字岡146番ほか	8626	有料老人ホーム の建設	20050601 ～ 20061202	個人	慎重工事	教文理第81号 20050414
20050415	城館跡	岡山城三之曲輪跡	表町一丁目1番	1,409.38	集合住宅の建設	20051024 ～	株式会社大京大阪 支店 支店長	工事立会	教文理第136号 20050425
20050419	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字下唐戸244番3	233.02	宅地造成及び個人 住宅	20050610 ～ 20050810	個人	工事立会	教文理第142号 20050425
20050510	集落	東岡山遺跡	長岡596-1-1、597-1、 598-1、599-2	2,242.28	店舗建設	20050515 ～ 20050920	株式会社サプリ ス・インターナ ショナル 代表取締役	工事立会	教文保第364号 20050527
20050511	集落	広瀬遺跡	広瀬町229-1	1436.91	宅地造成	20050613 ～ 20050915	株式会社ナカタ ホーム岡山 代表取締役	工事立会	教文理第203号 20050513
20050603	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場43・43-1・6-1・ 6-3	7,651.60	排水処理施設設 置	20050802 ～ 20050831	株式会社岡山ヤク ルト工場 代表取締役	工事立会	教文理第297号 20060610
20050713	城館跡	岡山城二の丸跡	石関町4番102	217.82	専門学校新築	20051001 ～ 20060310	社団法人岡山県歯 科医師会会長	確認調査実施	教文理第445号 20050722
20050719	集落跡	南方遺跡	国体町3番12号	945	介護老人福祉施 設建設	20051101 ～ 20060815	社会福祉法人恩賜 財団済生会支部 岡山県済生会 支部業務担当理事	発掘調査	教文理第466号 20050801
20050722	散布地 古墳 生産遺跡 (製鉄関 係)	名称未定散布地ほ か	日近地内	16400	農地等高度利用 促進事業	平成17年 度～ 平成19年 度	足守土地改良区 理事長	発掘調査	教文理第661号 20050916
20050726	散布地 集落	吉野口遺跡	吉備津字薬師1349番2、 1354番1、1354番4、1354 番5、1355番1、1355番 3、1356番5、1356番1、 1350番9	2823.89	分譲住宅地造成	20050815 ～ 20060331	ベルデ企画有限会 社 代表取締役	工事立会	教文理第492号 20050803
20050728	集落	上伊福遺跡	伊福町二丁目345-4・345 -11・345-12・345-13	476.05	集合住宅建設	20050901 ～ 20060228	個人	確認調査	教文理第493号 20050803
20050802	散布地	名称未定散布地	惣爪字才ノ元412番1	495.14	宅地造成・ 個人住宅の建設	20051011 ～ 20060130	個人	工事立会	教文理第499号 20050803
20050804	散布地	小山馬揃遺跡	小山字掘り538、540-2、 541-1、541-2	2125	自動車教習所拡 張	20050810 ～ 20050930	株式会社稲荷自動 車教習所 代表取締役	工事立会	教文理第548号 20050809
20050804	散布地	北口遺跡	国府市場字古法事991番1	177.41	宅地造成及び個人 住宅建設	未定	個人	工事立会	教文理第551号 20050819
20050804	城館	岡山城二の丸跡	丸の内二丁目7-116	205.26	集合住宅の建設	20050820 ～ 20050930	株式会社自由会館 代表取締役	確認調査	教文理第552号 20050819
20050808	集落	雄町遺跡	雄町374-1	415.16	店舗付住宅建設	20050830 ～ 20051230	個人	工事立会	教文理第555号 20050817
20050819	集落	鍵田遺跡	北方二丁目1307番8	518.86	集合住宅の建設	20050926 ～ 20051214	個人	工事立会	教文理第600号 20050901
20050819	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字下唐戸244番1	198.34	個人住宅の建設	20051010 ～ 20051210	個人	工事立会	教文理第598号 20050901

20050819	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字下唐戸224番6, 244番7	276.1	個人住宅の建設	20051010 ～ 20051210	個人	工事立会	教文埋第599号 20050901
20050823	城館跡	岡山城二の丸跡	丸の内二丁目93番26	208.85	個人住宅の建設	20050905 ～ 20051130	個人	工事立会	教文埋第602号 20050901
2005825	集落跡	雄町遺跡	雄町277・278-1	61.56	店舗増築	200509下旬～	有限会社ケン商事 取締役	工事立会	教文埋第607号 20050901
20050907	集落跡 城館跡	備中高松城跡	高松字八反堀640-7	454.01	宅地造成・ 個人住宅の建設	20051101 ～ 20051228	個人	工事立会	教文埋第636号 20050914
20050909	集落跡	津島岡大遺跡	津島中三丁目1番1号	300	研究棟改修工事	20050920 ～ 20060320	国立大学法人岡山 大学 学長	工事立会	教文埋第657号 20060927
20050916	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字高下402番5、 402番6	175.46	宅地造成 個人 住宅の建設	20051110 ～ 20060110	個人	工事立会	教文埋第701号 20050930
20050922	城館跡	岡山城三之外曲輪 跡	蕃山町7番106	252.32	個人住宅の建設	200510～ 200603	個人	工事立会	教文埋第707号 20061007
20051005	集落跡 生産遺跡 (水田)	百間川原尾島遺跡	原尾島850-3、850-4	897.83	集合住宅の建設	20051021 ～ 20060818	和建設株式会社 代表取締役	発掘調査	教文埋第758号 20051012
20051007	城館跡	岡山城二の丸跡	内山下1丁目14-103、 14-104、14-106、14- 121、14-125	771.81	集合住宅の建設	200511末 ～ 20070131	和建設株式会社 取締役	発掘調査	教文埋第764号 20051014
20051014	集落跡	赤田東遺跡	赤田字屋敷田175、176の 一部	873.23	集合住宅の建設	20051001 ～ 20060131	個人	工事立会	教文埋第836号 20051111
20051017	集落跡	上伊福遺跡 伊福定国前遺跡	伊福町三丁目923番、924 番、925番	513.28	集合住宅の建設	未定	株式会社カイトッ ク不動産	確認調査	教文埋第794号 20051021
20051018	集落跡 生産遺跡	津島新野遺跡	津島新野一丁目1170番1 の一部、1170番2、1171 番4	999.51	宅地造成 個人住宅の建設	20051120 ～ 20060325	個人	慎重工事	教文埋第809号 20051025
20051020	散布地	鹿瀬遺跡	御津鹿瀬字215番2	100	携帯電話基地局 の建設	20051025 ～ 20051220	ボーダーフォン株 式会社中国 技術 部中国技術部長	慎重工事	教文埋第813号 20051025
20051102	集落跡	津島遺跡	伊福町二丁目651-2	117	個人住宅の建設	20051110 ～ 20060210	株式会社タウンハ ウス一級建築士事 務所	工事立会	教文埋第838号 20051109
20051104	集落跡	津島江道遺跡	学南町三丁目740-4、 740-6	312.68	集合住宅の建設	20051114 ～ 20060228	個人	確認調査	教文埋第842号 20051114
20051108	散布地	新道遺跡	新道1番37・38	55.77	個人住宅の建設	20051115 ～ 20060315	個人	工事立会	教文埋第868号 20051114
20051111	散布地	名称未定散布地	高松字土手後134-6、 134-7	456.64	個人住宅の建設	20051103 ～ 20060228	個人	工事立会	教文埋第884号 20051121
20051117	集落跡	赤田東遺跡	赤田236-1、236-5、236- 6	887.44	集合住宅の建設	20051121 ～ 20060331	個人	工事立会	教文埋第893号 20051121
20051128	古墳	千束古墳	新庄下字千足1290番地	4.5	浄化槽埋設	20051205	個人	工事立会	教文埋第922号 20061202
20051205	貝塚 城館	金山貝塚 金山城跡	西大寺上一丁目19-19	689.39	寮建設	20051215 ～ 20060228	学校法人森教育学 園 理事長	工事立会	教文埋第950号 20051212
20051205	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字下唐戸244番5	249.57	宅地造成 個人住宅の建設	20060210 ～ 20060310	個人	工事立会	教文埋第956号 20051213
20051206	集落跡	赤田東遺跡	赤田字クルシ免153番、 154番、155番、156番、 156番 地先市道、宇延命地180 番12、180番12地先市道	2929.2	宅地造成	未定	有限会社Y・S コーポレーション 代表取締役	工事立会	教文埋第957号 20051213
20051209	集落跡	上沼遺跡	高松原古才497-15	932.6	店舗建設	20060109 ～ 20060301	株式会社ジョー・ コーポレーション 代表執行役	工事立会	教文埋第985号 200951219
20051212	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字大日408番3、 709番6	405.96	宅地造成・ 個人住宅の建設	20051220 ～ 20051228	個人	工事立会	教文埋第1013号 20051221
20051212	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字高下407番5	178.31	宅地造成 個人住宅の建設	20051220 ～ 20051228	個人	工事立会	教文埋第1012号 20051221
20051213	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字大日409番3、 409番4	312.43	宅地造成 個人住宅の建設	20060105 ～ 20060120	個人	工事立会	教文埋第1015号 20051221



20051213	集落跡	津島岡大遺跡	津島中一丁目1番1号	200	門扉等改修	20051212 ～ 20060228	国立大学法人岡山 大学 学長	工事立会	教文埋第1016号 20051221
20051213	散布地	津島福居遺跡	津島本町1856番1、1859 番、1846番、1857番	2,416.14	宅地造成	200604中 旬～ 200608上 旬	株式会社エネルギ ア不動産岡山営業 所 所長	工事立会	教文埋第1018号 20051226
20051213	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字大日409番8、 709番9	388.61	宅地造成 個人住宅の建設	20060105 ～ 20060120	個人	工事立会	教文埋第1011号 20061221
20051222	城館跡	岡山城三之曲輪跡	天神町10-21	572.32	店舗改築	20060110 ～ 20060331	宮野株式会社 取締役社長	確認調査	教文埋第1045号 20060105
20051227	集落跡	吉野口遺跡	吉備津字井手ノ元1388番 9、1397番1、1397番4の 各一部	306.41	宅地造成 位置指定道路	20060131 ～ 20060228	個人	工事立会	教文埋1046号 20060105
20060110	城館跡	備中高松城跡	高松字本丸554番3、554 番5、554番6	497.51	宅地造成 個人住宅の建設	20060310 ～ 20060430	個人	工事立会	教文埋第1070号 20060116
20060110	城館跡	備中高松城跡	高松字本丸554番7、554 番8	322.26	宅地造成 個人住宅の建設	20060310 ～ 20060430	個人	工事立会	教文埋第1072号 20060116
20060120	集落跡	上伊福遺跡 伊福定国前遺跡	伊福町三丁目933番5	4,643.32	集合住宅の建設	20060220 ～ 20070630	株式会社カイトッ ク不動産 代表取締役	確認調査	教文埋第1131号 20060131
20060124	集落跡	津島岡大遺跡	津島中三丁目1-1	160	屋外ガス管改修 工事	20060213 ～ 20060317	国立大学法人岡山 大学 学長	工事立会	教文埋第1134号 20060206
20060125	集落跡	鹿田遺跡	鹿田町二丁目5番1号	800	テニスコート改 修	20060201 ～ 20060331	国立大学法人岡山 大学 学長	工事立会	教文埋第1139号 20060131
20060125	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字大日409番7	222.37	宅地造成 個人住宅の建設	20060220 ～ 20060228	個人	工事立会	教文埋第1142号 20060206
20060130	集落跡	清水遺跡	清水字東六反田491-1、 491-5、492-1	1882.35	集合住宅の建設	20060220 ～ 20060630	個人	発掘調査	教文埋第1140号 20060206
20060202	散布地	名称未定散布地	撮字八幡原3-1、4-1、5- 5	2758.85	宅地造成	20060301 ～ 20060531	株式会社ファイ ン コーポレーション 代表取締役	工事立会	教文埋第1145号 20060209
20060202	散布地 集落	津島遺跡	伊福町三丁目838番11、 838番16、838番29、839 番1	446.56	診療所建設	20060127 ～ 20060430	日本技研建設株式 会社 代表取締役	無届けであった ため93条の提出 を指導	教文埋第1146号 20060206
20060203	散布地 城館跡	高松知行所	高松原古才字館354番の 一部、323番31の一部	996.86	宅地造成	20060220 ～ 20060331	株式会社岡山住宅 情報センター 代表取締役	工事立会	教文埋第1157号 20060210
20060203	社寺跡	失望城廃寺(富原 廃寺)	富原字南浦760番3、761 番3	474.46	宅地造成 個人住宅の建設	20060331 ～ 20060610	個人	工事立会	教文埋第1156号 20060210
20060210	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字高下407番7、 407番8	330.27	宅地造成 個人住宅の建設	20060224 ～ 20060730	個人	工事立会	教文埋第1173号 20060216
20060215	集落	津島遺跡	いずみ町2-1	15	植栽	～ 20060331	岡山東ライオンズ クラブ 会長	慎重工事	教文埋第1221号 20060224
20060217	集落	東山遺跡	川入字溝尻791番1	240.61	宅地造成 個人住宅の建設	20060420 ～ 20060731	個人	工事立会	教文埋第1222号 20060224
20062222	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字高下407番9	231.88	宅地造成 個人住宅の建設	20060310 ～ 20060830	個人	工事立会	教文埋第1253号 20060303
20062222	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字大日409番1	219.24	宅地造成 個人住宅の建設	20060310 ～ 20060830	個人	工事立会	教文埋第1254号 20060303
20062223	集落	小山馬揃遺跡	小山字田中473番、字古 宮273番1、274番1	2722.48	宅地造成	20060401 ～ 20060801	ベルデ企画有限会 社 代表取締役	工事立会	教文埋第1251号 20060303
20060224	集落	上伊福遺跡 伊福定国前遺跡	伊福町三丁目858番3、 858番7	266.87	個人住宅の建設	20060330 ～ ～	個人	工事立会	教文埋第1271号 20060309
20060302	城館跡	岡山城三之曲輪跡	天神町9-110、9-111	365.18	建物解体 駐車場建設	20060307 ～ 20060331	株式会社オムエル 岡山支社 部長	慎重工事	教文埋第1273号 20060306
20060302	集落	津島岡大遺跡	津島中二丁目1番1号	300	プール改修(排水 管改修)	20060306 ～ 20060331	国立大学法人岡山 大学 学長	工事立会	教文埋第1272号 20060303
20060303	散布地	津島東遺跡	津島東四丁目2456番	335	宅地造成	20060307 ～ 20060317	個人	慎重工事	教文埋第1279号 20060306

20060320	散布地	名称未定散布地	大崎宇西ノ前111番4	492.89	個人住宅の建設	20060520 ～	個人	工事立会	教文埋第1361号 20060331
20060322	集落	上伊福遺跡	清心町304-1	1077.63	集合住宅の建設	20060515 ～ 20061228	株式会社荒木組 取締役社長	工事立会	教文埋第1362号 060331
20060322	城館	岡山城二の丸跡	丸の内二丁目1-3番地先		通信ケーブル管 路埋設	20060417 ～ 20060531	株式会社エネルギー ア・コミュニケー ションズ 通信設備本部長	工事立会	教文埋第1351号 20060328
20060323	集落	南方遺跡ほか	南方四丁目1531-1、 1531-6、1531-11	608.06	宅地造成	200604末 ～200606 末	ミサワホーム中国 株式会社岡山支配 人	工事立会	教文埋第1350号 20060328
20060324	集落	鹿田遺跡	鹿田町二丁目5番1号	1500	総合研究棟建設	20060510 ～ 20070330	国立大学法人岡山 大学 学長	発掘調査	教文埋第56号 20060407
20060328	集落	百間川遺跡群	高屋字上キジ取293番3、 294番3、295番3、296番 3、297番3	2172.23	店舗建設	20060325 ～ 20060410	山陽ヤナセ株式会 社 代表 取締役	工事立会	教文埋第38号 20060406
20060329	散布地	高松沼田遺跡	高松字土手後134-1	951.7	店舗建設	20060501 ～ 20061015	吉備信用金庫 理事	発掘調査	教文埋第113号 20060420
20060330	散布地 集落 官衙 古墳	備前国府関連遺跡	国府市場字高下402番4、 403番1、字下唐戸404番4	204.81	宅地造成 個人住宅の建設	20060610 ～ 20060810	個人	工事立会	教文埋第39号 20060405

埋蔵文化財発掘の届出(第94条)

82件

提出日	種類	遺跡名	所在地	面積 (㎡)	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項 等	岡山県文書番号
20050401	集落跡	乙多見遺跡	関259-25地先～259-30 地先ほか	492	配水管埋設	200504下 旬～ 20051024	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第64号 20050412
20050401	集落跡	赤田東遺跡	東古松209番地先～216番 地先	178	配水管埋設	200504下 旬～ 20051024	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第65号 20050412
20050401	散布地 集落	雄町遺跡	雄町135-8地先～504-1 地先ほか	345	配水管埋設	200504下 旬～ 20050919	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第67号 20050412
20050426	散布地 集落跡	雄町遺跡	雄町99番地～ 121- 1番地先	116.9	污水官埋設	200505中 旬～ 20060228	岡山市長	掘削時立会	教文埋第183号 20050513
20050426	集落跡	百間川遺跡群	高屋16-2番地～ 64- 1番地先	87.2	污水官埋設	200505中 旬～ 20060228	岡山市長	掘削時立会	教文埋第184号 20050513
20050426	集落跡	百間川遺跡群	高屋1-1番地～ 11- 6番地先	169.1	污水官埋設	20060601 ～ 20060921	岡山市長	掘削時立会	教文埋第185号 20050512
20050428	散布地 集落跡	津島東遺跡	津島東三丁目2-3-2地先 ～津島東四丁目5-11地先	273.4	配水管埋設	2005～ 20051031	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第180号 20050511
20050428	集落跡	南方遺跡(上伊福 立花遺跡)	奉還町二丁目19-17地先 ～伊福町一丁目20-12地 先ほか	127.8	配水管埋設	200505初 旬～ 20050831	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第178号 20050511
20050428	散布地 集落跡	名称未定散布地	高松田中456地先～下土 田96-2地先	170.88	配水管埋設	200505初 旬～ 20050719	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第179号 20050511
20050502	集落跡	津島新野遺跡	津島新野一丁目 3-23 地先～2-10地先	66.1	配水管埋設	～ 20050831	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第181号 20050511
20050511	集落跡	津島遺跡	伊島町一丁目3-50地先～ 8-1地先	60.5	配水管埋設	200505初 旬～ 20050721	岡山市水道事業管 理者 水道局長	掘削時立会	教文埋第206号 20050517
20050517	集落跡	百間川原尾島遺跡	原尾島二丁目20地先～25 地先	83.4	配水管埋設	200506中 旬～ 20050927	岡山市水道事業管 理者 水道局長	掘削時立会	教文埋第266号 20050530
20050517	集落跡	乙多見遺跡	乙多見287-2地先～321 地先	78.3	配水管埋設	200506中 旬～ 20051028	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第255号 20060530
20050517	散布地 集落跡	東岡山遺跡	長岡541-1地先～558地 先	94.6	配水管埋設	200506中 旬～ 20051028	岡山市水道事業管 理者 水道 局長	慎重工事	教文埋第254号 20050530
20050527	散布地 集落	余町遺跡	足守248-2先～ 249 番地先	32.35	配水管埋設	～ 20050829	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第293号 20050607
20050527	散布地 集落跡	名称未定散布地	高松田中492番地先～4- 1番地先	71.59	配水管埋設	～ 20050829	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第292号 20050607
20050601	集落跡	津島江道遺跡	津島東一丁目1番1号	27,695	公共下水道接続 に伴う排水管改 修	200507下 旬～ 20050831	岡山市長	掘削時立会	教文埋第295号 20050607
20050601	集落跡	南方遺跡	富田町1丁目4-6番地先ほ か	294.5	引き込み管埋 設	20050620 ～ 20050930	中国電力株式会社 岡山営業所 所 長	掘削時立会	教文埋第296号 20050610

20050617	城館跡	亀山城跡	沼1738番地先～1801番地先	176	神社参道(市道)整備	20050701～20050729	岡山市長	掘削時立会	教文埋第395号 20050627
20050715	集落跡	乙多見遺跡	関283-2地先～293-2地先	213	配水管理設	20050808～20051125	岡山市水道事業管理者 水道局長	慎重工事	教文埋第446号 20050722
20050819	散布地 集落跡	名称未定散布地	尾上1770地先～1623地先		配水管理設	20050829～20051019	岡山市水道事業管理者 水道局長	掘削時立会	教文埋第595号 20050826
20050819	散布地 集落跡	名称未定散布地	栢谷1039-1地先～横井上1741-2地先		配水管理設	20050912～200512末	岡山市水道事業管理者 水道局長	掘削時立会	教文埋第606号 20050901
20050823	集落跡	三手遺跡	三手422地先～419地先	60.3	配水管理設	200508下旬～200510初旬	岡山市水道事業管理者 水道局長	掘削時立会	教文埋第603号 20050901
20050823	集落跡	百間川遺跡群	藤原西町二丁目3-35地先～10-3地先	306	配水管理設	20050912～20060131	岡山市水道事業管理者 水道局長	慎重工事	教文埋第605号 20050901
20050824	集落跡 墳墓 寺跡	社 赤田西遺跡 幡多磨寺	赤田79-3番地～128-1番地先	112.1	污水管理設	200510上旬～20060328	岡山市長	掘削時立会	教文埋第613号 20050906
20050829	集落跡	津島新野遺跡	津島新野1丁目地内	—	污水管理設	200509末～20060131	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第614号 20050906
20050830	集落跡	乙多見遺跡	乙多見86-1番地～105-10番地先	79.7	污水管理設	200511上旬～20060331	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第626号 20050909
20050830	官衙 集落 古墳 散布地	中井遺跡	中井8-1番地～232-12番地先	87.8	污水管理設	200510上旬～20060331	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第627号 20050909
20050830	集落跡	乙多見遺跡	乙多見330-5番地～314-1番地先	85.5	污水管理設	200510上旬～20060331	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第625号 20050909
20050905	集落跡	百間川遺跡群	藤原15-3、15-23	32.7	污水管理設	200509下旬～20060131	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第635号 20050914
20050921	集落跡	乙多見遺跡	関292-11地先～関317-2地先	236	配水管理設	20051011～20060131	岡山市水道事業管理者 水道局長	慎重工事	教文埋第706号 20050930
20050921	集落跡	赤田東遺跡	赤田159-1地先～関452-6地先まで	407	配水管理設	20051011～20060322	岡山市水道事業管理者 水道局長	慎重工事	教文埋第704号 20050930
20050926	集落跡	乙多見遺跡	関263-1番地～301-8番地先	130.6	污水管理設	200511上旬～20060331	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第722号 20051006
20050926	集落跡	乙多見遺跡	関306-2番地～306-45番地先	99.1	污水管理設	200511上旬～20060331	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第723号 20051006
20051003	散布地 集落	清水遺跡	赤田151-1番地～清水451-40番地先	77.2	污水管理設	200511上旬～20060331	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第762号 20051014
20051003	集落跡	乙多見遺跡 赤田東遺跡	関390-15～452-6地先	409.2	污水管理設	20051024～20060331	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第752号 20051013
20051003	官衙 集落 古墳 散布地	中井遺跡	中井253-1番地～326-1番地先	130.4	污水管理設	200511上旬～20060331	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第761号 20061014
20051003	集落跡	東岡山遺跡	長岡114番地～224番地先	83.7	污水管理設	200511上旬～20060331	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第763号 20051014
20051003	集落跡	乙多見遺跡	乙多見97-2～135地先	445	污水管理設	20051024～20060331	岡山市長職務代理者 岡山市助役	慎重工事	教文埋第751号 20051013
20051005	集落跡	津寺遺跡	津寺381-2番地先～391-2番地先	260	市道津寺18号線 改修	～20060228	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第781号 20051020
20051005	散布地 集落跡	幸利神社遺跡	加茂610番地先～260-18番地先	648	市道高松原古才 加茂線、加茂3 号線改修	～20060228	岡山市長職務代理者 岡山市助役	掘削時立会	教文埋第780号 20051013
20051012	集落跡	乙多見遺跡	関390-2番地～418-2番地先	83	污水管理設	200511上旬～20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第787号 20051021
20051013	散布地 集落跡	名称未定散布地	福崎100番1地先～112番1地先	600	市道高松田中福 崎線改修	～20060228	岡山市長	掘削時立会	教文埋第792号 20051021
20051013	散布地 集落跡	名称未定散布地	福崎242番1地先～200番1地先	420	高縄手水路改修	～20060228	岡山市長	掘削時立会	教文埋第793号 20051021
20051013	散布地 集落跡	雄町遺跡	雄町322-22番地～雄町308-3番地先	29.1	污水管理設	200511中旬～20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第791号 20051021

20051013	散布地 集落跡	雄町遺跡	雄町74番地～153-1番地 先	77.6	汚水管理設	200512中 旬～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第789号 20051021
20051017	集落跡	北方地藏遺跡	大和町一丁目4-28番地先 ～11-9番地先	100	配水管理設	20051114 ～ 20060217	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第801号 20051024
20051026	官衙 集落 古墳 散布地	中井遺跡名称未定 散布地	清水373～400-3番地先	92.4	汚水管理設	200511下 旬～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第831号 20051111
20051101	散布地 集落跡	雄町遺跡	雄町52-1地先～95-1地先	34	配水管理設	20051121 ～ 20060428	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第839号 20051114
20051101	集落跡	関遺跡	高屋372-3地先～49-5地 先	148	配水管理設	20051121 ～ 20060309	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第840号 20051114
20051102	集落跡	百間川遺跡群	藤原光町二丁目1-2番地 先～8-10番地先	167.9	汚水管理設	200512中 旬～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第841号 20051114
20051104	散布地	高田遺跡	惣爪311番地先～297番地 先	62	市道改修	～ 20060228	岡山市長	掘削時立会	教文埋第843号 20051114
20051114	集落 官衙 古墳	中井遺跡 名称未定散布地	中井1-1地先～清水373地 先	159.5	配水管理設	20051205 ～ 20060331	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第898号 20051125
20051114	集落跡	百間川今谷遺跡	乙多見86-3地先～兼基 277-5	199.3	配水管理設	20051205 ～ 20060331	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第986号 20051125
20051114	散布地	鹿田遺跡	鹿田町二丁目5-1地先～ 東古松五丁目6-18地先		配水管理設	20051205 ～ 20060320	岡山市水道事業管 理者 水道局長	掘削時立会	教文埋第885号 20051121
20051116	集落跡	北方地藏遺跡	岡山市大和町二丁目8-9 地先～10-21地先	53	配水管理設	200512上 旬～ 20060206	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第897号 20051125
20051118	散布地	名称未定散布地	高屋366-7番地先～高屋 457-7番地先	147.8	汚水管理設	200601上 旬～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第900号 20051125
20051121	城館跡	足守陣屋跡	足守761-2番地先～	34.07	汚水管理設	200511中 旬～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第906号 20051130
20051124	集落跡	乙多見遺跡	関292-2番地～317-24番 地先	79.5	汚水管理設	200601中 旬～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第926号 20051205
20051124	集落跡	百間川遺跡群	高屋84-2番地～96番地先	28.8	汚水管理設	200601中 旬～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第925号 20051205
20051124	散布地	名称未定散布地	津島笹ヶ瀬5-21番地～津 島西坂二丁目6-25番地先	660	汚水管理設	200601下 旬～ 20061220	岡山市長	掘削時立会	教文埋第923号 20051205
20051129	集落跡	赤田東遺跡 関遺跡	高屋362-6番地～関44-1 番地先	134.2	汚水管理設	200601上 旬～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第930号 20051205
20051209	集落跡	百間川遺跡群 原尾島遺跡藤原光 町三丁目地点	藤原光町二丁目14-3地先 ～18-1地先	279	配水管理設	20060123 ～ 20060331	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第982号 20051215
20051209	集落跡	妹尾住田遺跡	妹尾1224-2番地先～915 番地先	188	配水管理設	200601中 旬～ 20060512	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第983号 20051215
20051220	散布地 城館跡	高松沼田遺跡 備中高松城跡	高松385-6番地先～150番 地先	995	市道高松稲荷高 松線改修	～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1027号 20051228
20051222	集落跡	赤田西遺跡	清水426-3番地～赤田 108-5番地先	68	汚水管理設	200601中 旬～ 20061222	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1028号 20051228
20051222	集落跡	赤田東遺跡	岡山市関494-2番地～赤 田159-1番地先	137.9	汚水管理設	200601中 旬～ 20061222	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1031号 20051228
20060105	集落跡	北方遺跡	北方一丁目1-3地先～15- 20地先	193.8	配水管理設	200601下 旬～ 20060331	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第1063号 20060116
20060105	集落跡	津島遺跡	学南町二丁目5-12地先～ 5-26地先	48	配水管理設	200601下 旬～ 20060421	岡山市水道事業管 理者 水道局長	慎重工事	教文埋第1064号 20060116
20060112	城館跡	撫川城跡	撫川410-4、426-1番地先	1,000	護岸集計整備及 び浚渫	20060123 ～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1081号 20060119
20060208	散布地	名称未定散布地	乙多見105-45番地～105- 10番地先	94.4	汚水管理設	200602上 旬～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1167号 20060214
20060208	散布地	名称未定散布地	乙多見136-13番地～142- 9番地先	150.8	汚水管理設	200602下 旬～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1168号 20060214
20060210	集落	百間川遺跡群	藤原西町二丁目6-50-1番 地～ 藤原西町一丁目146-1番 地先	6.8	汚水管理設	200603中 旬～ 20060531	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1174号 20060216
20060214	散布地	名称未定散布地	門前787番地先	35	市道改修	～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1208号 20060221

20060214	散布地	名称未定散布地	平山355番地先～356番1地先	100	市道改修	～ 20060331	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1207号 20060221
20060215	散布地 集落跡	大供本町遺跡	大供本町468-3地先～厚生町二丁目19-24地先	210	配水管埋設	20060401 ～ 20061031	岡山市水道事業管理者 水道局長	慎重工事	教文埋第1209号 20060221
20060223	集落跡	北方遺跡ほか	中井町一丁目5-8地先～5-21地先	110	配水管埋設	200603上 旬～ 20060615	岡山市水道事業管理者 水道局長	慎重工事	教文埋第1250号 20060303
20060223	古墳	造山古墳	新庄下1212-2地先～1237-1地先	334	市道舗装修繕	～ 20060331	岡山市長	立会調査	教文埋第1255号 20060303
20060224	集落跡	赤田西遺跡	赤田294-1番地～303-2番地先	73.8	汚水管埋設	200604下 旬～ 20061130	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1259号 20060306
20060302	散布地	津島東遺跡ほか	津島東四丁目10-43番地～津島東二丁目6-35番地先	4100	汚水管埋設	200603上 旬～ 20061220	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1274号 20060309
20060302	集落跡	北方地藏遺跡ほか	大和町二丁目4-50番地～9-5番地	1661	汚水管埋設	200603上 旬～ 20061220	岡山市長	掘削時立会	教文埋第1275号 20060309
20060310	城館跡	岡山城二の丸跡 (石山門跡)	丸の内一丁目3番地先	1	郵便差し出し箱 の設置	未定	岡山中央郵便局	掘削時立会	教文埋第1304号 20060317

埋蔵文化財発掘調査の報告（第99条の1）

9件

種類及び遺跡名	所在地	面積	目的及び原因	調査期間	調査主体者	担当者	文書番号
		(㎡)					目付
古墳 南坂8号墳 城館跡 一国山城跡	岡山市下足守宇隠地1012他(南坂8号墳) 岡山市下足守624他(一国山城跡)	600 1000	土砂採取	20041012 ～ 20050331	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財副専門監 神谷正義 文化財保護主事 河田健司 文化財保護主事 西田和浩	岡教文第689号 20050401
散布地 大供本町遺跡	岡山市大供本町地内	1200	市道建設	20050509 ～ 20050831	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 長谷川一 英 主任 高橋伸二	岡教文第183号 20050603
古墳 南坂15号墳他	岡山市下足守宇隠の内944他	600	土砂採取	20050516 ～ 20050831	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財保護主事 河田健司 文化財保護主事 西田和浩	岡教文第147号 20050519
散布地 五反地・国長遺跡	岡山市高島新屋数字広町123-1	66	集合住宅の建設	20050622 ～ 20050729	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草原孝典 文化財保護主事 安川 満	岡教文第309号 20050712
集落跡 上沼遺跡	岡山市高松原古才584-1	93	その他建物(病院)建設	20050801 ～ 20050806	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 扇崎 由	岡教文第626号 20051027
集落跡 南方遺跡	岡山市国体町3-12	300	その他建物(病院等)建設	20050912 ～ 20051024	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 扇崎 由	岡教文第327号 20051027
古墳 製鉄関連遺跡 醫王谷遺跡群	岡山市日近767他	3000	農業基盤整備	20051005 ～ 20051231	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 長谷川一 英 文化財保護主事 西田和浩	岡教文第682号 20051114
集落跡 生産遺跡 水田 百間川原尾島遺跡	岡山市原尾島850-3・850-4	10	集合住宅の建設	20051111	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財保護主事 安川 満	岡教文第656号 20051104
城館跡 岡山城二の丸跡	岡山市内山下一丁目14-103	70	集合住宅の建設	20051209	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 長谷川一 英	岡教文第 号 20051215

埋蔵文化財発掘・確認調査の報告（第99条）

20件

調査期間	種類	遺跡名	所在地	包蔵地の有 無	目的及び原因	面積 (㎡)	調査主体者	担当者	文書番号 目付
20050517	未周知	—	中井町二丁目1635-11、 1635-18	無	集合住宅の建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草原孝典 文化財保護主事 安川 満	岡教文第144号 20050518
20050812	古墓 集落 散布地	雄町遺跡	雄町374-1	有	店舗・個人住宅の 建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財保護主事 安川 満	岡教文第397号 20050817
20050831	散布地	鹿瀬遺跡	御津鹿瀬宇明大215番2	無	携帯電話基地局	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財保護主事 安川 満	岡教文第454号 20050901

20050901	集落	上伊福西遺跡	京山二丁目1373番地	無	携帯電話基地局	4	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財保護主事 安川 満	岡教文第458号 20050902	
20050909	集落	上伊福遺跡	伊福町二丁目 345-4、345-11、345-12、345-13	有	集合住宅の建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財保護主事 安川 満	岡教文第481号 20050912	
20050913	城館	岡山城三之曲輪跡	石関町4-102	有	校舎建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財保護主事 安川 満	岡教文第496号 20050915	
20050920	城館	岡山城二の丸跡	丸の内二丁目 -116	7	無	集合住宅の建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草原孝典	岡教文第571号 20051012
20051006	散布地	新原遺跡	御津新庄3040番地	無	土砂採取	8	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化 財副専門監 神谷正義 文化財保護主事 安川 満	岡教文第556号 20061011	
20051013	未周知	—	津島南一丁目910-1	無	集合住宅の建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草原孝典	岡教文第719号 20051121	
20051116	集落	上伊福遺跡	清心町8	有	集合住宅の建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草原孝典 文化財保護主事 河田健司	岡教文第774号 20051207	
20051124	未周知	—	学南町三丁目740-4ほか	無	集合住宅の建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草原孝典	岡教文第769号 20061206	
20061124	未周知	—	下足守字宮山467番地1	無	携帯無線基地局 の建設	8	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草原孝典 主任 高橋伸二	岡教文第760号 20051202	
20051128	未周知	—	東古松2二丁目03-9	無	集合住宅の建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財保護主事 安川 満	岡教文第776号 20061207	
20051205	集落	上伊福・伊福国定 前遺跡	伊福町三丁目923番ほか	有	集合住宅の建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草原孝典 文化財保護主事 河田健司	岡教文第777号 20051205	
20051214	未周知	—	小山字棚橋18-3	無	集合住宅の建設	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財保護主事 安川 満	岡教文第809号 20051216	
20051226	散布地	名称未定散布地	幸町10番101・1001	無	集合住宅の建設 他	4	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草原孝典 文化財保護主事 西田和浩	岡教文第837号 20051227	
20051226	貝塚	黒和貝塚	邑久郷南水門町地内	無	学校建設	9	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化 財副専門監 神谷正義 文化財保護主事 安川 満	岡教文第843号 20051228	
20060127	集落	上伊福・伊福国定 前遺跡	伊三丁目933番5	有	集合住宅の建設	4	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草原孝典 文化財保護主事 河田健司	岡教文第934号 20060201	
20060203	城館	岡山城三之曲輪跡	天神町10-21	無	ガソリンスタンド 改築	2	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 主任 草 原孝典	岡教文第970号	
20060327	未周知	—	高島一丁目地内	無	その他建物の建 設	4	岡山市教育委員会 教育長	岡山市教育委員会 文化財保護主事 河田健司 文化財保護主事 西田和浩	岡教文第1122号 20060329	

埋蔵文化財発見通知 (第100条) 埋蔵文化財鑑査(第102条)

4件

物件名・数量	発見の場所	発見年月日	発見者	土地所有者	保管場所	文書番号
						目付
土師器 2箱 須恵器 1箱 弥生土器 1箱 鉄剣 2本 人骨 2体	下足守字椋ノ内944他	20050516~ 20050902	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長	事業者	岡山市埋蔵文化 財センター	岡教文第459号 20050906
弥生土器 35箱 石器 1箱 動物骨 1箱	国体町3番12号	20051024	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長	事業者	岡山市埋蔵文化 財センター	岡教文第628号 20051027

弥生土器・土師器 須恵器 鉄器 銀環 炉壁・鉄滓	5箱 2箱 1箱 1点 5箱	日近767ほか	20051005～ 20051205	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長	事業者	岡山市埋蔵文化 財センター	岡教文第785号 20051208
弥生土器・土師器・ 土師質土器・瓦器・ 陶器・青磁・白磁・ 緑釉陶器・近世陶磁器 木器・銭貨	106箱 1箱	大供本町地内	20050509～ 20060324	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長	岡山市大供一丁目 1番1号 岡山市長	岡山市埋蔵文化 財センター	岡教文第1128号 20060328

記念物現状変更申請（第125条）

31件

種別および名称	所在地	目的および原因	期間	申請者	面積㎡	対応・指導事項等	文書番号 日付
史跡 神宮寺山古墳	中井町一丁目5	墓地用区画内に墓石を設 置	許可の日～	神宮寺山共同墓 地管理組合総代	4	・実施にあつては当教育委員会文 化財課職員の立会を求めること。 ・実施にあつては岡山市教育委員 会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員 会指令文 第270-1号 20050411
天然記念物 アユモドキ	賞田地内	水質測定及び生物層の調 査	許可の日～	学校法人加計学 園 岡山理科大学 専門学校 校長	—	・実施にあつては当教育委員会文 化財課職員の立会を求めること。 ・実施にあつては岡山市教育委員 会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員 会指令文 第279-1号 20050516
特別名勝 後楽園 史跡 岡山城跡	後楽園1番5号	後楽園内の沢の池砂利島 付近をタンチョウの仮設 飼育場として改修	許可の日～ 20050831	岡山県知事	240	・工事にあつては岡山県教育委員 会職員の立会を求めること ・その他実施にあつては岡山県教 育委員会の指示を受けること。	17委庁財第4の 170条 20050520
特別名勝 後楽園 史跡 岡山城跡	後楽園1番5号	植栽の補植	許可の日～ 20050731	岡山県知事	231	・事業実施に際しては、特別名勝、 史跡の遺構及び景観に影響しないよう 注意して実施すること。	岡山市教育委員 会指令文 第159-1号 20050524
天然記念物 アユモドキ 天然記念物 オオサンショウウオ	市内 (旭川・砂川・宇甘 川)	旭川水系で実施する「河 川水辺の国勢調査」にお いて天然記念物を捕獲す る可能性があるため。	8月上旬～ 10月上旬	岡山県知事	—	・事業実施にあつては、当教育委員 会の指示のもと、アユモドキの生 存には十分に注意を払うこと。	岡山市教育委員 会指令文 第173-1号 20050525
天然記念物 アユモドキ	一時捕獲・放流地・ 祇園・賞田地内 一時保護地 国府市場99-5 高島公民館	湯水期の間アユモドキを 一時的に保護するため	許可の日～ 20050630	岡山市教育委員 会教育長	—	・実施にあつては岡山県教育委員 会の指示を受けること。	17委庁財第4の 264号 20050617
史跡 津島遺跡	いずみ町	ユニットハウス・テント 設置	許可の日～ 20051028	「晴れの国おかや ま国体・輝いて！ おかやま大会」岡 山市実行委員会 委員長	—	・事業実施に関しては、史跡の遺構、 景観に影響がないよう注意して実施 すること。 ・テント設置に関しては、可能な限 り「ウエイトタイプ」で実施すること。	岡山市教育委員 会指令文 第238-1号 20050621
史跡 津島遺跡	いずみ町	老朽化した水道管の撤 去、新規埋設	許可の日～ 20050630	岡山県知事	—	・掘削に際しては、岡山市教育委員 会文化財課職員の立会を求めること。 ・その他、実施にあつては岡山市 教育委員会文化財課の指示に従うこ と。	岡山市教育委員 会指令文 第249-1号 20050624
史跡 造山古墳（附第1～第 6古墳）	新庄下996-3ほか 6古墳	測量図を作成するため の、測量基準点設置、下 草刈等	許可の日～ 20080331	岡山大学文学部 考古学研究室教 授	—	・下草、木竹の伐採は、下草の刈り 払い、樹木の枝払いにとどめ、木竹 の伐採が必要な場合は別途市教育委 員会文化財課と協議の上その指示に 従うこと。 ・その他実施にあつては市教育委員 会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員 会指令文 第248-1号 20050624
史跡 大廻小廻山城跡	草ヶ部1815-14の 一部、1815-34	史跡地内の土地に、産業 廃棄物積み替え施設また は保管施設を設置。	許可の日～ 20150325	有限会社R. S. K 代表取締役	—	・事業実施に関しては、史跡の遺構 に影響がないよう注意して実施する こと。 ・実施 にあつては市教育委員会文化財課 の指示に従うこと。	岡山市教育委員 会指令 第310-1号 20050713
特別名勝 後楽園 史跡 岡山城跡	岡山市後楽園	「幻想庭園」実施に伴い、 証明灯、ローソク、発光 ダイオード、クリア電球、 発電機等、仮設ステージ、 イントレを設置する。	許可の日～ 20050831	岡山県知事	—	・事業実施に際しては、岡山県教育 委員会文化財課職員の立会を求め ること。 ・その他実施にあつては当教育委員 会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員 会指令文 第333-1号 20050725
特別名勝 後楽園 史跡 岡山城跡	後楽園1番5号	おかやま国体集火式に必 要な集火台、ステージ、 テント等の設置	20050808～ 20050812	「晴れの国おかや ま国体・輝いて！ おかやま大会」実 行委員会会長	—	・事業実施に際しては、岡山県教育 委員会文化財課職員の立会を求め ること。 ・その他実施にあつては当教育委員 会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員 会指令文 第358-1号 20050803
史跡 岡山藩主池田家墓所	円山1083ほか	配水管の撤去	許可の日～ 20051130	岡山市長	—	・掘削に際しては当教育委員会文化 財課職員の立会を求めること。 ・実施にあつては当教育委員会文 化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員 会指令文 第364-1号 20050804

史跡 津島遺跡	いずみ町	園路の劣化した舗装の撤去と新たな舗装の施行	許可の日～ 20050630	岡山県知事	—	・実施にあたっては、当教育委員会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第379-1号 20050809
史跡 岡山城跡	丸の内二丁目3番 /9011ほか	「おかやま菊花大会」開催のために鳥城公園内に仮設物を設置	20051008～ 20051120	岡山市長職務代理者 岡山市助役	—	・実施にあたっては、当教育委員会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第498-1号 20060915
史跡 神宮寺山古墳	中井町1丁目5	墓地用区画内に、玉垣、墓石、供物台壘標を設置	許可の日～ 20051130	神宮寺山共同墓地管理組合総代	8.446	・施工に際しては当教育委員会文化財課職員との立会を求めること。 ・実施にあたっては当教育委員会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第583-1号 20051017
天然記念物 アユモドキ	祇園地内	祇園用水路の改修工事	許可の日～ 20060331	岡山県備前県民局局長	—	・事業実施に際しては、生息に十分な水量を確保するとともに、工事中の濁水等にも十分に注意し、生息に影響のないよう実施すること。 ・保護のため一時捕獲した場合は、速やかに生息可能な水域に放流すること。なお、その際捕獲地点から大きく移動させないこと。 ・施工に際しては、岡山県教育委員会文化財課、岡山市教育委員会文化財課と連絡協議の上、その指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第591-1号 20051019
特別名勝 後楽園 史跡 岡山城跡	岡山市後楽園	秋夜夜間開園のため、園内に照明灯、発電機等、仮設ステージ、イントレを設置	20051018～ 20051110	岡山県知事	—	・実施にあたっては、岡山県教育委員会文化財課、岡山市教育委員会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第592-1号 20051019
特別名勝 後楽園 史跡 岡山城跡	岡山市後楽園	イベント案内板、誘導看板の設置	許可の日～ 20051130	岡山県知事	—	・施工に際しては、岡山県教育委員会文化財課職員との立会を求めること。 ・実施にあたっては、岡山県教育委員会文化財課、岡山市教育委員会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第618-1号 20051024
史跡 浦間茶臼山古墳	浦間字茶臼山700番 ほか	崩落防止のために前方部の法面に2段の竹柵を設置。	許可の日～ 20060331	岡山市長	—	・工事に際しては、岡山市教育委員会職員(埋蔵文化財担当)の立会を求めること。 ・実施にあたっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	17委庁財第4の 1212号 20051118
史跡 賞田廃寺跡	賞田471-1ほか	市道へのアスファルト舗装	許可の日～ 20051220	岡山市長	—	・実施に際しては岡山市教委印文化財課職員との立会を求めること。 ・実施にあたっては岡山市教育委員会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第726-1号 20051124
特別名勝 後楽園 史跡 岡山城跡	岡山市後楽園	電柱の立替、配電線の移設	許可の日～ 20051227	中国電力株式会社岡山営業所所長	—	・実施にあたっては岡山県教育委員会の指示を受けること。	17委庁財第4の 1322号 20051209
天然記念物 アユモドキ	祇園地内	農業用河川工作物応急対策事業に伴う、地質調査、測量。	許可の日～ 20060308	岡山県備前県民局局長	—	・事業実施に際しては、生息に十分な水量を確保するとともに、工事中の濁水等にも十分に注意し、生息に影響のないよう実施すること。 ・保護のため一時捕獲した場合は、速やかに生息可能な水域に放流すること。なお、その際捕獲地点から大きく移動させないこと。 ・施行場所及びその下流で、生息に必要な水量を確保できない恐れのある場合には、あらかじめ岡山県教育委員会文化財課、岡山市教育委員会文化財課と対応等協議すること。 ・施工に際しては、岡山県教育委員会文化財課、岡山市教育委員会文化財課と連絡協議の上、その指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第791-1号 20051209
史跡 津島遺跡	いずみ町	史跡整備計画(国庫補助事業)に基づく、既存園路の撤去、主園路の設置、	許可の日～ 20060331	岡山県知事	—	・工事にあっては、岡山県教育委員会職員の立会を求めること。 ・実施にあたっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	17委庁財第4の 1205号 20051219
特別名勝 後楽園 史跡 岡山城跡	後楽園	曲水護岸整備	許可の日～ 20060331	岡山県知事	63.9	・工事にあっては、岡山県教育委員会文化財課職員との立会を求めること。 ・実施にあたっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	17委庁財第4の 1512号 20060120
史跡 賞田廃寺跡	賞田471-1ほか	史跡賞田廃寺跡の史跡整備事業の一環として、主要堂・塔域の基盤整備。管理用道路の整備	許可の日～ 20060331	岡山市長	11854	・工事に際しては、岡山市教育委員会職員(埋蔵文化財担当)の立会を求めること。 ・実施にあたっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	17委庁財第4の 1418号 20060120



天然記念物 アヌモドキ	賞田地内	賞田地内水路修繕工事	許可の日～ 20060331	岡山市長	—	・事業実施に際しては、生息に十分な水量を確保するとともに、工事中の濁水等にも十分に注意し、生息に影響のないよう実施すること。 ・保護のため一時捕獲した場合は、速やかに生息可能な水域に放流すること。なお、その際捕獲地点から大きく移動させないこと。 ・施行場所及びその下流で、生息に必要な水量を確保できない恐れのある場合には、あらかじめ岡山市教育委員会文化財課、岡山市教育委員会文化財課と対応等協議すること。 ・施工に際しては、岡山市教育委員会文化財課、岡山市教育委員会文化財課と連絡協議の上、その指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第925-1号 20060131
特別名勝 岡山後楽園 史跡 岡山城跡	後楽園	既設の避雷針撤去新規避雷針設置	許可の日～ 20060331	岡山市知事	—	・工事に際しては、岡山市教育委員会職員の立会を求めると。 ・実施にあたっては岡山市教育委員会の指示を受けること。	17委庁財第4の 1634号 20060217
史跡 大廻小廻山城跡	草ヶ部1815-3ほか	ステンレス製説明看板及びそのコンクリート基礎の設置	許可の日～ 20060331	岡山市教育委員会 教育長	—	・工事の実施に際しては、岡山市教育委員会文化財課職員の立会を求めると。 ・実施にあたっては岡山市教育委員会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文第1010 -1号20060222
史跡 造山古墳	新庄下996-3ほか	後円部北側斜面の竹の刈り払い及び前方部の高木三本の伐採	許可の日～ 20060331	岡山市教育委員会 教育長	1,625	・工事の実施に際しては、岡山市教育委員会文化財課職員の立会を求めると。 ・実施にあたっては、岡山市教育委員会文化財課の指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第1009-1号 20060222
史跡 岡山城跡	丸の内二丁目3-1	「桂文珍の岡山城かがり火落語」開催のため、仮設ステージの設置及び、客席用にブルーシート敷	許可の日～ 20060331	岡山城伝統文化 鑑賞会	—	・実施にあたっては、岡山市教育委員会文化財の指示に従うこと。	岡山市教育委員会 指令文 第1125-1号 20060328

その他の届出・申請等

11件

種類及び名称	面積	所在地	目的及び原因	期間	通知者等	対応・指導事項	文書番号・日付
	(㎡)						

文化財保護法第33条(滅失・毀損)の届出

史跡 浦間茶臼山古墳	—	浦間字茶臼山700番ほか	台風14号による豪雨のため、前方部南東端、後円部南東斜面の土砂が流出	20050908	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長職務代理人 岡山市助役	—	岡教文第520号 20050928
---------------	---	--------------	------------------------------------	----------	------------------------------------	---	----------------------

文化財保護法第53条(所有者等以外の者による公開)

国宝 紙本金地著色風俗図 (彦根屏風) 国指定重要文化財 (工芸品) 我宿時絵硯箱 国指定重要文化財 (古文書) 彦根藩井伊家文書	—	滋賀県彦根市金亀町1番1号 (彦根城博物館)	特別展「彦根藩井伊家の名宝」開催のため	20050808 ～ 20050821	岡山市丸の内2-7-15 財団法人林原美術館 館長	—	17委庁財第12の5 号20050705
---	---	---------------------------	---------------------	---------------------------	---------------------------------	---	-------------------------

岡山県文化財保護条例第7条第1項(所有者変更の届出)

史跡 木下利玄生家	—	足守800・801	土地建物とも既に岡山市の所有となっているが、諸般の事情により所有者変更届出が未提出であったため、今回提出したもの。	19880401	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長	—	岡緑第709号 20050801
--------------	---	-----------	---	----------	----------------------	---	---------------------

岡山県文化財保護条例第8条滅失・き損の届出)

史跡 旧足守藩侍屋敷遺構	—	足守752	台風14号による豪雨のため、南側土塀漆喰が剥離	20050908	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長	—	岡教文第1005号 20060222
-----------------	---	-------	-------------------------	----------	---------------------------------	---	-----------------------

岡山県文化財保護条例第9条(所在場所の変更の届出)

県指定重要文化財 木造伝聖観音菩薩立像	—	国富三丁目1番29号	総本山善通寺宝物館で開催される善通寺創建1200年記念「密教のほとけ—曼陀羅・仏像・仏画—」展出陳のため。	20060418 ～200606 下旬	岡山市国富三丁目1番29号 宗教法人 安住院 代表役員	—	—
------------------------	---	------------	---	---------------------------	-----------------------------------	---	---

## 岡山県文化財保護条例第12条第1項(現状変更許可申請)

名勝 近水園	-	足守803	枯死した楓の伐採及び移植	許可の日 ～ 20050728	岡山市大供一丁目 1番1号 岡山市教育委員会 教育長	岡教文第353号 20050728付けで 完了届提出	岡山県教育委員 会指令教文保第 350号20050623
史跡 徳倉城	-	御津河内字城山	本丸頂上付近の樹木が石垣に 悪影響を与えているため伐採 する	許可の日 ～ 20060226	岡山市御津河内 1615-2 徳倉城跡観光保存 会	20060301に完了 届提出	岡山県教育委員 会指令文保第 1093号 20060120

## 岡山県文化財保護条例第36条(修理の届出)

史跡 木下利玄生家	-	足守800・801	長年の風雨のため破損著しい ため、門扉・屋根瓦の修理を行 うもの。	20051001 ～ 20051031	岡山市大供一丁目 1番1号 岡山市長		岡緑第622号 20050817
名勝 近水園(吟風閣)	-	足守803	長年の風雨のため破損著しい ため、屋根の修理を行うもの。	20060227 ～ 20060331	岡山市大供一丁目 1番1号 岡山市教育委員会 教育長		教文埋第1007号 20060222

## 岡山県文化財保護条例施行規則第3条第2項(指定書再交付申請)

史跡 木下利玄生家	-	足守800・801	指定書紛失のため	20060220 に再交付	岡山市大供一丁目 1番1号 岡山市長		岡緑第1033号 20051206
--------------	---	-----------	----------	------------------	--------------------------	--	----------------------

## 岡山市文化財保護条例第12条第1項(現状変更許可申請)

市指定重要文化財 岡山神社随神門	-	石関町2-33	市指定重要文化財の指定によ り当該建造物が、消防法第17 条第1項の防火対象物に準じ た扱いになったため、同法に 定める消防の用に供する設備 を設置するため。	許可の日 ～ 20060331	岡山市石関町2- 33 宗教法人岡山神社 代表役員		
---------------------	---	---------	--	-----------------------	------------------------------------	--	--

# 南方(済生会)遺跡から出土した大型植物化石

新山雅広 (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

岡山県南方(済生会)遺跡の弥生時代の食用植物を明らかにする一端として炭化種実の検討を行った。検討したのは、煮炊きに使用した土器の内面に付着している炭化種実であり、調理していた内容を調べることを目的とした。

## 2. 試料と方法

検討した土器は、E③河中(2)~(3)/木材集積1周辺の土器片、Dブロック13層上部(甕)、Dブロック13層上部(壺)、D河道3上部(甕)である。同定は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。

## 3. 出土した大型植物化石

各土器の内面付着物は、発泡して原形をとどめない炭化物であり、形態による識別はできなかったが、炭化物中にはアワの穎片がしばしば混じっていた。以下に、各土器片の炭化物の状況を記載する。

E③河中(2)~(3)/木材集積1周辺の土器片：土器片の半分位の面積に炭化物が付着していた。アワ穎は少ないが、少なくとも1点は確認できた。

Dブロック13層上部(甕)：アワ穎の断片が多く、やや集中的に確認できる部分もあった。

Dブロック13層上部(壺)：壺内面の2/3位の面積に炭化物が付着しており、アワ穎片がしばしば混じる。やや集中的に確認できる部分もあり、完形に近い穎も見られた。

D河道3上部(甕)：土器片は3片あり、2個体ある。1つの小さな土器片は、明らかなアワ穎片は少ないが、2つの大きな土器片にはアワ穎片がしばしば混じり、やや集中している部分もある。D河道3上部(甕)は、他の土器片とは異なり、アワ穎以外の明らかな植物遺体片も混じる。この植物遺体片は、種実の類ではないが、細い枝状ないし茎状であり、草本起源ではないかと思われる。

## 4. 主な大型植物化石の形態記載

### (1)アワ *Setaria italica* Beauv. 炭化穎

側面観はやや細長い楕円形。穎の表面には、やや規則的に配列する微小な突起があり、横方向の波状の隆起があるように見える。

## 5. 考察

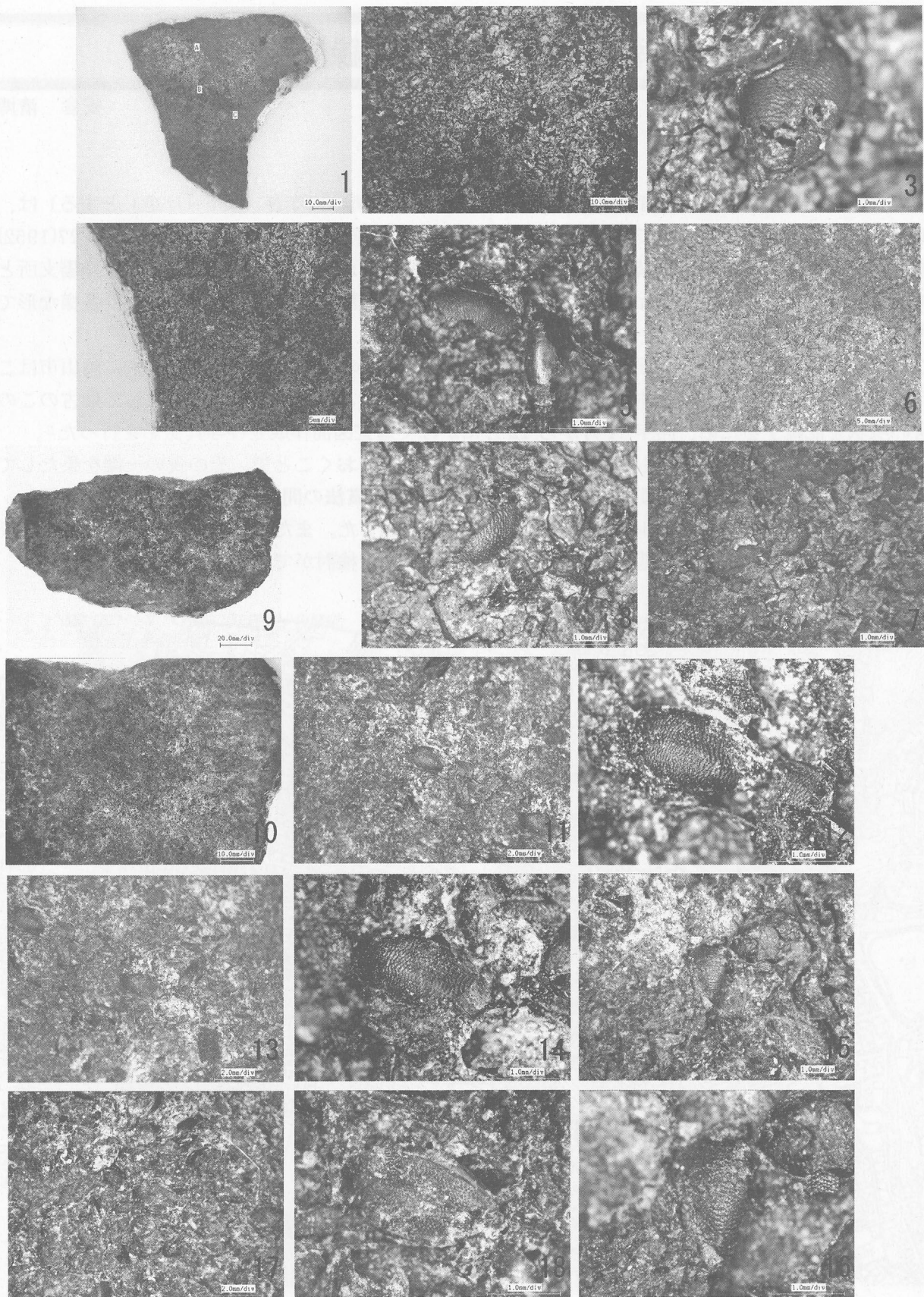
土器の内面に付着した炭化物は、アワ穎がしばしば混じることから、アワを主体としている可能性が考えられた。アワは栽培植物であり、弥生時代の食用植物であったと考えられる。しかし、検出されたのは食用部位の胚乳ではなく、穎であり、D河道3上部(甕)の土器片には、明らかに食用部位ではない草本と思われる枝状ないし茎状の遺体が混じる。このことから、検討した土器片が煮炊きなどの調理以外の目的で使用された可能性も考えられる。

## 6. おわりに

土器の内面に付着していた炭化物は、アワを主体としていることが推定されたが、この土器は煮炊きなどの調理以外の目的で使用された可能性が考えられた。

### (補足)

当該資料は、1993年から1996年にかけて調査した南方(済生会)遺跡の河道中から出土した土器である。Dブロック13層上部(壺)はⅡ様式、他の3点はⅢ様式の土器である。D河道3上部(甕)は分析を依頼した当初は1個体と考えていたが、その後の接合作業により2個体と判明した。(扇崎)



図版1 Dブロック13層上部出土壺および壺内付着のアワ類

1. 壺全体像 2. 〇囲いAの拡大 3. アワ類背面(2の〇囲いの拡大) 4. 〇囲いBの拡大 5. アワ類背面(4の中央付近の拡大) 6. 〇囲いCの拡大 7. 「6」の拡大 8. アワ類背面(7の拡大) 9. 壺全体像 10. 「9」の右上部拡大 11. 矢印Aの拡大 12. アワ類背面(11の中央部拡大) 13. 矢印Bの拡大 14. アワ類背面(13の中央部拡大) 15. 矢印Cの拡大 16. アワ類背面(15の中央部拡大) 17. 矢印Dの拡大 18. アワ類腹面(17の中央部拡大)

# 操南連絡所庁舎の記録調査

安倉 清博

## はじめに

岡山市操南連絡所は、岡山市倉富 22 番地にある。操南連絡所の旧庁舎（以下「庁舎」とする）は、地域の二階建て擬洋風建築として戦前より親しまれてきた。1 階は、岡山市に合併する昭和 27(1952)年までは上道郡操陽村役場、2 階は地域の集会場として使用され、岡山市合併後は 1 階が操陽支所として（のち一部が市の操南連絡所、他のスペースは公民館や図書館として）、長年にわたり多様な形で使用されてきた<sup>1</sup>。

この庁舎は 2005 年 1 月、老朽化のため取り壊されたが、その前年、2004 年 10 月末に岡山市はこの庁舎での業務を廃止した。解体はその直後という見通しの中、岡山市の現役庁舎として最古のこの庁舎の現状を記録するため、同年 11 月から 12 月にかけて適宜図面作成並び写真撮影を行った<sup>2</sup>。

本稿では、これらの記録とともに調査時の所見などを述べておくことで、その責の一端を果たしておきたい。なお、ここに掲げた図面については、建物自体は尺貫法の間尺（1 間≒182 cm）で作図し、細かい装飾等についてはメートル法単位（cm）を使用し作図した。また間尺についても、調査および原図段階ではセンチメートルを基準に測定し、後日より詳細な検討ができるよう心がけた。



第 1 図 操南連絡所の位置

## 1 小史

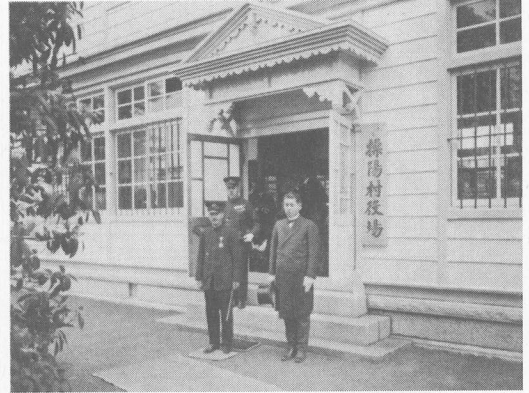
この庁舎は旧操陽村役場の記録<sup>3</sup>によると、操陽村役場として大正4(1915)年に建築されたものであることが分っている。また『操陽村史』<sup>4</sup>ではこの庁舎について「産業組合事務所」とし、あるいは「操陽村役場」としても記録しているが、後に挙げる証言からも、役場と産業組合事務所の両方を兼ねた建物であった。

さて、この庁舎が建築された当時の様相については、『操陽村史』に掲載されている、庁舎前で撮影されたいくつかの古写真から伺うことができる。大正15年「皇太子殿下御使」の写真は、南側の正面玄関前で撮影されたもので、使者と村長らが撮影されている(第2図)。またこの際記念に撮影されたものであろう「村役場」全景写真は、南南東方向からの撮影であるが、建物南側には若干の前庭があり、庭と水田の間を木柵で仕切っている。前庭の東側には門があり、その脇には掲示板が、門の南側には板塀がみられる。門は両側中開の木板で、板塀とともに瓦屋根である(第3図・第4図)。

この建物についての当時の人々の反応は、「大正末期から、昭和初期の倉富地区は、役場とそれに付属した産業組合や倉庫のほかは一面の水田と藁ぶきの農家が点在する純農村でした。当時の村役場(現操南連絡所)は、そのころとしてはめずらしい二階建て白塗りのスマートな建築物で、東山峠から眺めるとひととき大きくそびえていました。『立派な建物じゃなあ、ありゃあ何なら』と牛窓往来(県道西大寺神崎線)を通行する人々も感心し、村人もそれを誇りにしていました。」<sup>5</sup>と言われ、この地域におけるシンボリックな存在であった。

昭和初期以降には、この建物の1階は操陽村役場と産業組合(のち農会、農業協同組合)の事務所があり、2階は集会場で、役場時代には村会や選挙、敬老会など、村を挙げての催し物が行われていた。

昭和27(1952)年3月には操陽村が岡山市に編入合併、操陽村役場は4月から岡山市操陽支所となり、村政を担う機能は解消された。しかしその後も地域の催事には頻繁に利用され<sup>6</sup>、一方では支所、のちには連絡所としての機能を保ちつつ、昭和49(1974)年には旧役場執務室および宿直室が「操陽図書館」として開放された<sup>7</sup>。またこの頃2階は「操陽公民館」として集会が行われたり<sup>8</sup>、水道や流し台などを設備して料理教室などが行われていた。だが施設の老朽化で、平成初年頃からしだいに使用されなくなり、やがて図書館も閉鎖され、ここ数年は連絡所の機能以外は忘れられた状態となっていた。



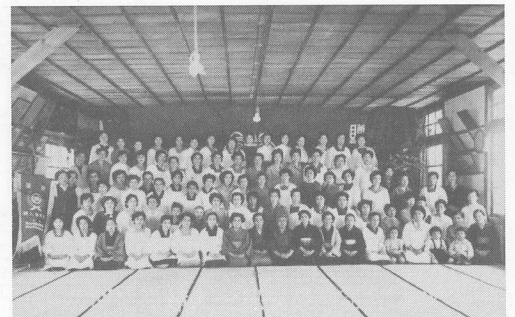
第2図 「皇太子殿下御使」  
大正15年5月2日(『操陽村史』より)



第3図「村役場」大正15年の御使来村の際のものか?(『操陽村史』より)



第4図「産業組合事務所」  
撮影時期不明(『操陽村史』より)



第5図 岡山市婦人体育会優勝記念  
(2階大広間にて)  
昭和35年5月16日(湯浅清子氏所蔵)



0 1 2間

第6図 庁舎外觀実測図1 (上:南面 下:北面)  
北面礎石の一部は実測不能のため省略。屋根も後補した。



第7図 庁舎外観実測図2（左：東面 右：西面） 屋根は後補した。

## 2 解体前の状況と所見

建物は全体に旧来の姿を保ちつつも、長年の使用で部分的に多くの手が加えられていた。調査時の状況や所見を、各部屋・単位ごとに述べておきたい。

### 外観

庁舎周辺に、新しい建物が建て込んだり、また庁舎北面には荒廃した中庭があるなど、建物全体を眺望することは困難な状況であった。第6図および第7図に示す外観実測図は、できる限り実測可能な部分は計測し、記録したが、北面の中庭部分や2階東西面、屋根部分については実測が不可能であったため、他部分の計測値を引用・整合した。特に屋根については、2階平面図と写真を参考に屋根の平面図を起こし、それをもとに作図した。

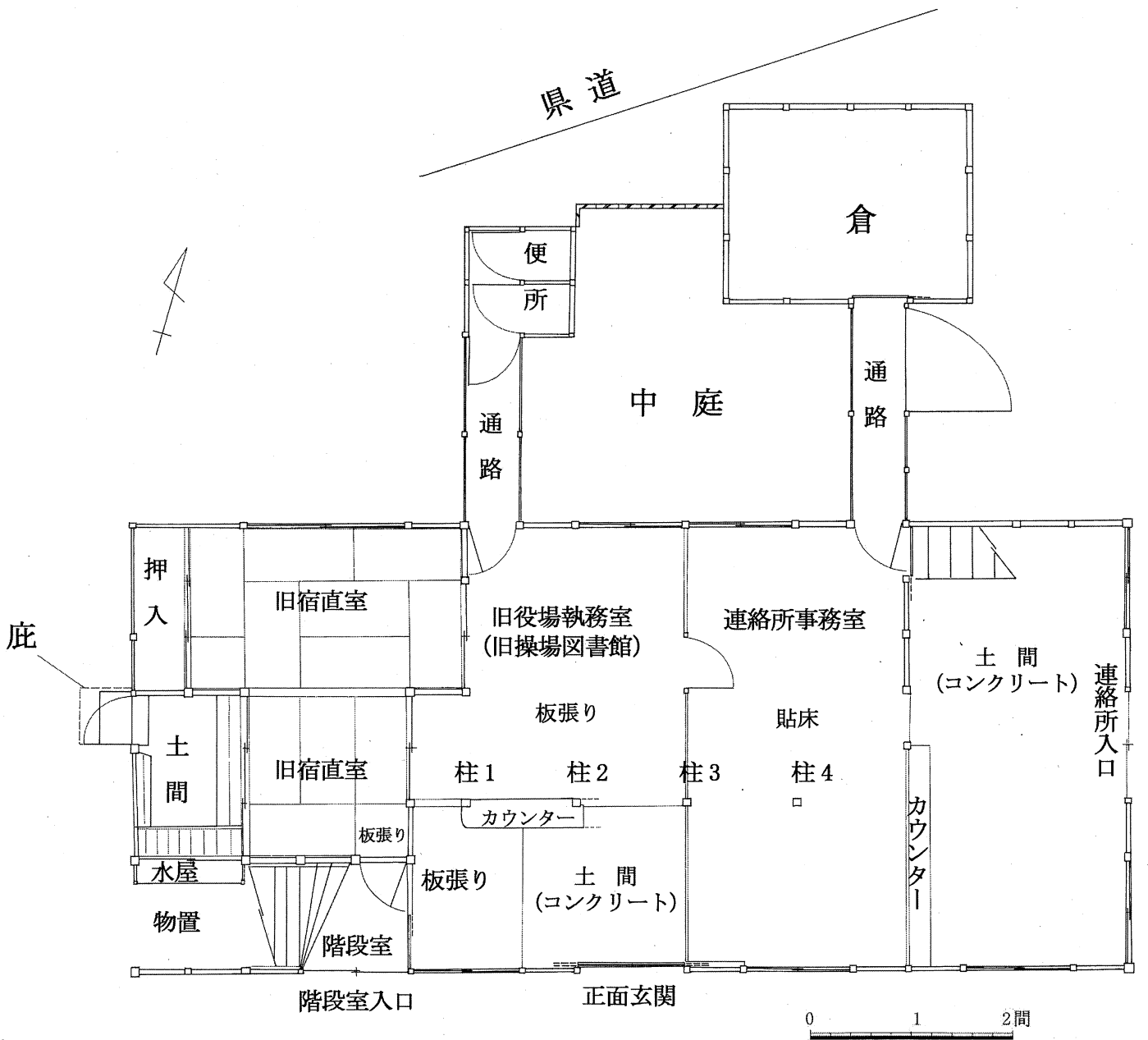
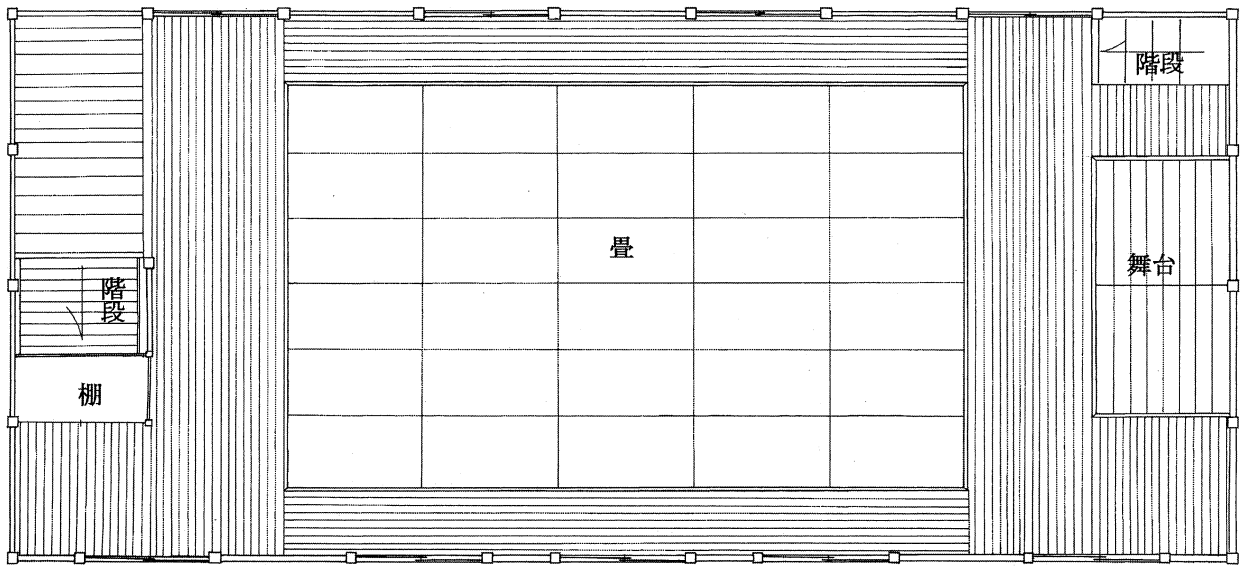
建物の法量は、庇や石段などを除く本体部分の東西約1,742cm、南北約786cm、高さは現地上から推定約1,119cmである<sup>9</sup>。外壁は杉板を下見に張ったもので、全面に薄水色の塗料が塗られていた<sup>10</sup>。

外観自体は、およそ建築当初の姿を留めていたが、東西各面では、出入り口や庇の増築などが目立った。図面では、新しい増築部分のうち庇や囲いは省略したが、出入り口や窓などについては原状の把握が困難なことから、改修を施された現状を記録した。

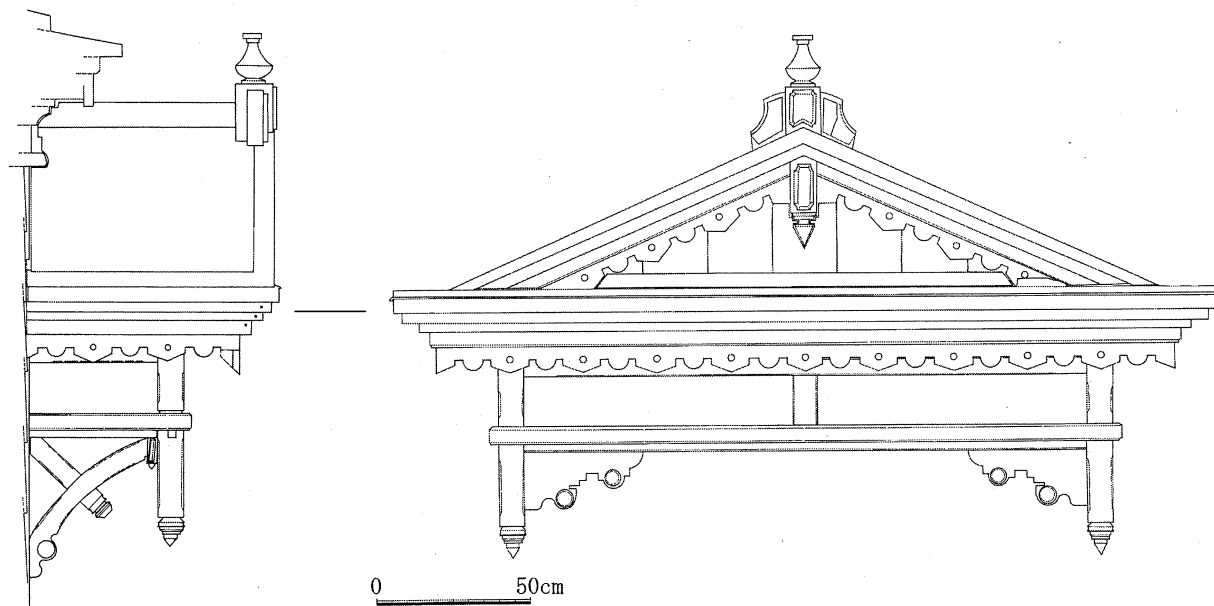
### 1階部分

庁舎周囲の状況として、南側中央に正面玄関、その西側には2階へ上がる階段室の入口、建物西側には庇と簡易な囲いで作られた物置、東側は連絡所入り口があり、庁舎北側には、庁舎内部から渡り廊下でつながる倉と便所、そして小庭があった（第8図）。内装は、ほぼ全壁面が、下方（窓枠下部までの高さ）が杉材の腰板（板目）、上方は漆喰を塗った土壁で、天井は杉板張りであった。





第8図 庁舎平面実測図 (上：2階 下：1階)



第9図 正面玄関庇実測図 (S=1/25)

### 正面玄関

調査時、南側の正面玄関は閉ざされて使用されていない状態であった。

玄関は、地上に花崗岩の延べ石を3段階段状に置き<sup>11</sup>、引き戸を引いて入るような構造である。

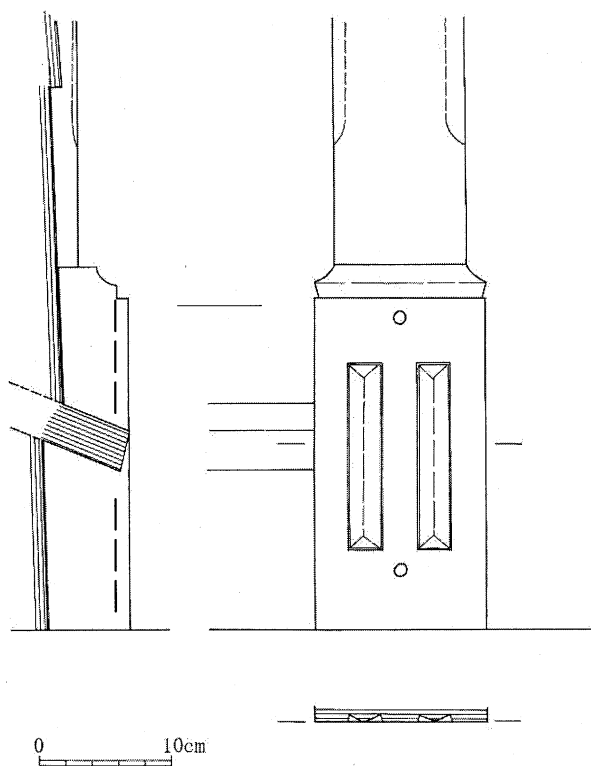
延べ石は花崗岩を切ったもので、現状では上段・中段の2段が確認できた。各法量は上段が幅 212.0 cm、高さ 21.5 cm、中段が幅 266.5 cm、高さ 17.0 cm (現状、下方埋没) で、いずれも安定感の優れたものであった。

玄関引き戸は、左右に開く内外二重構造で、幅 201.2 cm、外側は木製雨戸、内側は板ガラスをはめ込む木製の引き戸である。引き戸の載る敷居は木の角材を利用し、延べ石からはもう1段分框が高くなっているため、框の側面は極度な摩滅はなかったものの、上面を中心に多少擦り切れていた。

玄関上部の庇には、擬洋風の装飾が丹念に施されており、当時格調高く仕上げようとした雰囲気を感じた。幅 133 cm、高さ 164 cm、壁面からの張り出しが約 85 cm で、上面にはトタンを張り、腐朽を防ぐ。また庇の先端部には壺をイメージしたような装飾が施されていた。装飾は木製で、かなり痛みが激しく朽ちかけた状態であった。庇下部は、正面・側面ともに円と直線を組み合わせた擬洋風の装飾を多量に用いているが、基本的に左右対称で、加工も単純なものといえる (第9図)。

玄関柱には和風と洋風の混在する姿がみられた。すなわち、庇下部の玄関上部には和風玄関の木組みがみられ、一方柱下部には洋風を意識した装飾が表面から釘打ちで取り付けられていた (第10図)。

なお、第2図「皇太子殿下御使」の写真は、この正面玄関前で撮影されたもので、外観は現在と大きく異なる部分は見当たらないが、当時の写真としては玄関庇の装飾と、玄関の延べ石が目立つ。また玄関左右の窓枠には鉄格子が入り、玄関扉は両側外開きの、強く洋風を意識したものであったことがうかがえる。



第10図 正面玄関柱下部の装飾実測図 (S=1/6)

## 旧役場執務室

庁舎内部は、正面玄関を入ると旧役場執務室で、土間を挟んで正面にカウンター、その後ろに一段高い板張りの執務室がある。カウンターは木の厚板で、現状長さ 212.0 cm、幅 38.0 cm、厚さ 5.4 cm で、柱に固定されている。カウンターの付く柱 1~4 は、いずれも柱上部に一边 21.2 cm の、4 辺組み合わせ式の木製装飾が施され、またカウンターの支脚にも古典的な装飾を伴う（第 11 図）。この柱は長さ 308.2cm で、ほぼ 1 階部分の高さと同じである。執務室は、現状では狭い部屋となっているが、本来は現在の連絡所事務室の部分まで広がっており、かなり広い間取りであった。それは、連絡所事務室の中央に立つ柱 4 には、役場のカウンターを取り付けていた挟りや、柱の意匠が残っており、また正面玄関の戸袋や北側の窓の間取り、倉への通路など、そうした間取りから容易に察することができる。よって、もともと役場の執務室は現在の連絡所事務室と一体であり、カウンターは柱 1 から柱 4 までの約 3 間（約 540 cm）に延び、かなり広い間取りであったことが想定される。おそらく現在の連絡所として改装するにあたり、県道からの出入りをより容易にするため、旧役場執務室の東半分と土間を改装し使用することとし、執務室を西側をベニヤ板や窓枠をはめ込むなどして新たに作った壁によって仕切ったものとみられる。現在は玄関内部から旧執務室にかけては、連絡所の物置となっており、書類や棚が置かれていた。この旧玄関および執務室・宿直室は昭和 49 年から数年前まで操陽図書館として利用されており、室内のあちらこちらに張り紙や映画キャラクターの絵が張られたままになっていた。執務室の間取りの改修は、聞き取り調査等の結果およそ昭和 30 年代に行われたものと考えられる。

室外に面した窓は、北側中央の一箇所のみアルミサッシに変更されていたが、他は建築当初の窓枠・ガラスが使用されていた（第 12 図）。

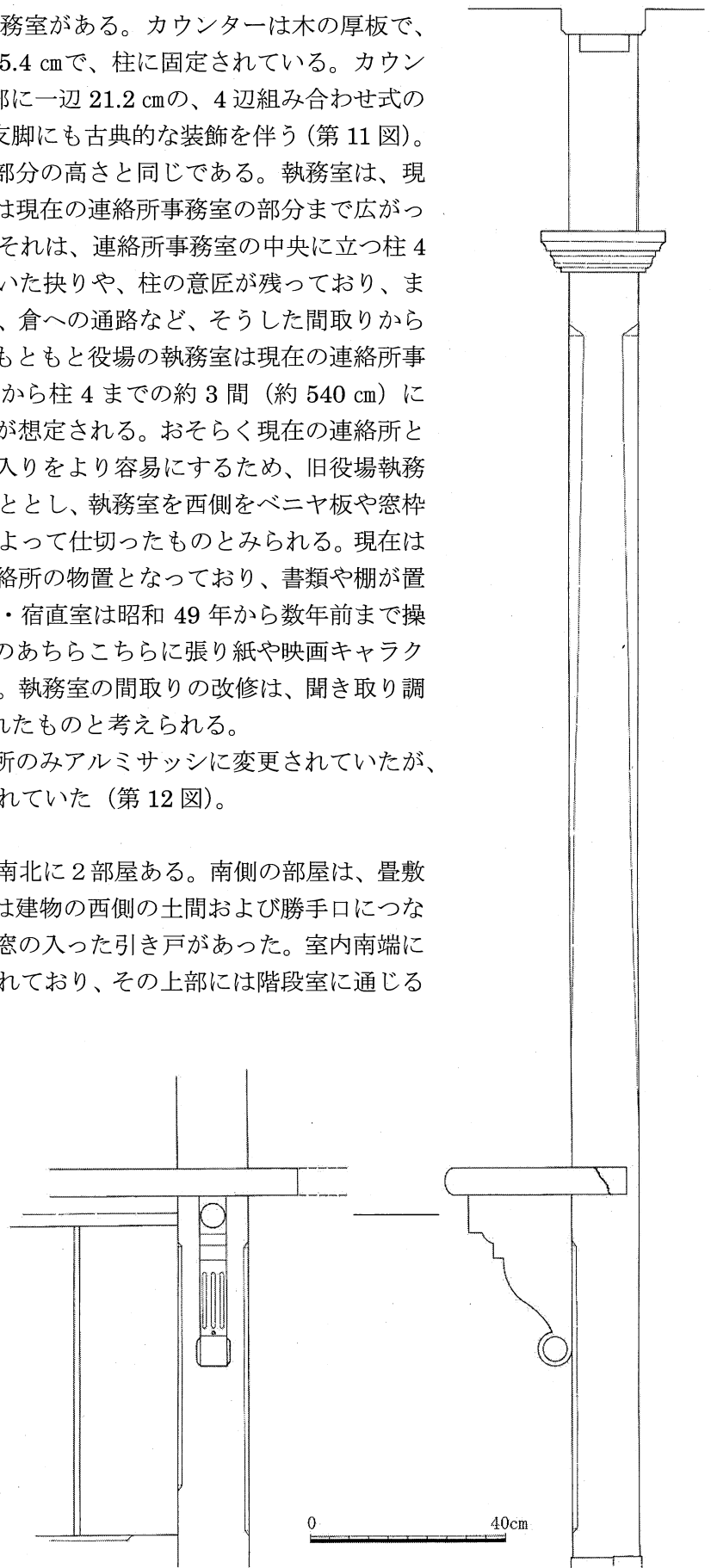
## 宿直室

執務室の西側に隣接して、宿直室が南北に 2 部屋ある。南側の部屋は、畳敷き一部板敷きの四畳半間で、部屋からは建物の西側の土間および勝手口につながり、東側は執務室につながるガラス窓の入った引き戸があった。室内南端にはカギの掛かる背の低い書類棚が置かれており、その上部には階段室に通じる開き窓があった。

土間は 2 階へ上がる階段下に位置し、小さな水屋が階段下の隙間に据え付けられていた。土間には縁側状の台が作りつけられ、その下にはいくつかの七輪が置かれていた。

北側の宿直室は 7 畳半で、西側には押入れが設けられていた。北側には大きなガラス窓がつけられ、当時としてはモダンな意匠である（第 13 図）。このガラス窓は、建

第 11 図 執務室の柱とその装飾  
実測図（柱 2 東面とその南面の一部）



築当初のものがそのまま使用されており、窓枠の変更も見られなかった。

また東側壁には木製の筋交いが入っており、昭和 21 年の南海地震以降、取り付けられたものとみられる。

### 階段室・階段

階段室および階段は、南面の西寄りに作られている。

大正 15 年の写真（第 3 図）では、この階段室への外部からの入り口（玄関）は見られず、現在の入り口部分には窓枠のみみられるのみである。

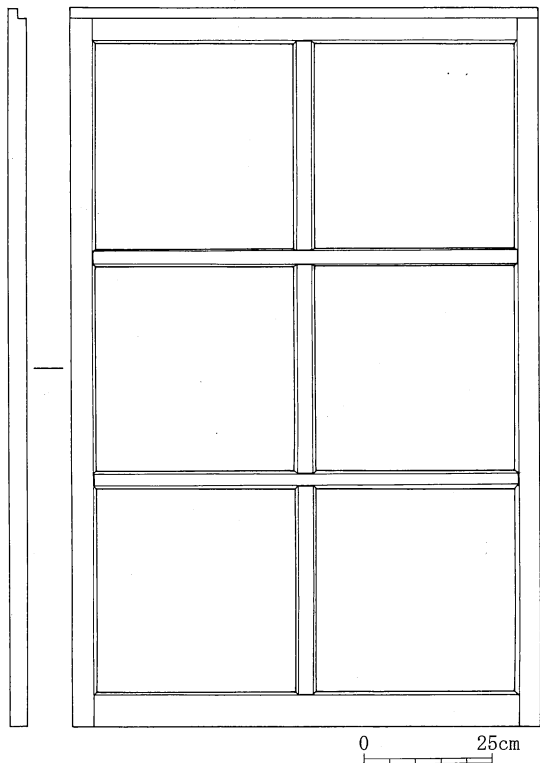
階段室へは、正面玄関の西に位置する西側玄関から入る。階段室にはコンクリート打ちの狭小な土間があり、そこから階段を上がる。土間からは、東側の執務室へ通じる引き戸があり、また北側の宿直室との間には開き窓がある。開き窓は建築当初のものと思われるが、執務室への引き戸および階段室とを分けるベニヤ板の壁は、あとから作りつけられたものである。なお、階段室の玄関自体、あとから改造され、作られたもので、外面の壁板や水切りなどが不自然に切断されていたことなどからもわかる。

階段は、西向きに下から 7 段上がったところが約 1 間四方の踊り場で、そこで北向きに直角に方向を変え、11 段上がったところが 2 階である。踊り場の入り口には、板戸が付けられている。板戸は元来折り畳みの 2 枚物であったようだが、現状では 1 枚のみ残っている。階段の板は、マツ材を 1 段ごとに 1 枚ずつ使用したも

ので、最下段から踊り場、そして 2 階階段を上りきった平面部分まですべて使用されていた。

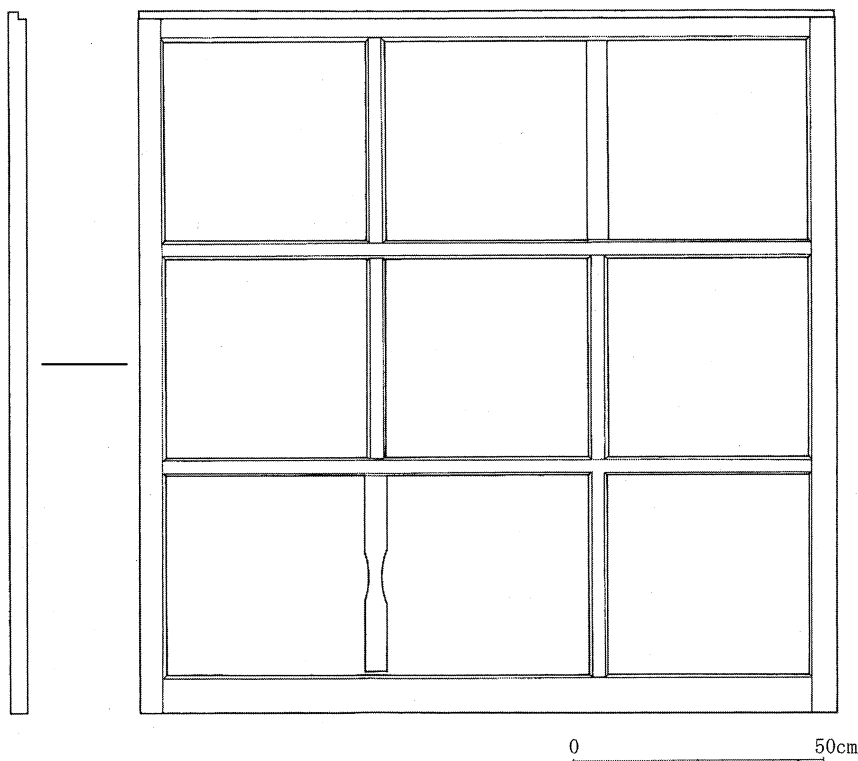
階段幅は 169 cm、踏面は約 25.5 cm、蹴上約 18~19 cm、板厚は 4.5 cm 内外で、割れや節のない、美しく艶を持ったものであった。

さて、階段の上り始めの下 4 段が螺旋状のカーブを呈しているが、これは後から改造されたものである。他の段には滑り止めの溝が切られているにもかかわらず、この 4 段には切られていないことや、段の端部の面取りがなされていないこと、螺旋の中心となる柱に、あとからつけたような不自然な切り込みのあること、などから推測される（第 14 図）。この改装は、階段室玄関の取り付けにあたって、

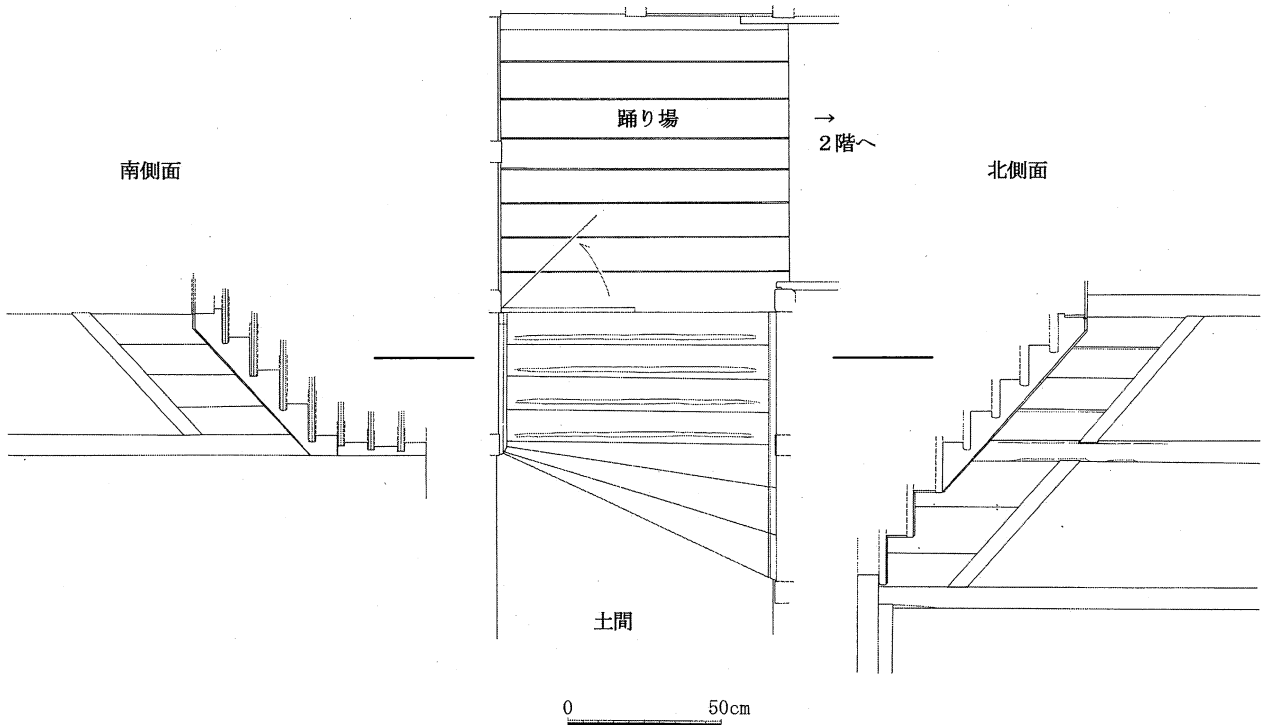


第 12 図 執務室の窓枠実測図

(S=1/15 内側から)



第 13 図 宿直室の窓枠実測図 (S=1/15 内側から)



第14図 階段室と階段実測図 (S=1/25 平面と両側面、土間から踊り場まで)

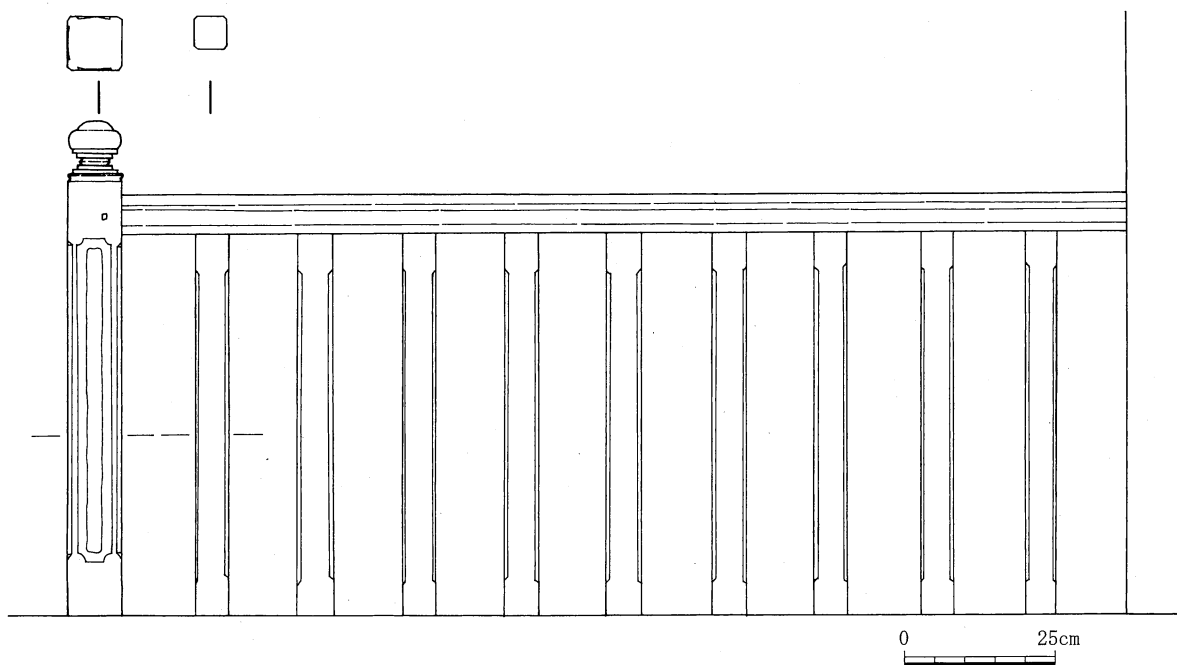
本来は階段室いっぱいの幅でまっすぐに伸びていた階段を、いったん取り外して螺旋状に加工しなおし、階段室の玄関から容易に入れるようにし直したものとみられる。なお、階段は土足厳禁であったようで、土足による傷や摩滅はなく、よく手入れのされた光沢を持っていた。

2階の階段脇には、転落防止の欄干が取り付けられていた(第15図)。長さ175.5cm、幅8.5cm、高さは親柱で82.5cmである。親柱には単純ではあるが、擬洋風の装飾が施されていた。

#### 現連絡所事務室

現在の事務室は、来客者の入る東側の土間部分と、執務を行う西側の板張りの部分に分けられる。

現在の事務室入り口は、もともと壁であった部分にアルミサッシを取り付けたもので、外観は柱に合わせて加工を施しているものの、内面からは敷石の切断や土壁の剥離痕跡などが痛々しい。



第15図 2階欄干実測図(西面)

土間部分は、コンクリートの叩きが施されていたが、本来は土面であったようである。もとの土間は、肥料や農業物資を入れていた場所と考えられ、役場の執務室とは本来、出入り口を除いて土壁で仕切られていたようである。また土間の南部床面の約一坪には、板を敷いた長方形の部分があり、解体の際にここが水溜の枡であったことが判明した。また土間の天井部には、およそ土間全体を覆うくらいの広さの中吊りの荷台がつくられていた。これは後から取り付けられたもので本来は2階床面の下場まで吹き抜け状態であったようである。

事務室部分は、現在はフローリングがされていたが、旧役場執務室の床面と同じ高さで、またもと旧執務室と一体のものであったことから、元来板張りであったと考えられる。この事務室の北側には巨大な金庫が据え置かれていたが、下部はコンクリートが埋め込まれていた。この工事がいつのものかは不明であるが、金庫自体は昭和初年以前に遡るものであろう。

この事務室の窓枠および窓は、すべて旧窓枠にはめ込むアルミサッシに取り替えられており、旧状についてははかりうじて南側の窓枠上下に鉄格子を取り付けていた穴を確認できたに過ぎない。

時期は不明であるが、「産業組合事務所」の写真(第4図)では、この建物の東面を中心に、南側門や北側倉など全体が見渡すことのできる<sup>12</sup>が、その写真では、現在の東側入り口は、南側正面玄関と同様、3段の延べ石の上に入り口があり、また現在はその両側に見られる窓はなく、板壁となっている。また庇も入り口上部にごくわずかなものであり、外観そのものがきわめてシンプルなものである。

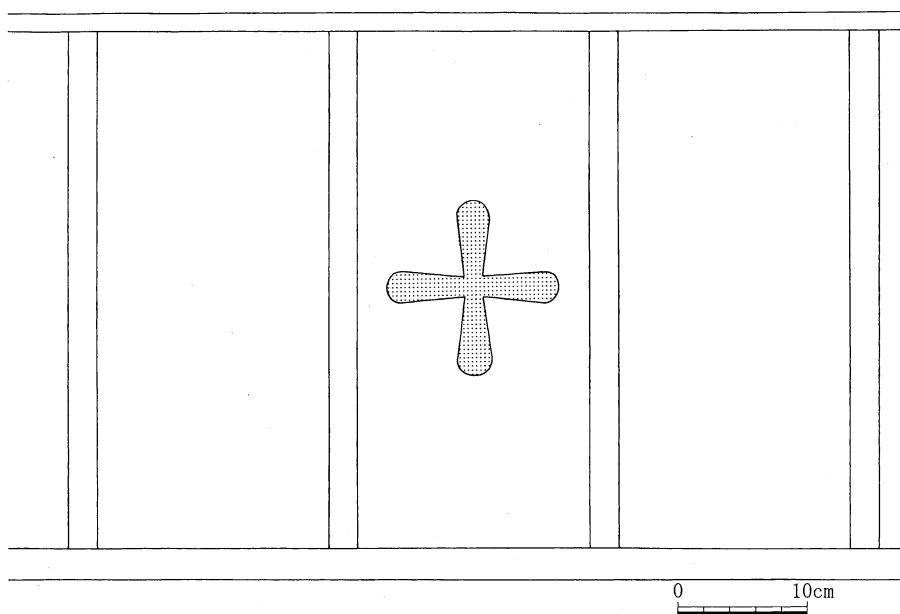
## 2階

西側の階段を上ると、2階に至る。階段の踊り場西側には、近年便所が増築されており、連絡所職員が使用していた。

2階は、中央に30畳の畳敷きがあり、東面には幅364.9cm、奥行き189.0cm、高さ41.0cmの舞台が作りつけられている。内装は1階同様、壁面全体が下方は杉材の腰板、上法は漆喰塗りの土壁で、天井は杉板を張ったものであった。舞台北側には、1階事務室とを結ぶ階段があった。この階段は幅94.0cm、長さ2間の、狭く急なもので、もとは周囲に欄干があったようであるが、現状では階段入り口を釘打ちした板で塞ぎ、平面としていた。

近年は2階西端辺りで料理教室などがされていたようで、ステンレスの流し台が据えられていた。また2階部分は、1階ではあまり見られなかった筋交いが、多数入っていた。東西壁面へ各2本と、2階中央の天井部分へ2組・4本が入っていた。昭和21年の南海地震を機に、こうした対策が講じられたものであろう。

2階部分の窓および窓枠は、すべてアルミサッシに入れ替えられていた。もと木製枠に板ガラスを嵌めた引き戸であったと思われるが、それらの窓枠の中にアルミサッシ枠をはめ込むようにして取り付けられている。



第16図 屋根裏面の  
空気抜き穴実測図  
(S=1/6)

## 室外の装飾など

### 屋根

寄棟で瓦葺である。この瓦がいつ頃のもので、あるいはどのような材質であったかは不明である。また屋根裏の構造や法量、棟札の有無等については、解体時に調査を希望していたが、それが叶わず解体されたため、不明である。第3図・第4図の写真では、屋根上端部に東西一対の擬宝珠形の装飾が立てられ、また四隅端部の鬼瓦も、現在とは異なるものである。また軒瓦は漆喰のようなもので継ぎ目を当てているようで、現在とは異なる瓦が使用されていた可能性がある。

屋根庇裏の空気抜きは、擬洋風の装飾で取られている（第16図）。13.6 cm四方で、ほぼ2間ごとに1か所、空けられている。

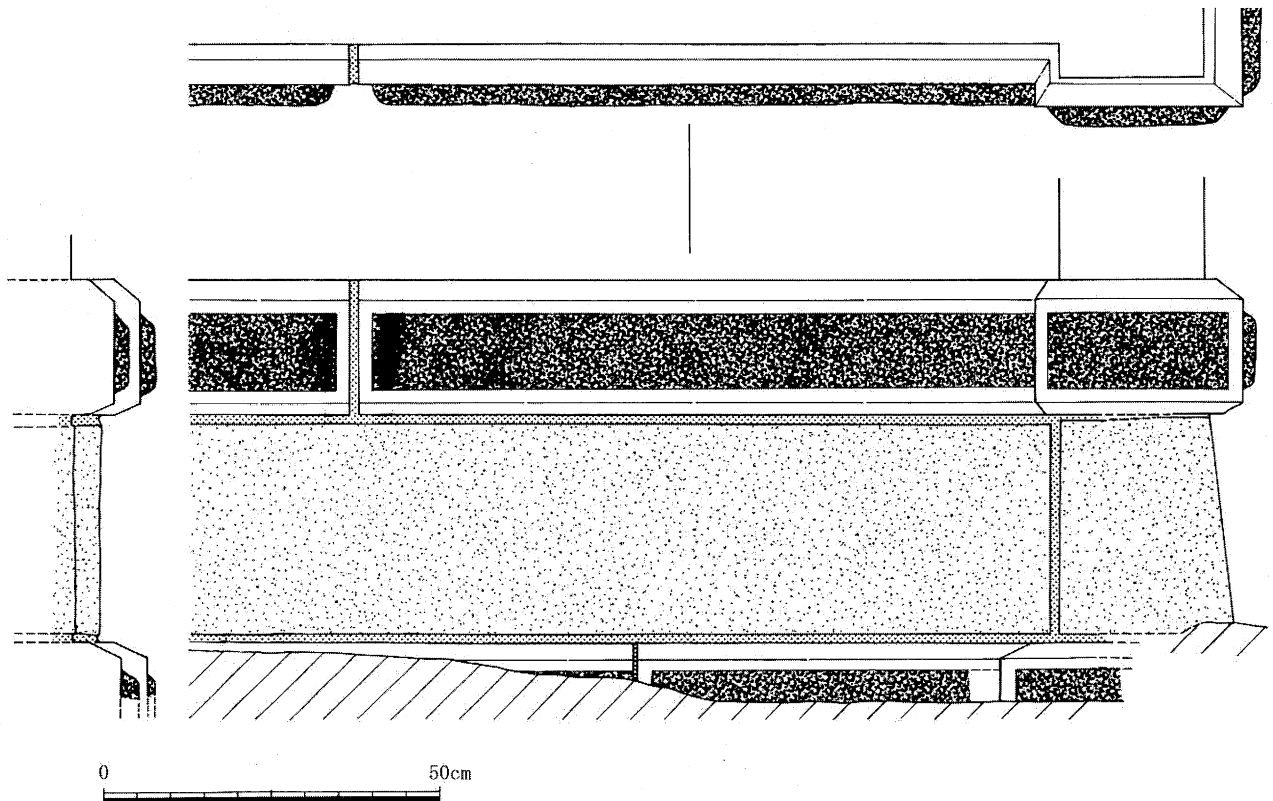
### 敷石

敷石は、建物外面全体に及ぶ。後世の建物周囲の嵩上げによってかなり埋没した部分もあったが、ここではおよそ全体の様子について記しておきたい。

使用されていた石材はすべて花崗岩であった。高さは各段それぞれでいずれも揃い、また長短はあるが、ほぼ200 cm内外で、実測した最長のもので257.0 cmであった。基本的に3段であったようだが、最下段はおよそどの地点もほとんど埋没した状態で全体の確認はできなかった。最もよく確認できた南東角部（南面）地点の図を掲げておく（第20図）。中段は、何の装飾もない、荒削りの板状の加工である。上段は、表面となる部分は中央にレリーフ状の丸みを帯びる荒削りを残し、表面・上面および表面上下に位置する角部の面取りを施し、丁寧な平面仕上げとしている。この上段は、加工がすっきりとしており、直線的で美しい。建物の四隅にあたる部分は、他の延べ石状の敷石とは異なり、束石状の装飾を施した石を使用している。なお、この柱状の石は、周囲と独立したのではなく、各段の敷石と一体のもので、この柱状の石に接する各面の一区画分ずつが、ひとつの石から加工されたもので、上中下の敷石を重ねることで柱状にみえるよう構成されたものがあった。

### 倉

倉も、建築当初から付属した建物として使用されていたようである。これは典型的な倉で、土壁の



第17図 敷石実測図（建物南面東角部）

外に焼き板を張り、また外壁は漆喰で厚く塗り固めている。内面は土壁で、半間ごとに柱が建つ。屋根は瓦葺き。倉へは、役場執務室の東端から北へ延びる通路（347.0 cm）があり、倉の引き戸を開けて通じる。なお、この通路途中の東側にはおよそ1間幅の片開き戸があり、その部分は床面が東側に低く傾斜し、地上との段差を少なくして外部との通行を容易にしている。

倉の建物の平面は1間半×2間の規模で、外法実測値は320.0×410.0 cmである。西側に小窓が一つあり、ガラス窓が嵌められている。建物基礎の敷石は庁舎と同じデザイン、同じ材質のもので、同時期の建築と思われる。調査時、中には大量の文書が入れられていた<sup>13</sup>。

### その他

庁舎北側には便所がある。役場執務室から渡り廊下（長さ292.0 cm）を渡ると、突き当たり東西2部屋ある。近年は新設の便所があり、まったく使用されていない。

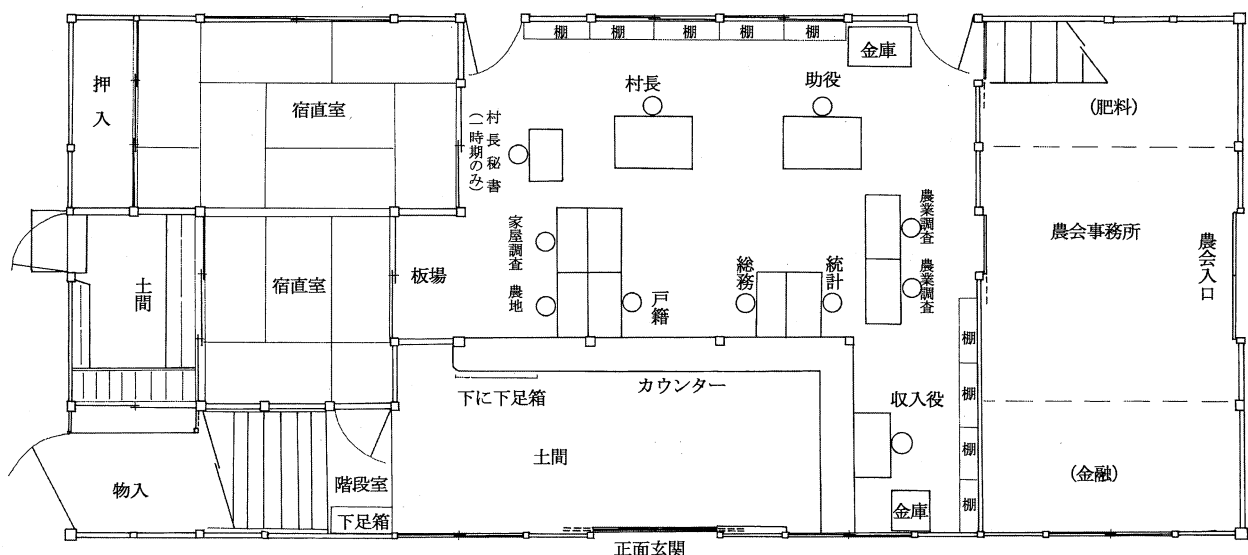
また、倉と便所の通路間には、狭小な中庭がある。もとは北側にくぐり戸があったが、現在はブロック塀で囲まれ、出入りが全くできない状態となっている。中も草木で荒れた状態である。

## 3 操陽村役場としての機能

この建物が、旧操陽村役場として、どのように利用されていたのであろうか。旧操陽村時代、昭和19年から29年にこの役場内で勤務をしていた小原伊勢子氏（大正11年生まれ）の記憶をもとに、復元してみた<sup>14</sup>（第18図）。

役場内は、1階部分は大きく分けて中央に役場執務室、西に同宿直室、東に操陽村農会（以下「農会」）の事務所とあり、2階は現状と同様、広間であった。執務室は、入り口部分が土間であった以外は板張り、宿直室は畳、農会事務所は別掲のようである。また執務室北側には、現状と同様、東に倉、西に便所があり、それぞれ通路でつながっていた。

役場の執務室では、村長、助役、収入役が各1名、総務1、農業調整2、統計1、戸籍1、家屋調査1、農地1、技術員1、の11名がおり、女性職員は小原氏を含め2～3名であった。岡山市合併後は支所長以下、主事、事務員、臨時職員ら、せいぜい4人程度で、農業調整、戸籍、福祉、転出入などの業務を行っていた。宿直はおもに技術員が、また合併後は男性職員が交互に行っていた。村議会はたいてい2階の大広間に座卓を並べて行っていたが、人数の少ない時（5・6人）には、宿直室に座卓を並べて行っていた。また統計作業などの際には、北の宿直室を使用し、夏場はこの部屋で蚊帳を吊っての作業だったという。宿直室など、ガラス窓に面した部分では、日除けや目隠しのためにガラスの大きさに切った障子紙を窓に貼り付け、凌いでいた。また倉には永年保存の書類などが入れられ、村長・助役くらいしか出入りせず、また倉への通路脇にある大金庫は収入役がよく出し入れしており、



第18図 操陽村役場時代の間取りと配置（昭和20年頃、小原伊勢子氏の証言による）



一般職員は窓や壁際に置かれていた、高さ・幅とも90cm程度の腰高の木棚に置かれた書類を利用するに過ぎなかったという。

農会事務室は、役場執務室と壁で仕切られ、直接の行き来は少なかったという。事務室と役場の執務室の間は引き戸があり、農会職員が便所の行き来などで通っていた程度で、外来者は東側の出入り口を利用していた。この事務室は、北側の階段下を中心に肥料などが積まれ、南側に金融担当者の席があり、金融の部分は床が板張り、それ以外の部分は土間であった。

2階は選挙や敬老会などで使用された。階段を上がりきった正面南向きの壁には、大きな鏡があった。選挙の際には、1階の正面玄関から入り<sup>15</sup>、2階へ上がり、投票をして、2階北東の舞台脇の狭く急な階段を下り、役場執務室の北東隅を通り、倉へいたる通路の途中の出入り口から戸外へ抜けていた。このため選挙の度に、執務室の棚を階段脇に移動させ、通路を作っていたという。また2階南西の棚には放送設備が置かれ、これは小原氏が担当していた。放送は、役場屋根中央に東・南・西に向けてそれぞれユニット(拡声器)が取り付けられ、天気予報や、藪刈りや田植えなどの農繁期には、農繁労務者向けのお知らせなどを放送していた。これは操陽村内外にも聞こえ、田植え時期には水田面の水の反射や操山の若葉の反射などで、遠く金田(現・岡山市金田)地区の方までも聞こえていたという。



第19図 旧操陽村役場職員

(昭和27年4月1日、岡山市合併時。建物内で勤務の操陽村農協職員も含む。  
前列中央が笠井幸三村長、前から3列目・左から2人目が小原伊勢子氏。  
小原伊勢子氏所蔵)

#### 4 建物について

操南連絡所旧庁舎は、大正4年に建築された建物である。建築当時の資料として操南連絡所所蔵文書があるが、まだ整理作業中であり、明らかではない。現状ではわずかに『操陽村史』に使用されている写真8葉が、建築時に近い往時を顧みることのできる資料に過ぎない。

この地域は江戸時代前期の干拓地帯で、水田農業を中心とした純農村地帯であった。こうした操陽村の中心施設として、2階建ての擬洋風建築が出来上がったことは、村民の驚きであり、また誇りでもあっただろう。近年はとくに「近代化遺産」として、この時期の、こうした建物が注目をされるようになってきた。この建物も、岡山県近代化遺産総合調査の第一次調査では対象となり、また地域で

は建物保存の話も上がったようだが、現実的には厳しいものだったようである。

建物自体は、擬洋風建築で、当時の大工たちの「西洋化」への意気込みや工夫が随所に感じられる。しかし基本は和風建築であり、おそらく岡山近隣の洋風建築を眺め、意識しながら随所に洋風を取り込み、作ったものであろう。だから、たとえば玄関庇の前面にぶら下がる柱などは、本来ここでは必要ないものではあるが、なぜこれが付いているのかを理解するではなく、これが付いていることが洋風、といった意気込みで作ったものであろうし、執務室の中に立つ4本の柱上部に取りつれられた装飾も、同様であったのだろう。一方で、倉が旧来の姿をそのままとどめたものとなっているのも面白い。おそらく、火災や防犯上、やはり倉が優れたものと考えたからであろうか。

いずれにしても、この建物が作られた時代は、「洋風化」がこの地域にも少しずつ流入してきた時期であり、その最先端の姿として、村の中核を担うこの施設が作られたのであろう。

## 注

- この地域は、延宝7(1679)年、岡山藩によって開発された干拓地・倉田新田(倉田村・倉富村・倉益村の3村により構成される)で、『撮要録』によれば3村合わせて約330町歩である。ここで取り上げる旧操陽村もこの倉田新田の3村から成立した地域であった。
- 本調査にあたっては、市民局操南連絡所長・常國建二氏、同主事・安藤紀子氏に多くのご配慮をいただいた。本調査の原図・写真等は政田民俗資料館(岡山市政津1032-3 政田コミュニティハウス内)に保管している。
- 岡山市操南連絡所所蔵文書。この文書は明治初年以降、昭和50年頃までの、旧操陽村役場および旧富山村役場関係の文書群で、現在政田民俗資料館で整理作業中である。この中に、旧操陽村役場建物についての記載が散見される。今後、整理作業ののち、報告をしたい。
- 操陽村史発刊委員会編『操陽村史』昭和62年。
- 「佐藤留夫さんの思い出話」前掲『操陽村史』274頁。
- 岡山市倉田・湯浅清子氏の教示。湯浅氏は戦後この地に嫁がれたが、昭和20年代後半には婦人会が敬老会の出し物として「大漁節」などを毎年披露していたという。
- 操陽図書館は、昭和49年7月に地域文庫として開館した。図書館の開館にあたっては「本は自転車で、一軒一軒回って古本を集めました。テーブルや本棚は、学校などでいらなくなったものを譲ってもらいました」(『ふるさと旭操』旭操小学校、1983年)と記され、1987年には蔵書数約4000冊、毎週土曜日に近所のボランティア15人が交代で貸し出しや紙芝居などをしていた。また岡山市立図書館の自動車文庫も平成4年度まで巡回し、盛んな地域活動として注目されていた。岡山市立中央図書館所蔵資料および教示。
- 操陽公民館は、社会教育施設としての公民館ではなく、むしろ公会堂としての施設であった。利用にあたっては、操陽図書館とともに操南連絡所で手続きを行っていたようで、操南連絡所所管の施設であった。「操陽図書館運営会規則」ほか、岡山市立中央図書館所蔵資料による。
- 法量は、実測の際に記録した数値を元に算出した。この数値は微妙な誤差を持っており、たとえば1階南面幅は1742.4cm、2階南面幅は1741.2cm、同北面幅は1743.2cmで、これを平均化した数値として挙げた。なお南北幅は2階東面幅786.4cmを、高さは南側正面階段下段地上面からの実測で、1階底下部まで358.5cm、1階底下部から2階底下部まで364.7cm、屋根部分は計算により396cmであり、これを元に示した。
- この塗装色は、戦前から変わらなかったという。岡山市円山・小原伊勢子氏の教示。なお屋根瓦は現状ではレンガ色のコンクリート瓦が用いられていたが、旧状のままかどうかは不明である。
- 第2図の写真による。
- この写真の屋根上には放送用のユニットが設置されており、あとに述べる小原伊勢子氏の証言から、これが設置されたのは戦後すぐの時期であることがわかっている。また外観についても、旧役場時代には第3図・第4図にみられるような、門、柵、板塀などがほぼそのままであったという。
- 注3参照。
- 小原氏は、当初各村から1名ずつ選出された「女子挺身隊」から村職員、合併後は岡山市職員となり、旧役場での仕事は、米麦の供出・配給、木炭の受渡、水田の検見などを担当されていたという。村役場時代の所属は村職員であったが、給与は村と農会(のち農業共同組合)から半分ずつ出しており、仕事内容も実際に区分はされず、両者の掛け持ち状態だった。
- 南階段については、旧役場時代には現状のような階段室はなく、階段自体も下段までまっすぐのものだった。2階に上がる人は、正面玄関から入り、階段室の板場で靴を脱ぎ、脇の下足入れに靴を入れて上がっていた。小原伊勢子氏の教示。よって、現状のように改造されたのは、昭和30年代の改装と合わせて行われたようである。

写真図版(1)



1 庁舎北面と倉全景 北から



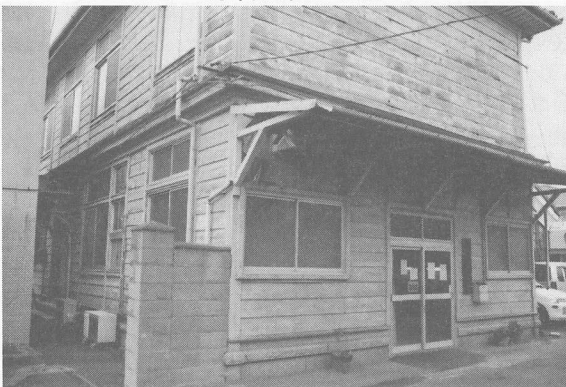
2 庁舎南面と東面遠景 南東から



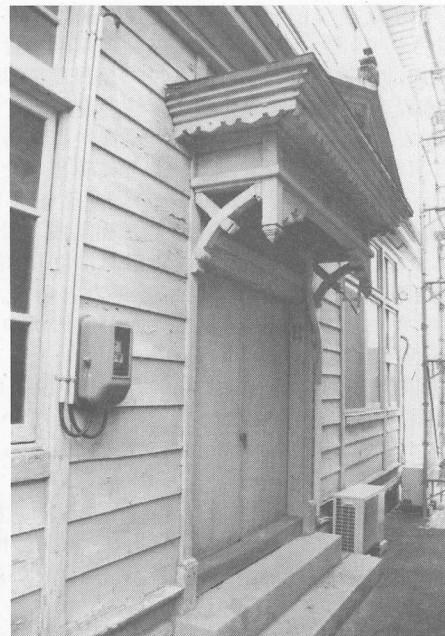
3 庁舎西面 西から



4 庁舎南面(東部)近景 南から



5 庁舎東面近景 南東から

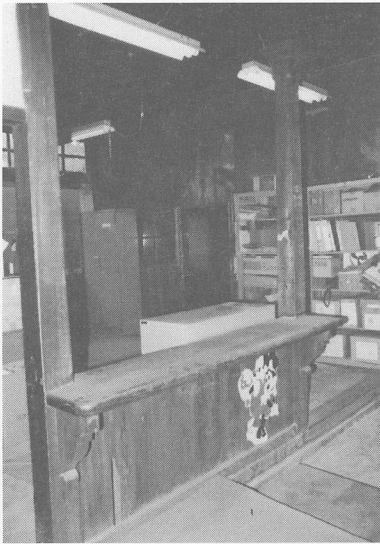


6 庁舎正面玄関 南西から



7 庁舎正面玄関底 南西から

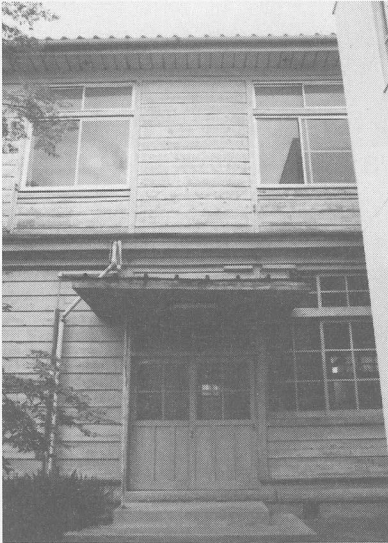
写真図版(2)



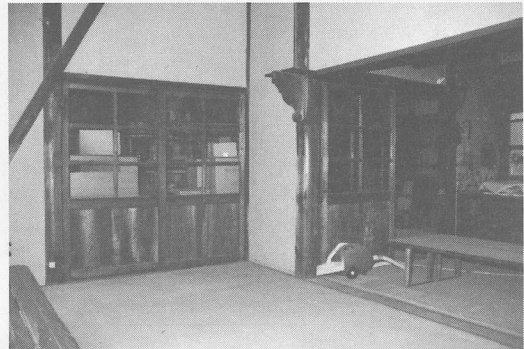
1 執務室カウンター 南西から



2 執務室カウンターと執務室 南東から



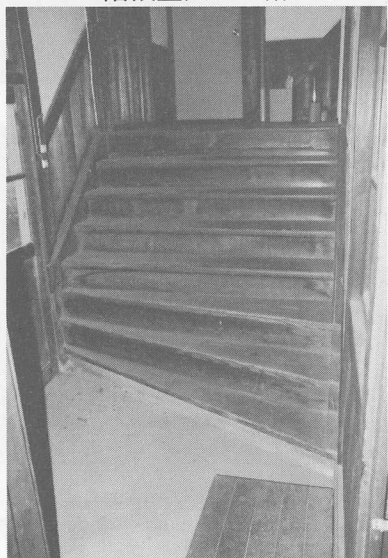
5 階段室入口 南から



3 宿直室(手前:北部屋) 北西から



4 宿直室北部屋窓 南東から

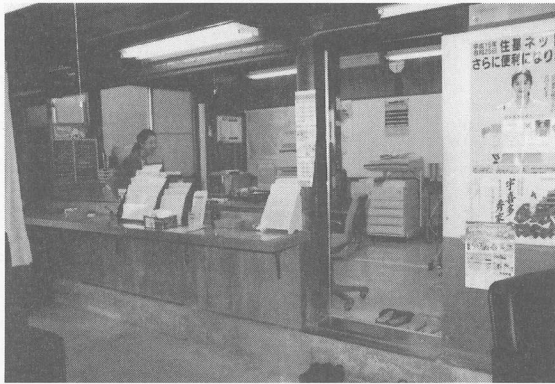


6 階段室と階段 東から



7 階段と欄干 北から

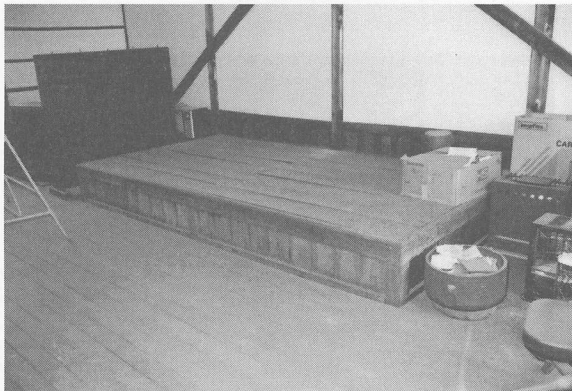
写真図版(3)



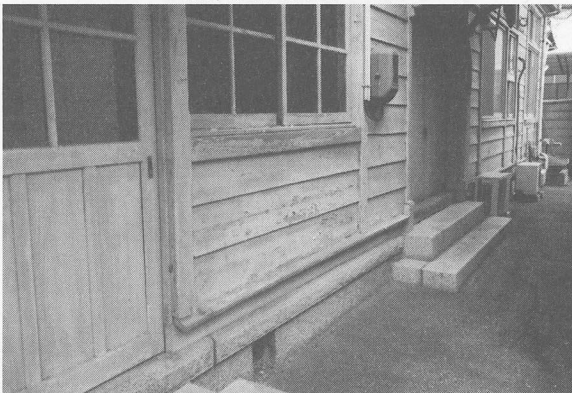
1 連絡所執務風景 (2004年10月) 北東から



2 2階大広間 西から



4 2階大広間舞台 南西から



6 南面玄関とその周辺の状況 南西から



3 屋根裏面の状況 南東隅部



5 礎石(北西隅) 北西から



7 倉(左)と便所 手前は県道 北西から

# 政田民俗資料館の収蔵資料 4 水濾し甕と濾過槽

安倉 清博

## はじめに

沖新田をはじめとする児島湾沿岸地域の干拓地の生活において、水、ことに飲料水の問題は多大なものがあった。旧海底の干拓地では、井戸の掘削により得られる水は多量の塩分を含み、飲料水には適さなかった。また溜池や早急な上水道の設置も、地盤の軟弱や広大な土地であるため、実際にはほぼ不可能であった。このため戦後の上水道敷設以前、干拓地に生活する人々は各家庭において水濾し甕を設置して用水の水を濾過し、それを飲料水としていた。やがて集落ごとに共同の濾過槽（地元では「共同濾過槽」という。以後「濾過槽」とする）を設置し、飲料水を得るようになる。

本稿では、干拓地での生活に欠かすことのできなかった水濾し甕と濾過槽について述べるとともに、特に沖新田のほぼ中心部に位置する政田地区での水利用の様子をみていきたい。

## 1 水濾し甕と濾過槽

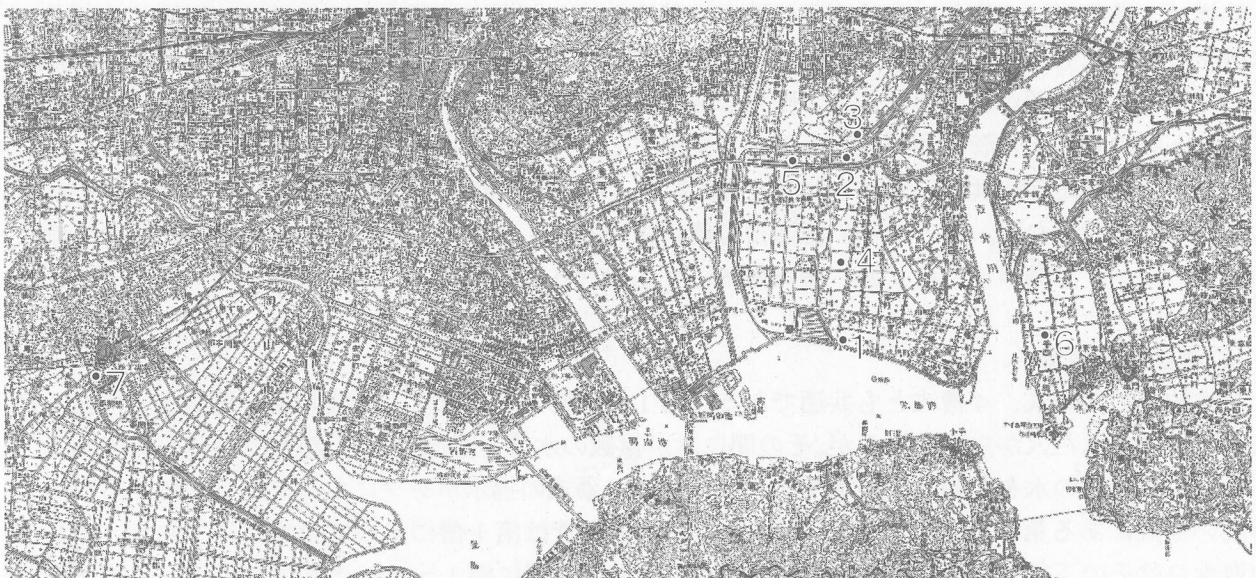
干拓地での生活は、里山の生活とは異なり、地盤沈下や水害、塩害などの危険に常にさらされていた。その中でも飲料水の入手には多大な苦労があった。井戸や溜池を設置できない干拓地では水源を選択する余地もなく、上流の河川から導水した用水を引き、その水を生活用水として利用するほかなかった。このため、上流の悪水（排水）や浮遊物などはそのまま、用水へ流入していた。

こうした現実の中で、干拓地の農民は生きていくための水利用を工夫していった。そこで使用された道具として、ここで取り上げる「水濾し甕」と「濾過槽」が挙げられる。

水濾し甕、濾過槽とも飲用水を目的に、用水路の水を濾すための道具であるが、ここでは実測図や調査所見とともにその使用背景なども考察してみたい。なお、水濾し甕は本館収蔵資料であるが、濾過槽は建造物であり、これらは現地での調査をもとに記していくこととしたい。

### (1) 水濾し甕と砂濾し甕

沖新田では、近世の水濾し甕の利用については不明だが、昭和 30 年代前半の上水道敷設までは、



第 1 図 児島湾沿岸干拓地の現存濾過槽分布 1. 升田・横樋 2. 政津・土手根 3. 政津・川内  
4. 君津・銀座 5. 政津・二間川 6. 西幸西 7. 内尾

およそ各家庭で「水濾し甕」（「砂濾し甕」ともいう。ここでは「水濾し甕」に含めて述べ、固有の資料名称として「砂濾し甕」を使用する）を設置し、用いられていたようである。

近世の水濾し甕の利用等は不明であるが、現在所蔵する資料は、近代以降に制作されたと思われるものが2点ある。

#### ①水濾し甕（No.795 分類番号B10-42 岡山市指定重要有形民俗文化財）

本資料は、君津・大上の荻野弘道氏から提供されたもので、高さ 88.2 cm、口縁部直径 42.8 cm、内高 86.2 cmの円筒形の素焼きで、全体が型抜きで製作されたものと考えられ、口縁部上面には「サヌキ大町／中山製造」と型押されている。底部には排水穴が1か所取り付けられており、ここに管あるいは蛇口を差し込んで使用する。内部は空洞で、設置・使用に際しては、底部の口の内側部分を棕櫚や小石で覆ったのち、下から砂利、木炭、砂、棕櫚の木の皮、小石の順で適量を敷き詰めていき、濾過装置とする。これに上から桶などを用いて水を入れると、程なく下の口から濾過された水が出てくる。用水の水が濁っていたり、1回で十分に濾過できない時には、下から出てきた水を繰り返し甕に通して濾していた<sup>1</sup>。

#### ②砂濾し甕（No.06-24 分類番号B10-67）

本資料は君津・大上の奥山健一氏から提供されたもので、高さ 46.8 cm、口縁部直径 40.0 cmの水甕形で、内外面とも茶褐色の釉薬が施されている。製作は輪積みの円筒を4段重ねたもので、内外ともナデで調整されている。底部は糸切りで、この面のみ赤茶色の胎土が見られる。底部には排水口が取り付けられているが、口の内面は特に調整されておらず、機械的に底部に穴を開け、口を取り付けた印象である。口縁部は大きく歪み、製作時の機能を重視したものであることがわかる。口縁部上面には「水二斗」と型押しがあり、規格品のようである。

この地域ではほとんどがこの形状で、その多くが「伊部焼」<sup>2</sup>製のものが使用されていた<sup>3</sup>。

### (2) 濾過槽

沖新田のうち、東半分の中央寄りに位置する政田地区（政田小学校区）では、大正6年頃から大形の濾過槽が作られ始めたと言われる<sup>4</sup>。濾過槽は、その使用形態から町内共有の「共同濾過槽」と、私有の濾過槽の2つに分けることができる。利用する水量の関係から、私有のものよりは共同濾過槽のほうが規模が大きいようである。

外構は、階段状に2段ないしは3段の切石の基壇を組んだ上に、巨大なコンクリート造りの四角い水槽を設置したもので、いずれも3槽ないしは4槽を1組として、用水沿いの民有地に設置された。この濾過槽も、時期が新しくなると、巨大な四角いコンクリートの水槽から、こじんまりとしたコンクリート製のヒューム管を利用したものへと変化するようである。

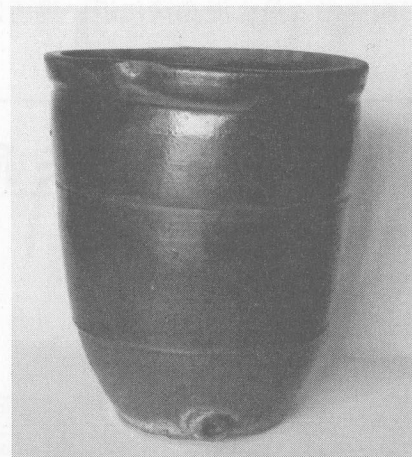
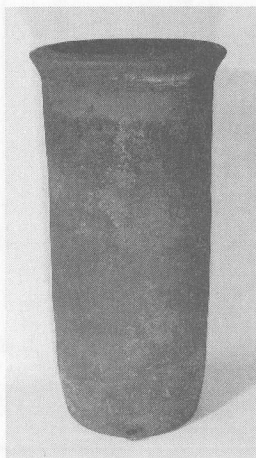
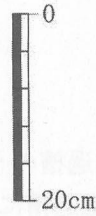
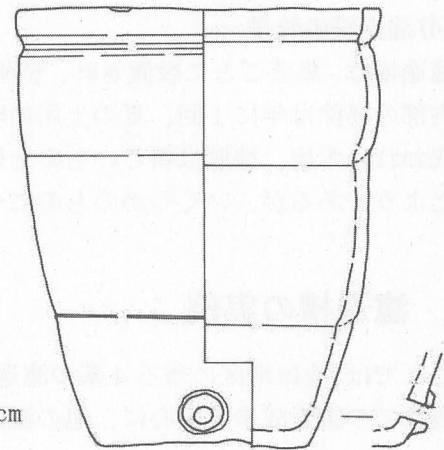
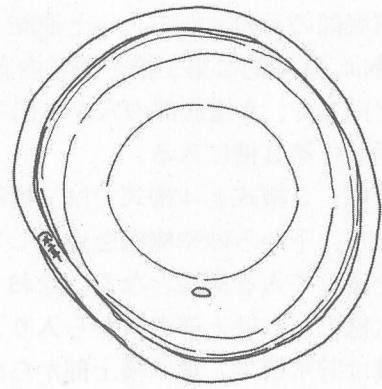
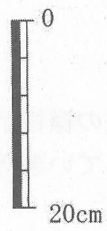
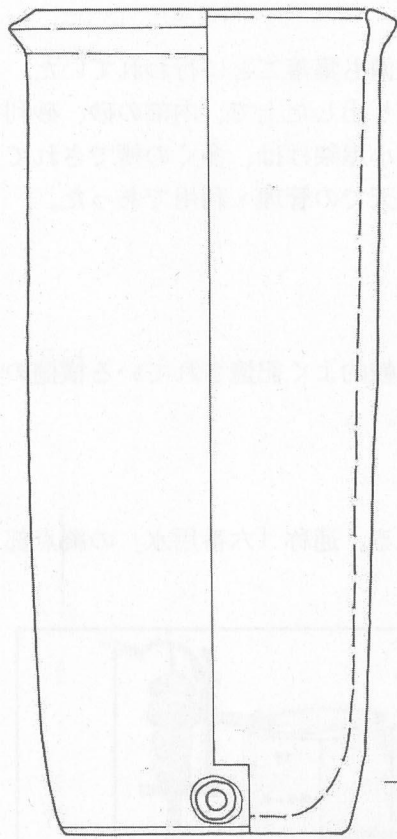
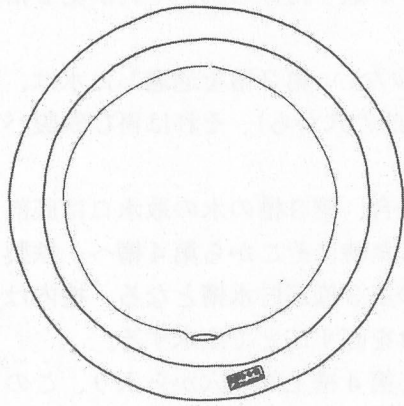
濾過槽は政田地区に共同・私有合わせて18基あったが<sup>5</sup>、現在残る濾過槽は4基であり<sup>6</sup>、それらも完全な状態ではない。このほかに濾過槽の覆い屋のみが1棟現存する。なお岡山市内においては政田地区のほか、幸島新田内に1基、藤田地区に1基の計6基を確認しているに過ぎない<sup>7</sup>。

### (3) 濾過槽の構造

基本的に、3槽式、4槽式とも共通である。第1槽上部から取水し、最後の第3槽あるいは第4槽底部に開けられた穴から排水するが、その間に水が複数の水槽を通過する際、濾過されるものである。

まず、用水路の水を足踏み式の揚水ポンプ（後に電動式の揚水ポンプになったところもある）で一番高い位置にある第1槽に揚水する<sup>8</sup>。揚水ポンプの配管は第1槽に沿って設置されており、ポンプの取水口はその下部にくる。多くの場合用水路と濾過槽の間に幅1～2m前後の畦道ないしは道路があることから、その下に用水路からの取水路を掘削し、取水することとなる。

ポンプで揚水された水は、第1槽に入る。第1槽では、内部に敷き詰められた小石→棕櫚の木の皮



左上：第2図 水濾甕実測図 (S=1/8)

左下：第3図 水濾甕写真

右上：第4図 砂濾し甕実測図 (S=1/8)

右下：第5図 砂濾し甕写真



→砂→木炭→砂利を経て、底部の穴から出る。穴には、鉄製のパイプが取り付けられ、それが第2槽の上部（底部のものもある）へと連結している。

第2槽は、基本的に第1槽と同じ内容であるが、やや内容物の量が少ない。第2槽を通過した水は、第1槽と同じく、水槽底部の穴から出て（底部から入る槽は、水槽上部の穴から）、それは再び鉄製パイプを通じて第3槽に入る。

第3槽は、3槽式と4槽式では、構造や役割が異なる。4槽式の場合、第3槽の水の取水口は底部の穴となり、下から砂や棕櫚を通過して槽を満たし、上部の穴に達した時にそこから第4槽へ、鉄製パイプを通して入る構造となる。なお3槽式の濾過槽の場合は、この第3槽が貯水槽となる。槽内は空洞の状態、水は上部の穴から入り、下の穴に取り付けられた蛇口を回すことで出水する。

第4槽は貯水槽で、第3槽上部からの水は、鉄製パイプを経由して第4槽上部の穴から入り、この槽で貯えられる。水は、その下部の出水口に取り付けられた蛇口を回すことで、利用できる。

#### (4) 濾過槽の管理

濾過槽は、集落ごとに設置され、管理されていた。そのため、保守整備も集落ごとに行われていた。

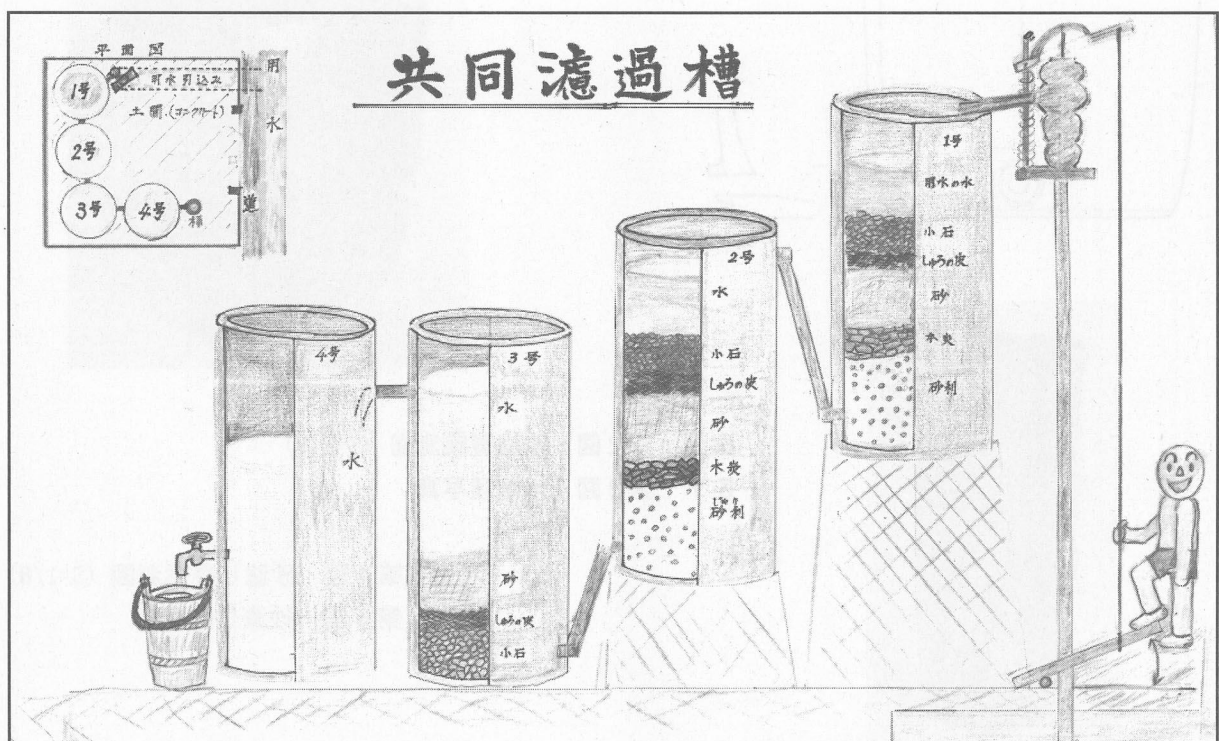
内部の掃除は年に1回、夏の土用の頃に行われた。内容物を全て取り出した上で、内部の砂、砂利は洗われ、木炭、棕櫚は新しいものと取り替えられた。また濾過槽の小屋架けは、多くの槽でされていたようであるが、いくつかのものについては小屋架けがされず、露天での管理・利用であった。

## 2 濾過槽の実例

ここでは、政田地区に残る4基の濾過槽のうち、建築以来の様相が比較的良好に記憶されている横樋の濾過槽での調査成果を中心に、他の濾過槽についても記していきたい。

#### (1) 横樋の濾過槽

沖新田の中で、最も児島湾に近い場所に位置する集落の濾過槽である。通称「六番用水」の終点部



第6図「共同濾過槽」内部構成模式図（イラスト・岩崎倅堂氏）

分で、すぐ先には遊水地へつながる「潮廻し<sup>しおまわ</sup>」とよばれる悪水路とを締め切る樋門がある。

濾過槽は、この地の岸野拓郎氏宅の裏庭にある。現状は、花崗岩の切石の基壇上にコンクリート製ヒューム管を立て置いたもので、ヒューム管同士をつなぐ鉄パイプも取り付けの一部が残る。本来は4槽で、第1槽と第2槽が基壇上へ、第3槽と第4槽が地上に置かれていたとのことであるが、上水道敷設後に不要となつてからは、濾過槽が場所を占有するので、このうち基壇のある背の高い2本を記念に残し、あとは取り壊したという。

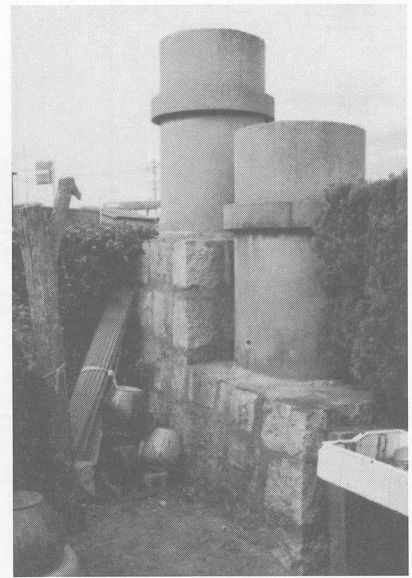
規模は、全高332cm(第1槽)、うち基壇部高は第1槽が173cm、第2槽が86cm、槽本体高がそれぞれ149cm、156cm、直径(外径・鉢巻部)はそれぞれ100cm、98cm、槽自体の直径(外径)各84cm、厚さは4~5cmである。鉢巻は槽の接続部にあたり、連結の補強を目的としたものと考えられる。

この濾過槽の建設は昭和18年、現当主である拓郎氏の父・岸野光男氏(明治30年生まれ~昭和37年没)が、当時村役である農事実行組合長をしていたことなどから、自宅の土地の一角を提供し、そこに建設したもので、普段は集落全体およそ30軒ばかりが共同の濾過槽として使用した。この建設に至る詳細な経緯については不明だが、当時は水を汲むのにも、上流の集落の濾過槽まで船に水桶を乗せて毎日汲みに行っており、不便であったものの、「誰も濾過槽を作る人もなく、誰かがやらないと、遠方まで水を汲みにいくのも大変だし、遠慮もある」(拓郎氏談)ということから、前記の経緯で光男氏が土地を提供、建設費は町内で出したという。なお、これらについての詳細や金額などについては記録が残っておらず、不明である。この濾過槽の建設に際しては、業者が来て行ったが、当時鉄筋が不足していたこともあり、鉄筋の代わりに竹を入れていたという。

この地点の水は普段からやや塩気があり、建築時にもう少し上流での建設を希望したが、作らせてもらえず、この地になったという。よって、台風や大潮の時などには海面が近いことから、この濾過槽の水は塩分がきつくてとても飲むことができず、集落の人々は用水路を船で上って、上流の集落の濾過槽から木桶に水を汲み、持ち帰っていた。または児島湾に浮かぶ「高島」に真水の湧く井戸があり、堤防に住む漁師や樋守の人たちは、そこまで汲みにいっていたという。

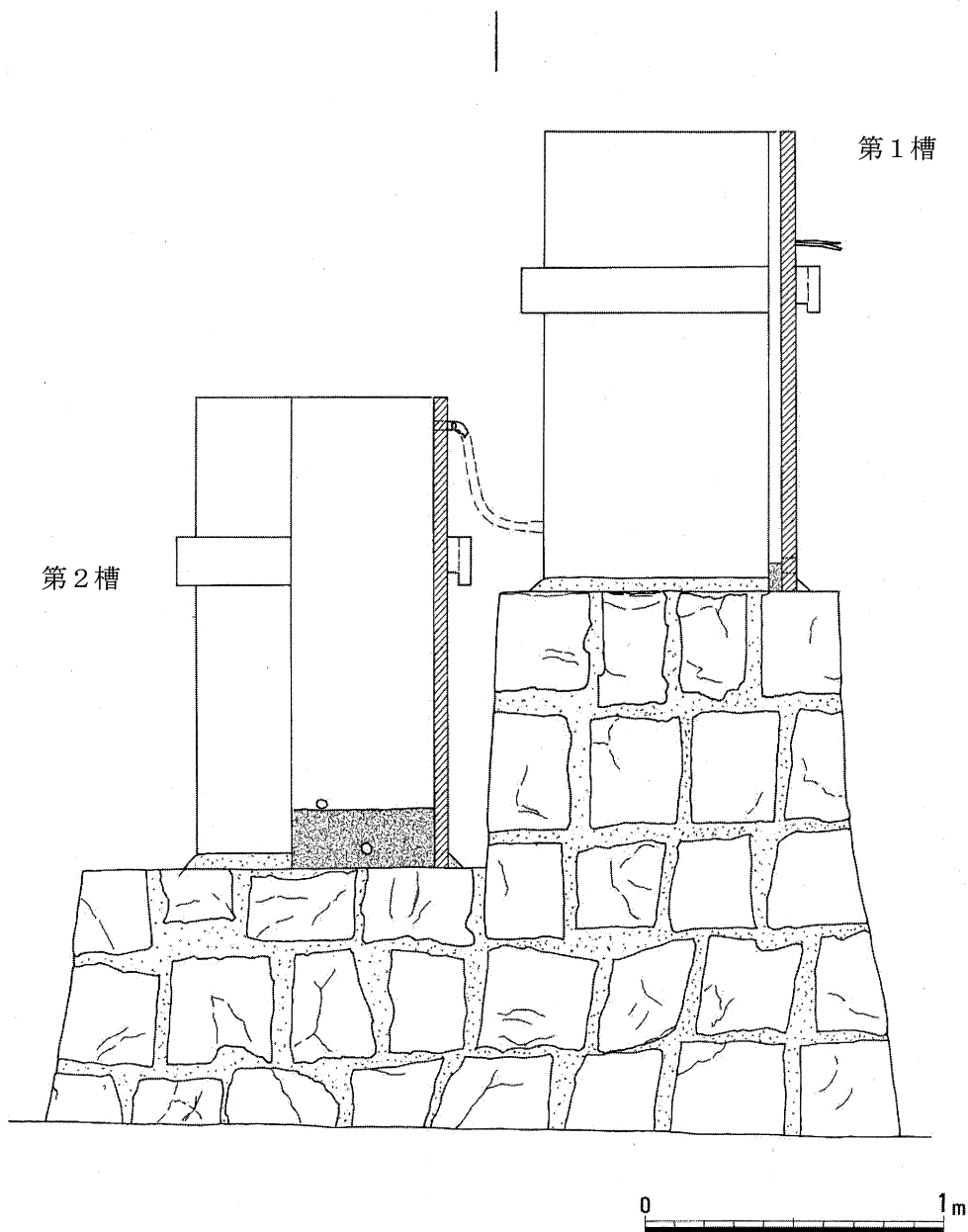
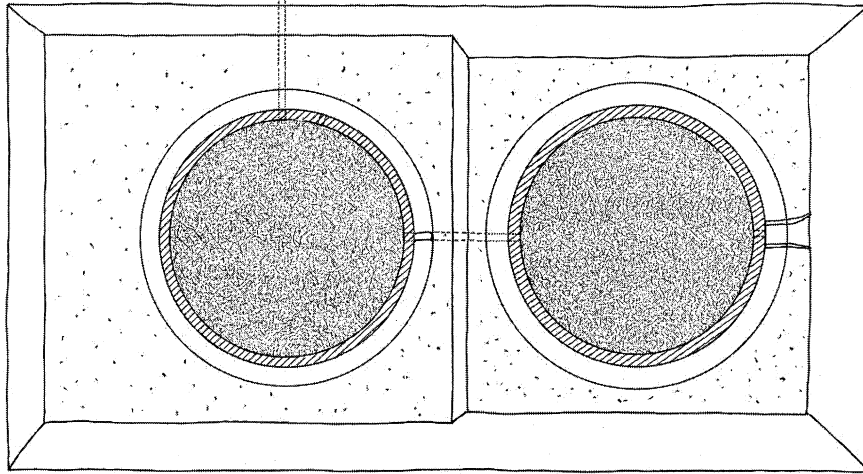
昭和33年には、この地域にも上水道が敷設され、それを機にパタッと使うのをやめたという。当時上水道について、何人かの人には「どうして水にお金を払わないといけないのか」という声もあったそうだが、使用してみれば、お金を払ってでも、このほうが良かったようである。

濾過槽の掃除は年に1ないしは2回程度で、町内で寄って行っていた。第4槽はなにも入っていなかったが、第1槽から第3槽には砂や石、棕櫚などを入れており、それを取り出して洗い、または交



第7図 升田・横樋の濾過槽写真(左:北から 右:南東から)

第3槽・第4槽へ



第8図 升田・横樋の濾過槽実測図（北から S=1/25） 図中表記は第11図参照

換した。それらは町内の費用負担で行っていたというが、金額等は不明である。

利用には制限や規定はなく、昼夜問わず使用されていたという。たいてい、木製の担桶を持ってきて、第4槽下方についた蛇口の下に担桶を置いて、蛇口をひねり、水を汲んでいた。槽内の水も少なくなつたようであれば適当に足踏みポンプを踏んで、追加した。

この濾過槽の通水は、第1槽に上部から給水し、槽内を通過したのち第1槽底部から第2槽上部へ鉄管を通じて給水、第2槽下部から第3槽下部へ続き、第3槽上部から第4槽上部を経て第4槽下部の排水口へと通ずる。ヒューム管は型抜き均質の壁体であり、何らかの規格品を使用(転用)しているものと考えられた。石組みは石と石の間の目地部分のコンクリートが厚く、石組みのみで構成されたものとは見られない。おそらく、適当に加工された石を仕上がり寸法幅に並べ、コンクリートを流し込んだ上に次の段の石を適宜配置してコンクリートを流し込む、の繰り返しで構築されたものと考えられ、簡略に仕上げられたものであろう。

## (2) 政津・土手根の濾過槽

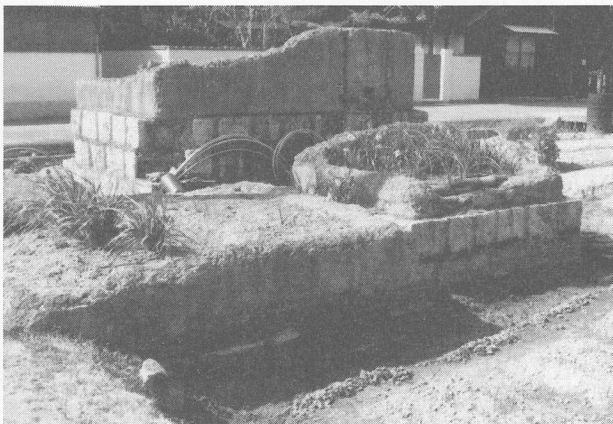
この濾過槽は、沖新田への取水地の一つである「一の堰」(現在は「砂川合同堰」)から取水・分岐した幹線用水路<sup>9</sup>の最上流にある3槽式の濾過槽である。

構造は、花崗岩の切石を各段約60cmの段差を付けながら組み上げた上にコンクリートの槽を組んだもので、上から第1槽、第2槽(以上、濾過槽)、第3槽(貯水槽)としている。現状では上部の構造は取り払われ、基底部付近が花壇として利用されており、使用時の内部構造等は不明である。

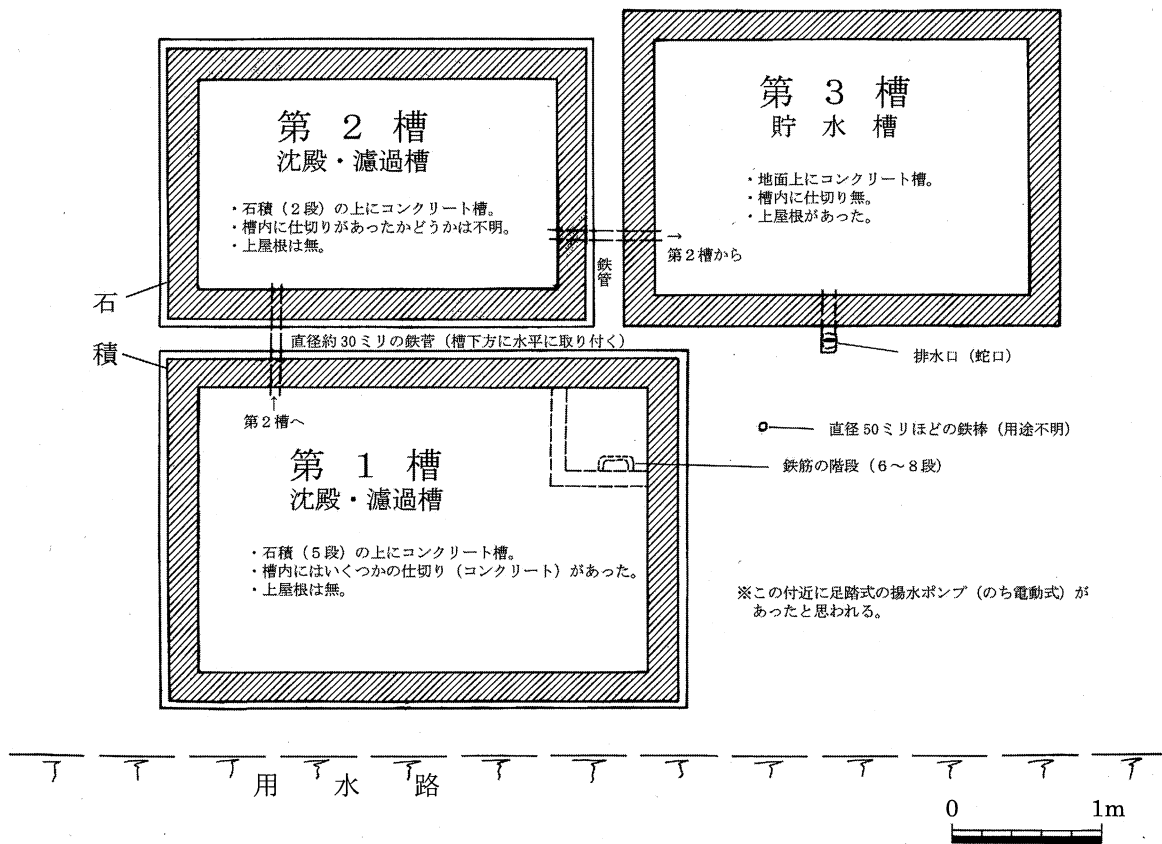
実測および写真や聞き取りなどから各槽の規模を推定すると<sup>10</sup>、第1槽の外法が約340×230cm、全高(基礎部から槽上部)約270cm、うち石組み高約115cm、第2層は外法約280×180cm、全高約220cm、石組高約60cm、第3槽は外法約290×210cm、全高約160cm(第3槽は石組なし)で、槽のコンクリート壁はいずれも高さ約160cm前後、厚さは約20cm程度であった。このうち第1槽内部には、1か所の隅に鉄筋の階段が取り付けられた枡があり、その高さは槽の壁と同じで、用途は不明である。この槽内部にはいくつかの仕切りがあり、水が蛇行しながら通過する構造であった。また第1槽と第2槽、および第2槽と第3槽の間には各1本、槽と槽を繋ぐ直径約3cm程度の鉄製の水道管が通っており、いずれも槽の下方に水平に取り付けられていた。第3槽の外には、地上から約6・70cm上部に蛇口が取り付けられており、この蛇口から水担桶に水を入れるようになっていた。

外部施設としては、第3槽に上屋根があったが、他の第1槽・第2槽にはなく、また第1槽前には直径5cmほどの鉄棒が立っていたが、用途は不明である<sup>11</sup>。また濾過槽への水の汲み上げは、以前は足踏みポンプで、途中から電動ポンプに変わったという<sup>12</sup>。これらの年代は明らかではない。

濾過槽の使用年代については、戦時中には使用されていたようで、電動ポンプへの交換もされたほどではあるが、この近所の人々の記憶にはほとんど残っていない<sup>13</sup>。この濾過槽で濾した水は、あまりきれいではなく、家の人よりもより近所の人々は、川(用水路)の水を甕に汲んで上水を掬い取って



第9図 政津・土手根の濾過槽写真 (左：北東から。溝口尚正氏提供 右：南西から)



第10図 政津・土手根の濾過槽復元平面図 (上が北 S=1/50)

飲んだり、隣接する集落の濾過槽まで水を貰いに行っていたという。そして昭和31年に上水道が敷設されたことで使用される機会はなくなり、濾過槽自体が無用の長物として、子どもの遊び場になり、後に家の人によって上部が破壊されたものの、下部までは壊しきれずに放置されていた。

この槽は第1槽上部から給水すると、槽内部を水が蛇行する中で濾過され、第1槽底部から第2槽内を通過（第2槽は内部に仕切りがあったかどうかは不明）し、第2槽底部から第3槽下方に給水する形である。ヒューム管式の濾過槽は水が上下に通過するのに対し、この槽は前後方向へ通過する構造であり、こうした水流に対する濾過槽内部の内容物の入れ方に工夫があったかどうかは不明である。

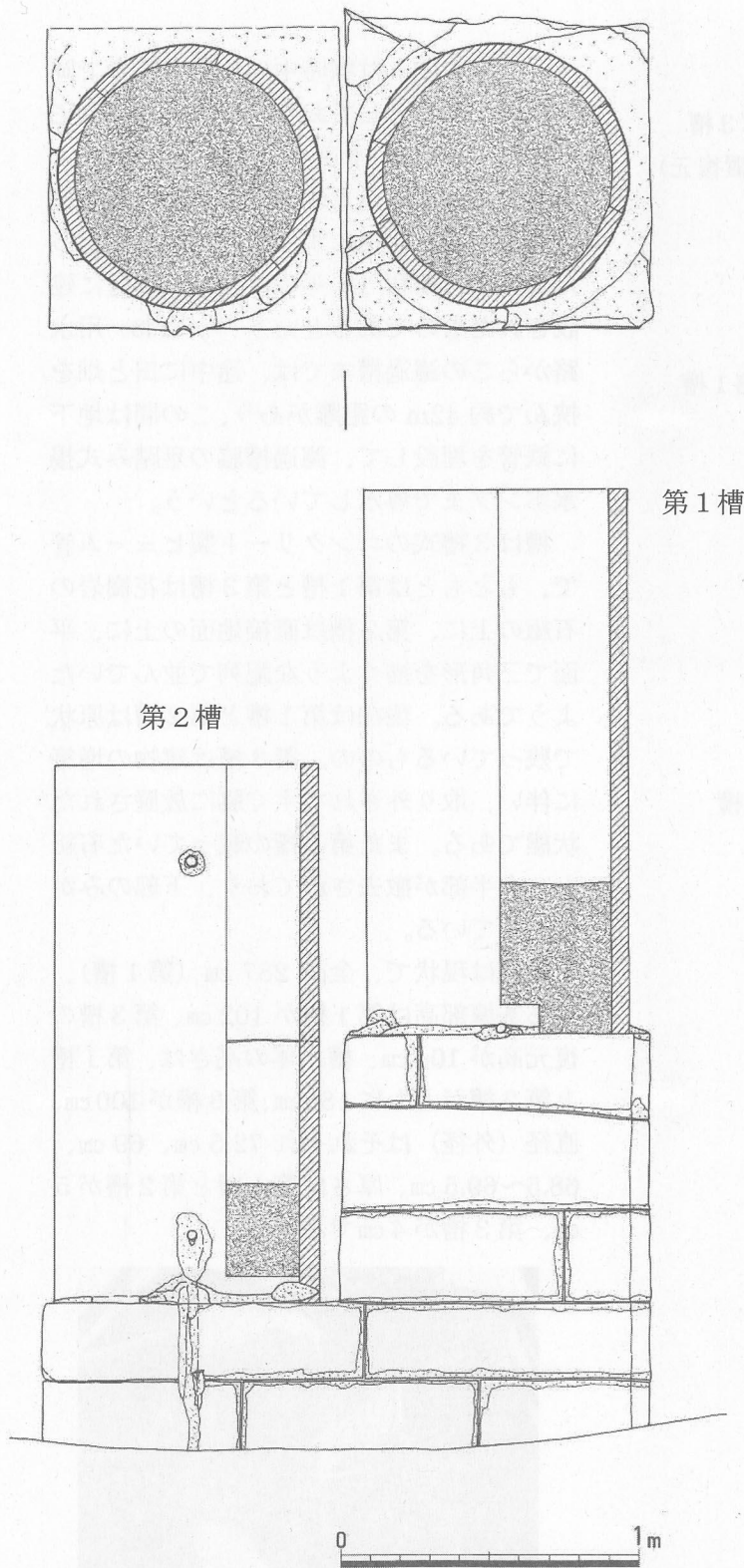
### (3) 渡辺新田<sup>14</sup>の濾過槽

渡辺新田には2軒の民家があり、そのうちの1軒が私有の濾過槽として設置したものである。

民家の敷地北辺には松崎新田の堤防が高々と這うが、濾過槽はこの堤防の南裾にへばり付くような状態で築造されている。構造は2槽<sup>15</sup>からなり、豊島石の切石を階段状に2段組んで基壇とした上に、コンクリート製のヒューム管がそれぞれ1本ずつ載る。

濾過槽の規模は、全高約320cm（第1槽）、うち基壇部高は第1槽が約140cm、第2槽が約50cm、槽本体高がそれぞれ182cmと179cm、直径（外径）がいずれも88cm、厚さ5～6cmである。濾過槽本体のヒューム管は、第1槽は縦に4枚の側板を合わせたもので、外面にはコンクリートを薄く塗りつけている。そして堤防側（背面）上部の広い範囲が大きく欠けたようになっている。第2槽は、上下2段を合わせ、各段ごと縦に4枚の側板を張り合わせ、外面は第1槽と同様、コンクリートを薄く塗る。また切石は、長方形に切った豊島石を積み重ねる（一部に花崗岩も見られる）が、目地にはコンクリートが塗られ、後から鋺で目地の線が書き込まれている。

濾過槽本体には、それぞれ取排水用の穴が開けられ、いずれも直径が30mmである。第1槽は下部に2か所開けられており、うち正面の一つは掃除等での水抜き用（ビニール管が詰まっている）、もう一つは第2槽上部の穴へ繋がるパイプの取り付け穴と考えられる。第2槽では、正面上下2か所あり、



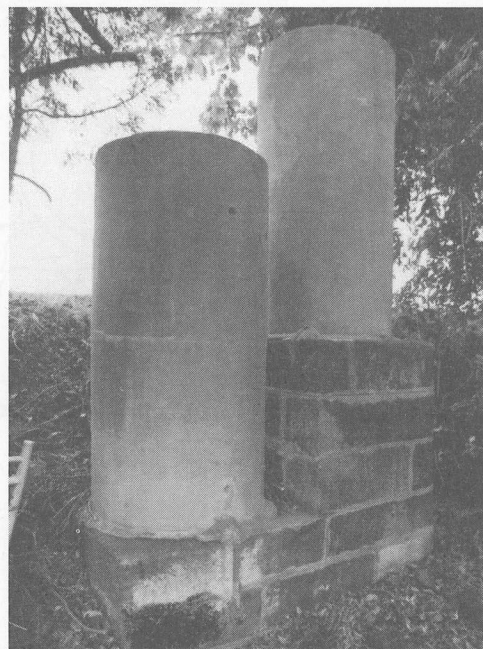
第11図 政津・川内の濾過槽実測図（南から S=1/25）

図中、槽内網目は内容を、ドットは槽本体以外の  
コンクリート部を示す

題などから実用化されることなく、それまでどおりに簡便な水濾甕を使用したものと思われる。

#### (4) 君津・銀座（西の割）の濾過槽

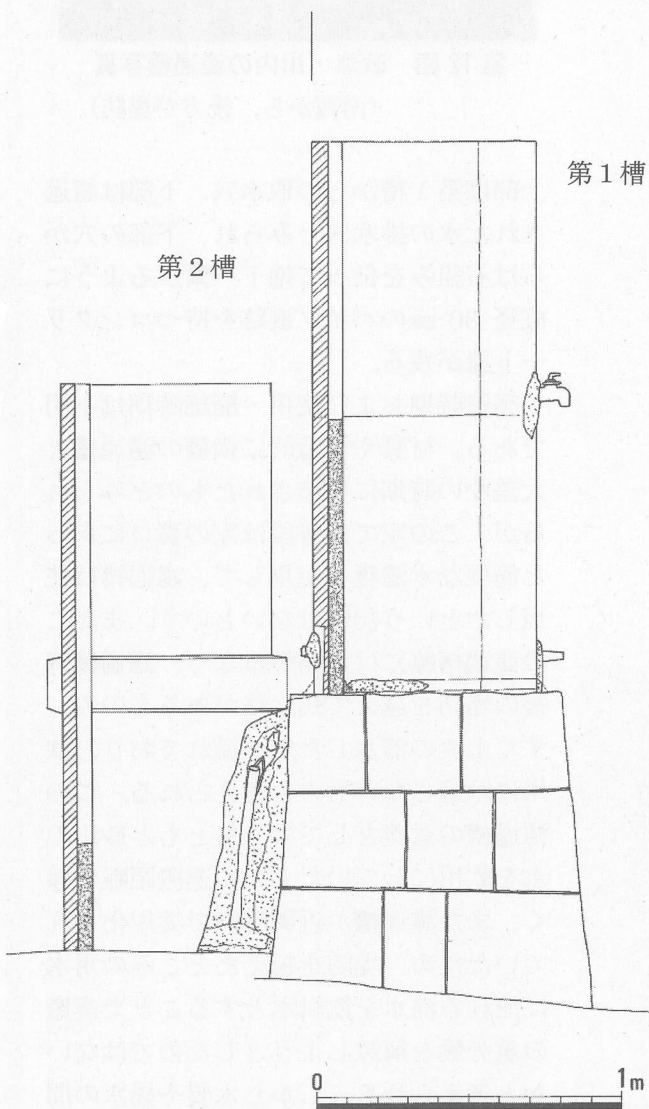
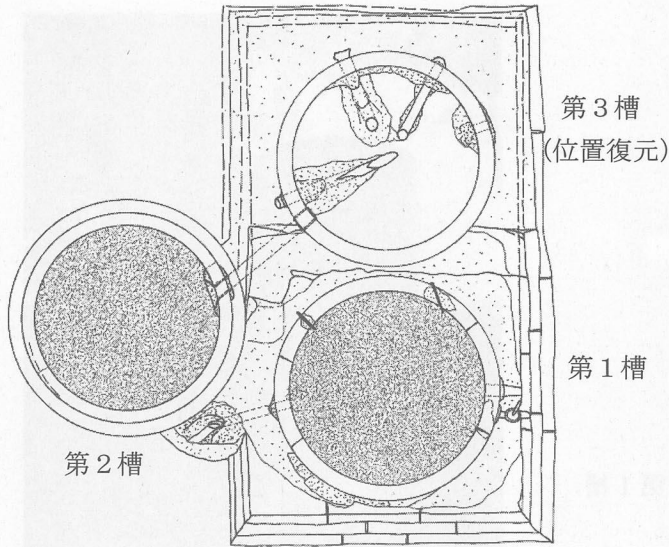
君津・銀座は用水路沿いに南北に家並みがあり、用水の水流自体は滞ることも少ない、沖新田内では比較的きれいな用水である。この家並みの中の1軒に、私有の濾過槽として存在するものである。



第12図 政津・川内の濾過槽写真  
（南西から、後方が堤防）

上部は第1槽からの取水穴、下部は濾過された水の排水穴とみられ、下部の穴からは石組みを伝って地下へ繋がるように直径 30 mmのパイプ痕跡を持つコンクリート塊が残る。

築造時期および使用・廃絶時期は不明である。材質や構造的に横樋の濾過槽と大差ない時期に築造されたものとみられるが、この家では普段は家の裏口にあった簡便な水濾甕を使用して、濾過槽は使用したという記憶はないという。またこの濾過槽脇には水路等はなく、濾過槽背後の堤防を越えて用水路があるものの、すぐ上流の滞水した水が流れており、飲用には適さないものと考えられる。この濾過槽の意義としては、もともと砂川の水を飲用にしていたものの運搬距離が遠く、また濾過槽が近隣町内で実用化されていたため、堤防を越えたところの用水に流れる滞水を飲料水とすることで運搬の重労働を解放しようとしたのではないかと考えられる。しかし水質や揚水の問題などから実用化されることなく、それまでどおりに簡便な水濾甕を使用したものと思われる。



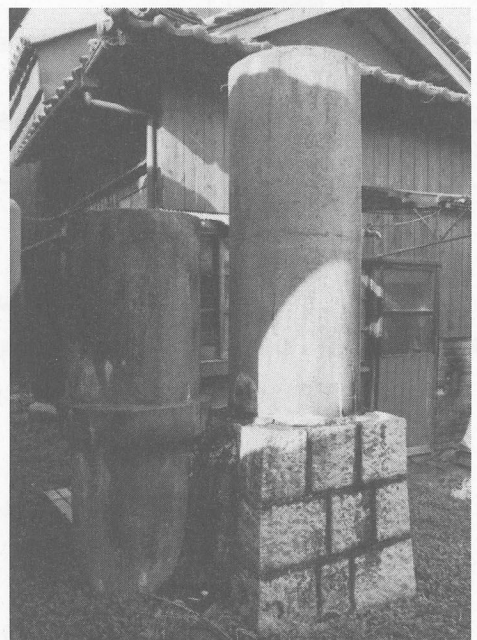
第13図 君津・銀座の濾過槽実測図（東から S=1/25）

図中、槽内網目は内容物を、ドットは槽本体以外のコンクリート部を示す。断面は図示都合上、左右逆位置で示した。また第3槽は、平面図に復元位置をはめ込んだ。

この家の住人は戦時中に仕事の都合で岡山市街地に暮らしており、その後この自宅に戻ったものの、水道水に慣れた生活から、用水路の水を汲み上げて（その後水濾甕で濾過をして）飲用にすることに抵抗があったようで、昭和15年頃に自宅の裏庭に建設されたものであるという<sup>16</sup>。なお、用水路からこの濾過槽までは、途中に田と畑を挟んで約42mの距離があり、この間は地下に鉄管を埋設して、濾過槽脇の足踏み式揚水ポンプまで導水しているという。

槽は3槽式のコンクリート製ヒューム管で、もともとは第1槽と第3槽は花崗岩の石組の上に、第2槽は直接地面の上に、平面で三角形を描くような配列で並んでいたようである。現在は第1槽と第2槽は原状で残っているものの、第3槽は建物の増築に伴い、取り外されてすぐ脇に放置された状態である。また第3槽の載っていた石組も、上半部が撤去されており、下部のみが残存している。

規模は現状で、全高287cm（第1槽）、うち基壇部高は第1槽が102cm、第3槽の復元高が104cm、槽本体の高さは、第1槽と第2槽がともに185cm、第3槽が100cm、直径（外径）はそれぞれ72.5cm、69cm、68.5～69.5cm、厚さは第1槽と第2槽が5cm、第3槽が4cmである。



第14図 君津・銀座の濾過槽写真（南東から）

第1槽の上部には蓋が取り付けられていたといい、また現状では本体中間部には、真鍮製の蛇口が取り付けられている。はっきりとした用途は不明であるが、おそらくポンプで揚水した水が濾過される前に風呂水などに抜き取るためのものと考えられる。これは用水路からの距離が遠いため、ポンプで水を取り寄せてから利用することで、その負担を少しでも軽減させようとしたものともいえる。なおこの蛇口の高さは、この槽の内容物の上限を示すものと見られ、また外からは大人が手を伸ばすと届く高さで、本来はなにか仮設の台などに水担桶などを載せて対応していたものと思われる。

水流は、第1槽上部から取水し、底部の排水穴に接続された鉄管を経て、第2槽下部から入り、その上部から第3槽上部へ土管を通じて入れられる。この土管はもともと、鉄管であったものを交換した際に変更したようで、穴の周辺に塗られたコンクリートの痕が他に比較して生々しい。第3槽は貯水槽と考えられ、その底部に取り付けられている鉄製配水管の口は上を向く。配水口は平面でほぼ直角に3方向・4つあり、内1か所はコンクリートで塞がれ、残る3か所には鉄管が通され、壁体の隙間はコンクリートで埋められている。どの排水口がどのように使用されたのかは不明である。

具体的な使用年代や使用状況等については不明であるが、規模や様相からみて、升田・横樋や政津・渡辺新田のそれとよく似たものであるといえる。一方で、基壇自体は綿密に作られ、コンクリートの目地が入るものの、他と比較しても丁寧な造りである。年代的に物資の統制などに掛からない時期、すなわち伝聞の「昭和15年頃」のものであることを示すひとつの指標となるものとも考えられる。

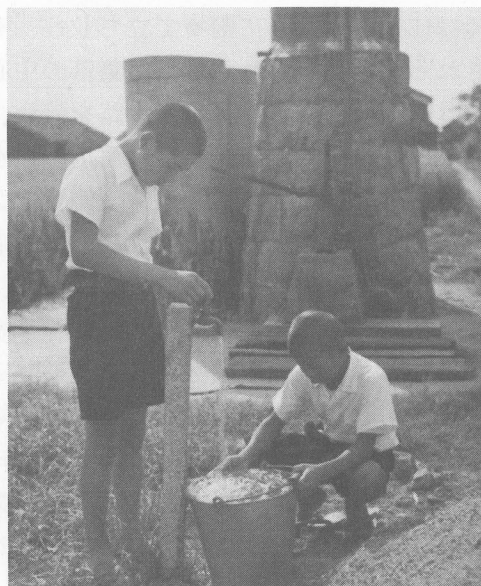
#### (5) 政津・二間川の濾過槽

現在は取り壊されており、痕跡自体も見られないが、政津・土手根濾過槽の地点からその用水路をやや下った集落にも、4槽式の濾過槽があった<sup>17</sup>。砂川から取水された用水は幹線の用水路で東から西へ流路を取るが、その幹線用水路から枝分かれして新田を北から南へ貫く数本の用水路があり、その一つとして二間川がある<sup>18</sup>。この濾過槽は、二間川の最上流部、つまり幹線用水路との分岐点に設置されていた<sup>19</sup>。

濾過槽は簡易な小屋の中（トタンの上屋根に板囲い）へ4本のコンクリート製ヒューム管の水槽が田の字形に配置され、第1槽と第2槽が濾過槽、第3槽と第4槽が貯水槽で、揚水は足踏みポンプであった。この足踏みポンプの負担は大きく、農作業の季節労働者が夜間に命じられて水汲みをした際などは、ポンプを踏むことも大儀で、追加の揚水をせず汲みっぱなしのままにしていたことも多く、よく槽内の水が空になっていたことから、後の揚水が大変であったという。

築造年代は不明であるが、およそ戦中・戦後にかけて政津・土手根および二間川の集落約50軒が使用しており、先に示した政津・土手根の濾過槽付近の住民も、こちらの水のほうがきれいということで、よく汲みに来ていた。また二間川下流の集落や、集落北側の砂川を挟んだ対岸の集落など、遠方からも猫車にブリキの水担桶を載せてよく汲みに来ており、これには少し大きくなった子どもらも手伝っていたという<sup>20</sup>。

濾過槽の維持管理は受益者負担を原則として、毎年田の水が落ちる秋口頃になると、濾過槽の掃除を行った。槽内の砂や砂利をバケツに入れて取り出し、婦人たちはそれを手分けして杓文字を手バケツの中の砂をかき回して洗った。濾過槽の設置はそうした受益者が金銭を支出して実現したようだが、この土地は他の例と同様、個人の所有地であった。



第15図 政津・二間川の濾過槽と水道の共同栓

(昭和31年9月、溝口尚正氏提供)